

教育研究業績書

2023年5月1日

氏名 井上 真理子

著書・学術論文などの名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概要
(著書)				
「成人学習者とは何かー見過ごされてきた人たち」	共著	2013年9月	鳳書房 マルカム・S・ノールズ著“The Adult Learner”翻訳	成人学習の理論を古典的学習理論から出発し、ペダゴジーからアンドラゴジーへの学習形態の変容と成人学習者の学習理論をマルカム・S・ノールズが系統だてて著したものの共同翻訳。第4章「学習理論とは何か」について担当し、翻訳した。 (堀薫夫・三輪建二他, 井上真理子)
「現場の視点で新要領・指針を考え合う」	共著	2017年6月	ひとなる書房 142ページ	平成29年告示の新要領・指針の改定に伴い保育者の専門性や育成に対してどのような変化が求められているのか、現場の実態と新要領・指針がねらう質向上について、「カリキュラム・マネジメント」「キャリアパス」「保育者のキャリアと研修」という視点から解説する。子どもの多様性を認めることのできる保育者の専門性や組織としての園における保育者の役割の重要性を唱え、保育者の学び手としての主体性を検討する。 (pp:91～97)
「人材育成ハンドブック」	共著	2019年3月	金子書房	現代の社会の動向を踏まえ、産学官の視点から人材育成に関する理論・実践・話題を人材育成学会の研究領域をベースにまとめたもの。キーワードとして「組織マネジメント」について解説した。(p.643)
「保育士等キャリアアップ研修テキストシリーズ vol.7 マネジメント」	共著	2019年6月	オフィスポケット株式会社	リーダーシップ、人材育成、理念ワーク (p.14-24, p.30-40) 組織の中で活躍するミドルリーダーの役割、後輩保育士の育成、組織理念を実現するためのリーダーの役割と保育の評価について解説している。 (須永進監修、井上真理子、坂田哲人、須藤真紀)
「保育士等キャリアアップ研修テキストシリーズ vol.8 保育実践」	共著	2019年6月	オフィスポケット株式会社	環境を通して行う教育・保育の意義、組織的な保育実践と保育の計画 (p.5-8, p.44-53) 乳幼児教育において環境がなぜ重要とされているのか、組織的に保育を実践し、質の高い保育を提供するために計画との関係性を解説している。 (須永進監修、井上真理子、小林直美、坂本喜一郎、田澤里喜)

「採用と育成の好循環を生み出す園長の仕事術—子ども主体の保育を実現するリーダーシップ」	共著	2020年3月	中央法規出版	第5章、育成の仕事術、保育者を育てる組織と園長の役割(p.214-225) 保育現場における組織マネジメントの中でも、人材育成と方法論と組織理念の実現との関係における管理職の意識や取り組みについて解説している。 (田澤里喜・若月芳浩編著、井上眞理子、松山洋平他)
これからの時代の保育者養成・実習	共著	2020年12月	中央法規出版	子ども主体の保育への転換が求められる中、保育者を養成する視点で、養成校教育の内容と共に実習における学びのあり方、質、実習での経験を問い直す必要がある。実習におけるこれまでの「当たり前」を捉えなおし、保育の仕事の楽しさや奥深さを体験できる実習のあり方を模索し、それに伴う実習での指導の指南書として、学生、養成校、保育現場活用できるテキストとなっている。 第2章1節「今までの学びを大切にしよう」p.34-35、第5章3節「部分実習とは」p.118-119、第4節「責任実習とは」p.122、「実習園の先生方へ」p.136 (大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里喜編著、井上眞理子・宮崎豊他)
トライアル・アンド・エラーに学ぶ 質の向上を目指す保育マネジメント」	共編著	2021年7月	中央法規出版	保育の質向上のためには、チャレンジしていこうとする「試行」と何度も立ち止まって考える「錯誤」のプロセスが欠かせない。保育実践と保育現場の両者のトライアルアンドエラーの実践プロセスを紐解きながら、保育マネジメントの実現のための実践からのエッセンスを紹介、解説する。(井上眞理子・田澤里喜・田島大輔編著／亀ヶ谷元謙・田中健介・長谷川真紀他執筆)
「アクティベート保育学12 保育・教育実習」	共著	2022年1月	ミネルヴァ書房	第2章「実習の内容と課題」として、実習にはステップがあり、それぞれの段階に応じた学習内容があることを理解すること。養成校のカリキュラムにおける実習の位置づけを理科し、それぞれの実習の到達目標を把握した上で、自己の課題を明確化する。保育の実態の理解が深まるように、多角的に保育を捉える視点を整理し、実習に臨む準備を行う。これらの理解のためにワーク等を通じて、授業内での取り組み内容を提示した。PP.15-29(汐見稔幸・大豆生田啓友監修／矢藤誠慈郎・高嶋景子・久保健太編著／井上眞理子・開仁志・須永美紀他執筆)
幼稚園・認定こども園 キャリアアップ研修テキスト マネジメント	共著	2023年2月	中央法規出版	第4章第1節聖人教育学の観点から、「大人の学び手」としての保育者の学びや成長の特性を理解することを目的としている。プロフェッショナルとしての保育者の成長プロセス、とりわけ、ドナルド・A・ショーンのリフレクション(省察)に基づく実践の振り返りをもとに成長するメカニズムから、保育者としての自己の成長を捉える。さらに、園内における学びのシステムの構築から、園内における学び合う組織づくりについて解説する。PP.82-90(小田豊・秋田喜代美編集／岡健・岩立京子編著／井上眞理子・亀ヶ谷元謙他)

(研究助成)				
園内における保育士の専門性発達モデルの構築と園内マネジメントのあり方に関する研究 基盤研究(C)	研究代表	2015年採択 (平成28年度 ～ 平成30年度)	日本学術振興会	「個々の保育士の成長」という観点だけでなく、園組織が保育士の成長をどのようにマネジメントするのか、すなわち「保育士の成長を促す園内マネジメント」という観点から保育士の育成の課題を検討する。保育士の発達段階に即した育成促進要因を明らかにし、促進要因を生み出す園内マネジメントのあり方及び園内における保育士人材育成モデルを開発する。(井上真理子、坂田哲人)
保育者の成長志向性と組織要因との関連における保育者の成長モデルの構築に関する研究 基盤研究(C)	研究分担者	2016年採択 (平成29年度 ～ 平成31年度)	日本学術振興会	組織の中に位置づけられる保育者個人の成長モデルを明らかにし、その志向性やプロセス、成長に影響を与える経験を保育者自身の語りから抽出、分析することを目指す。(坂田哲人、井上真理子)
保育者の成長プロセスに応じた専門性向上の機会のあり方に関する研究 基盤研究(C)	研究分担者	2020年採択 (2020年度 ～ 2023年度)	日本学術振興会	組織の中に位置づけられる保育者個人の成長に影響を与える学びの機会や経験を分析し、組織の中で保育者の専門性が向上するプロセスのモデル化を目指す。(坂田哲人、井上真理子、高橋優子)
文部科学省科学研究補助金 基盤研究(C)21K02423 「保育の質をもたらす組織の質及び自律型組織の成長モデルに関する研究」	研究代表	2021年採択 (2021年度 ～2023年度)	日本学術振興会	本研究における「質の高い組織」とは、外部・他者による組織改善に頼らずとも、組織が自ら自律的に自園の成長段階を認識し、課題を設定した上で、必要な方策を講じて成長を実現できること、また既存の評価軸や社会的価値に縛られることなく、新たな価値を創造することができる組織である。組織の質は様々な要素が相互に影響し合、実態をつくっている。組織の質を規定する要素と関係性を明らかにし組織の成長プロセスのモデル化、指標の開発により、組織の成長度と成長のための課題と方策を園自身が把握し、組織の質向上、それに伴う保育の質向上を実現する組織のあり方、成長プロセスをバックアップする手立ての開発を目指す。(井上真理子、坂田哲人、松井剛太、田澤里喜、松山洋平、高橋優子、伊藤路香)

(学術論文等)				
修士論文「子どもの学びと発達の本質:フロー理論から創造性研究への展開」	単著	2010年3月	香川大学 修士論文 59ページ	幼児期の子どもの学びと発達のあり方について、チクセントミハイのフロー理論をもとに理論的に考察し、「楽しさ」に導かれた主体的な活動に内在する成長するメカニズムを構造的に捉えるものである。子どもの「個」としての発達の様子から、子どもを取り巻く環境との「関係性」の中での発達、子どもの発達を支えるシステムを、DIFIモデルから捉え、創造性を培う学びの経験を検討する。
研究論文「子どもの学びの本質:フロー理論からの考察」 (査読付き)	共著	2010年3月	香川大学教育実践 総合研究第20号 13ページ	子どもの学びの本質について、チクセントミハイのフロー理論を用いて考察し、子どもの「動機づけ」「経験」「パーソナリティ」の3つの視点から子どもの学びの構造を捉える。現在の幼児期の早期教育の発達観と子どもの自発的な活動による発達観についての相違点を考察する。(共同研究につき抽出不可、基礎理論研究、分析と考察を担当)(pp:45-57)
研究論文「早期教育の実践から考える:3歳児、こうじとてっぺいの実践からの考察」 (査読付き)	単著	2012年3月	お茶の水女子大学 生涯学習実践研究 第10号 13ページ	早期教育の現場で観察された3歳児の子どものフィールドノーツを中心に、幼児教育講師として関わっていた筆者が子どもへの関わりをどのように変化させていったのか、実践研究としてまとめている。アタッチメント理論、フロー理論などの心理学的アプローチと実践から得られた知見をまとめる。 (pp.1-13)
研究論文「保育者養成校における学生の学びに関する一考察:『ふり返りシート』を通じて私がとらえたもの」 (査読付き)	単著	2013年3月	お茶の水女子大学 生涯学習実践研究 第11号 12ページ	保育者養成校における学生の学びの現状を踏まえ、保育者を志す学生が積極的、能動的に授業に参加できる授業展開についての実践研究である。学校教育の中で身に付けた受動的・消極的な学びの姿勢をもつ大学生が、主体的・積極的な学びの構えを獲得するきっかけをつかむプロセスに着目し、保育者として求められる資質を認識し、自己の在り方を変容させる様相を、学生が記載した「ふり返りシート」の記述を分析することによって明らかにした。(pp:1-12)
研究論文「専門性の向上と保育カンファレンス:カンファレンス構造指標モデルの提言」 (査読付き)	単著	2013年3月	お茶の水女子大学 人文科学研究第9巻 12ページ	保育者の専門性の向上のため、園内研修や公開保育などさまざまな保育者の学びの機会が検討されている。本研究では、保育カンファレンスに注目し、専門性の向上に寄与するようなカンファレンスのあり方を考える。保育カンファレンスの構造と保育者の学びの関係を明らかにする上で、保育者へのインタビューで得られたデータを質的に分析し、「カンファレンス構造指標モデル」を考案し、提示する。(pp:71-84)

<p>研究論文「園内における保育士の専門性発達のプロセス:TEM(複線径路・等至性モデル)による保育士の成長プロセスの分析」 (査読付き)</p>	<p>共著</p>	<p>2015年3月</p>	<p>洗足論叢 第44号 14ページ</p>	<p>保育者が園内(組織)の人間関係の中でどのように成長していくのか、そのプロセスに着目し、新任保育者からクラスリーダーと成長する保育士へのインタビューから、質的分析手法TEMを用いて分析する。保育士の成長は直線的ではなく、苦悩と葛藤を経て、仕事へのモチベーションを高低させながら、園内の人的環境に影響を受けながら視点を変容させていく過程を明らかにした。(共同研究につき抽出不可。研究デザイン、対象者へのインタビューと分析、考察を担当)(pp:117-130)(井上眞理子・坂田哲人)</p>
<p>研究論文「ふれ合い体験プロジェクト」から生まれる新たな保育者養成の検討—導入園の保育者を対象としたアンケート調査から— (査読付き)</p>	<p>共著</p>	<p>2020年3月</p>	<p>保育者養成教育研究 第4号 11ページ</p>	<p>保育の魅力を感じ合う共同体としての対話的な養成のあり方を探ることを目指し、ふれ合い体験に対する保育者の意識や導入による変容を分析した。その結果、保育者は保育の魅力に注力できるふれ合い体験の意味を高く認識しており、保育経験年数を経るごとに学生観・養成観の変容の割合が高まっていた。また、指導・評価が伴わない出会いの中で、学生の生き生きした姿の表出を感嘆と共に感受する保育者のまなざしが生まれ、学生に寄り添う関わりへの変化や、養成への喜び・意欲がもたらされていた。本結果から、あるべき姿にとらわれがちな従来の一方的な養成を脱し、保育の魅力を共に感じ交わし合う新たな養成の可能性が示唆された。(共同研究につき抽出不可。研究デザイン、対象者へのインタビューと分析、考察を担当)。(金元あゆみ・佐藤晶子・井上眞理子・坂本喜一郎)</p>
<p>研究ノート「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育む授業の検討-「実習日誌」及び「保育者ための文章表現授業」アンケートからの分析-」(査読付き)</p>	<p>共著</p>	<p>2021年2月</p>	<p>洗足論叢 第49号 p.81-95</p>	<p>保育の初学者としての短大養成校1年生における保育記録を書くことを通して、保育を見る視点を養うことを目的とした授業実践を分析する。「書く」ことに対しさまざまな課題をもつ保育学生が増えていることを受け、その困難さを克服しつつ、保育者としての「視点」を育むための授業に対して、学生の学びの変容を分析する。(共同研究につき抽出不可能。研究デザイン、アンケートデータの分析と考察を担当)。(井上眞理子・向笠京子・長島万里子・高橋優子・伊藤路香・上田よう子)</p>
<p>The Educational Intention behind Non-Intervention: A Case on the Japanese Mimamoru Approach as Early Childhood Teachers' Professionalism (査読付き)</p>	<p>共著</p>	<p>2021年6月</p>	<p>Croatian Journal of Education, vol23. No.4, 2021 pp.1115-1138</p>	<p>子どもの主体性を育むため、日本の保育者は「見守る」という教育的アプローチを行う。このアプローチの背景にある保育者の意図や教育効果について、3名の保育者を対象にした調査を実施した。フォーカスグループインタビューにより得られたデータをSCATにて質的に分析し、「見守る」アプローチの構造とそれに伴う保育への影響について分析した。(中坪史典・上田敏文・吉田貴子・井上眞理子・中西さやか・境 愛一郎・Lok-Wah Li)</p>

(学会発表)				
「幼児期に『学ぶべきこと』『学びうること』—発達、能力の伸長の原動力『フロー理論』からの考察: 早期教育を視野に入れて」	単独	2009年5月	日本保育学会第62回大会	早期教育の現場で観察された幼児期の子どもの学習や発達の様子について、チクセントミハイのフロー理論をもとに分析、考察する。子ども自身が認識する「能力の高さ」と「挑戦の高さ」の程度のバランスによって、子どもの心的状態が変化することを考慮し、没頭経験がもたらす子どもの発達への影響を検討する。
「幼児の『一人遊び』の考察—没頭経験がもたらす発達の意義」	単独	2011年5月	日本保育学会第62回大会	保育現場では子どもの協働性が重視される中で、子どもが自己の関心をもとに没頭して遊ぶ姿も見られる。社会性の発達と没頭経験との関係について、子どもが没頭して遊ぶ姿を参与観察し、ビデオ撮影によって得られた子ども活動データを分析する。没頭することのできる遊びの形態について考察する。
「“Why do Japanese Early Childhood Teachers Lead or Intervene with Young Children Differently from American Teachers?” The Mimamoru Methodology and Professionalism in Early Childhood Education and Care in Japan	共同	2011年11月	全米幼児教育学会 NAEYC Annual Conference & Expo 2011	米国保育においては、intentional teachingとして明確な目的をもって意図的に子どもに関わることが保育者の専門性として求められるようになってきている。一方、日本の保育においては「見守る」という保育アプローチがあり、単に子どもに任せるだけでなく、一つの教育的関わりとして大切にされている。「見守る」の構造を明らかにするために、多声的エスノグラフィーを用いて、3人の保育者を対象にインタビューをしたデータを質的に分析した。 (中坪史典, 上田敏文, 吉田貴子, 井上眞理子)
「『おやじの会』における男性の経験の考察: おとなの学び合いの場—SCATを用いた語りの分析から」	単独	2011年11月	日本質的心理学会第8回大会	男性の育児参加の一つの形態として幼稚園や小学校の活動に父親が参加する「おやじの会」が全国規模で広がっている。「おやじの会」での経験が男性にどのような学びを提供するのか、積極的に活動を行う父親に対しインタビューを行い、そのデータを質的研究法SCATを用いて分析する。
「保育者の力量形成—保育カンファレンスで『何を』省察するのか」	単独	2012年5月	日本保育学会第65回大会	保育者の学びの機会としての保育カンファレンスが注目される中、ビデオカンファレンスやエピソード記述などの方法論の議論が盛んになっている中で、保育者の学びに繋がるカンファレンスはその中で保育者が「何を」語り省察を行っているのかについて言及する必要がある。Onion Modelを用いて省察の内容の段階を示しカンファレンスのあり方を検討した。
「遊びの自由性に関する考察」	共同	2012年5月	日本保育学会第65回大会	子どもの自由遊びの意義を検討するにあたり、「自由性」の捉える枠組みを、パーリンの消極的自由と積極的自由の概念を用いて検討した。子どもの遊びを見る視点としては積極的自由の視点から保育者の関わりを検討することが必要であることが明らかになった。(松井剛太・井上眞理子)

「保育者の力量形成—保育カンファレンスにおける省察のあり方」	単独	2012年10月	日本社会教育学会 第59回大会	保育者の専門性を向上させるようなカンファレンスにあり方を探るために、保育者へのインタビューにより得られたデータを質的に分析した。「カンファレンス構造指標モデル」を提示した上で、保育者のカンファレンスでの学びの内容及び経験の内容を分析した。
「How Do the US Teachers Recognize the Japanese Mimamoru Approach in Early Childhood Education and Care」	共同	2012年11月	全米幼児教育学会 NAEYC Annual Conference & Expo 2012	アメリカの保育者にとって日本の保育者が大切にする「見守る」というアプローチはどのように捉えるのかを、3名のアメリカ人保育者にインタビューし質的研究法SCATを用いて分析した。「見守る」ことによる幼児期の教育は重要であると思うが、アメリカの保育システムにおいては実現は難しい。アメリカの保育者は「オーケストラの指揮者」のような機能を有していると保育者が認識していることが明らかになった。
「保育者観の形成プロセスの考察：保育者養成校の学生の意識に関する検討—質的分析手法SCATを用いて」	単独 口頭	2014年5月	日本保育学会 第67回大会(大阪)	保育者養成校の専門学校において、学生が保育者の役割や保育者の資質についてどのように理解するのかについて、その意識の変容のプロセスを質的分析手法SCATを用いて分析した。学生は養成校でのカリキュラム内容の他に、教育の意識や力量によって、その理解の深まりに影響を受けていることが明らかとなった。
「保育所乳児保育担当者研修会における効果測定手法と結果の考察」	共同 ポスター	2014年5月	日本保育学会 第67回大会(大阪)	乳児保育担当の保育者の研修会における受講者の理解度及び現場での活用度について、研修会終了直後と3か月後の2回について縦断的なアンケート調査を行い、結果を分析した。活用度に関しては3か月後に値が低くなっている項目がある。研修の内容についての現場での共有方法には園の現状に大きな差異があり、活用度と共有できる園環境との関連性が明らかとなった。(今井豊彦・井上真理子)
保育者観の形成プロセスの考察：保育者の資質に関する学びのプロセス—ALACTモデルからの検討	単独 口頭	2015年5月	日本保育学会 第68回大会(名古屋)	養成校教育の中で学生がどのように保育者としての資質に関する学びを展開していくのかを理論的に検討する。単なる知識としての理解を超えて、自己の行動を振り返り、照らし考えることによる理解に到達するプロセスを、ALACTモデルの5段階から検討する。
保育士不足が保育の質に与える影響：日本保育士協会調査結果から	共同 ポスター	2015年5月	日本保育学会 第68回大会(名古屋)	深刻化する保育士不足の問題が保育現場に与える影響、特に保育の質にどのような影響を与えているのか、日本保育士協会が行った調査結果から検討する。(今井豊彦・井上真理子・小野田晴世・塩谷香)

「ふれ合い体験」(プレ実習)の意義とその効果: 日本保育協会神奈川県支部が発信するプレ実習体験をもとに	共同 ポスター	2015年9月	全国保育士養成協議会第54回研究大会	日本保育協会神奈川県支部の「ふれ合い体験」は、学生が抱く実習に対する負の要素を回避し、むしろ現場における保育実践の面白さ、子どもの成長する姿への純粋な感動や可能性を純粋に感じることによって、専門職への理解を深め、養成教育へのモチベーションを高める効果をねらっている。この取組に参加した学生、及び受け入れ園へのアンケート調査結果から、養成施設での学習の深化をもたらす経験となる学生への影響や、園の保育の振り返りの機会となる受入園への影響などが明らかになった。(坂本喜一郎・佐藤康富・井上真理子・金元あゆみ・松山洋平)
保育者の人材育成に関わる人的要因と組織マネジメント(1): 後輩育成に関する現状と課題	共同 口頭	2015年12月	人材育成学会 第13回年次大会	全国の保育所における人材育成の課題と現状を明らかにするため、2015年度に日本保育協会で行った調査結果をもとに、保育士のステップアップに対する意識や保育所経営の側面から人材育成に関するマネジメントの意識を分析した。(坂田哲人、井上真理子、今井豊彦)
保育者の人材育成に関わる人的要因と組織マネジメント(2): 後輩育成の力量形成のプロセスと要因の検討	共同 口頭	2015年12月	人材育成学会 第13回年次大会	園内における保育者の人材育成に寄与する「後輩を育成する保育者」の役割に着目し、意図的に後輩を育てようとする保育者への成長プロセスを質的分析手法TEM及びSCATを用いて分析する。人的要因を中心に4つの観点を導き出した。(井上真理子、坂田哲人、今井豊彦)
未来の保育を担う人材の育成を考える: 保育現場と養成校の連携、新たなステージへの展開	自主 シンポジウム	2016年5月	日本保育学会 第69回大会(東京)	保育者養成に求められる実践力を備えた人材の養成をめぐり、保育者養成校の学生の実態や意識を踏まえ、現場と養成校が連携していく形を模索し、あらゆるミスマッチに向き合いながら、学び手としての学生を尊重した関係性構築への手がかりを討論する。 (企画・司会: 井上真理子 話題提供: 金元あゆみ・坂本喜一郎・松山洋平・三橋貴文)
保育現場における園組織が取り組む人材育成の現状と課題(1)	共同 口頭	2016年5月	日本保育学会 第69回大会(東京)	保育現場における人材育成の現状を踏まえ、園組織における要因が人材育成のメカニズムや個人の成長に対する意欲に対し、どのような影響を与えているのか、管理職者の考え、組織要因、人材育成の意欲の関係性を検討する。(坂田哲人・井上真理子・今井豊彦)
保育現場における園組織が取り組む人材育成の現状と課題(2)	共同 口頭	2016年5月	日本保育学会 第69回大会(東京)	保育者の成長や育成に大きな影響を与える管理職のマネジメント。組織の存在意義としての保育理念の実現と人材育成の関係性を検討する。理念実現のために課題となっている具体的な要因を検討し、管理職研修におけるこれからの展開を模索する。(井上真理子・坂田哲人・今井豊彦)

保育内容「人間関係」・「言葉」の科目間連携による授業展開	共同ポスター	2016年5月	日本保育学会 第69回大会(東京)	「保育内容・人間関係」と「保育内容・言葉」の科目を通じ、共通教材を用いることにより学生が保育理解を多角的に捉えることができるのではないかと仮説のもと、言葉の発達とともにすすむ人間関係の在り方、コミュニケーションが深まる子どもの実態に気付く授業展開の研究を行った。(神蔵幸子・並木真理子・曾野麻紀・桃枝智子・井上真理子)
児童文化教材作成と指導案立案をつなぐ授業展開の課題ー「保育内容・言葉」の授業における学生の意識調査から	共同口頭	2016年11月	乳幼児教育学会 第26回大会(神戸)	児童文化教材の作成から、指導案立案の学習過程において、学生がどのような意識のもとに教材作成や指導案立案を行っていたのかを調査し、授業展開のどこに課題があったのかを明確にする。子どもに伝えたいことを具体的に言葉や作品に具現化する力の育成や子どもの視点で行う自己評価のスキルを養成することが課題であることが明らかとなった。(並木真理子・井上真理子・岡本かおり)
未来の保育を担う人材の育成を考える:養成教育における学びの意義を問い直す	自主シンポジウム	2017年5月	日本保育学会 第70回大会(倉敷)	保育者を志す養成校学生が、実習をはじめとする現場体験や養成校教育を通して何を感じ、何を学んでいるのか、保育者になる学びのプロセスを学生の視点から捉え直し、これからの保育現場を担う人材の育成である学生にとって、真に必要な学びとは何かを追求する。保育現場と養成校の連携のあり方、実習と実習指導の意義、が療湯主体の現場体験における学びのテーマに検討を深める。(井上真理子・金元あゆみ・坂本喜一郎・松山洋平)
保育所開設時における管理職が抱える課題～世田谷区保育施設開設前支援プログラムの事例から～	共同口頭	2018年5月	日本保育学会 第71回大会(仙台)	待機児童解消のため世田谷区が保育の量の充足のために認可保育施設を開設するにあたり、質の確保を目指すべく取り組んでいる開設園に対する研修プログラムの事例から、保育施設をスタートアップさせるための現場における課題を精査した。保育の質の向上のためには、園組織の安定と成長に影響を与える管理職の育成が必至である。(坂田哲人・井上真理子・今井豊彦)
組織マネジメントにおける管理職が抱える課題～保育マネージャー養成講座の事例から～	共同ポスター	2018年5月	日本保育学会 第71回大会(仙台)	管理職を対象とした研修プログラムを開発するプロセスの中で、職員の育成や組織づくりの要となる組織マネジメントの力量の育成が、保育施設の管理職に不足していることに鑑み、マネジメントに特化した研修プログラムの実施内容からマネジメント研修の実態と今後の課題を明らかにした。(今井豊彦・坂田哲人・井上真理子)
保育所の組織的な要因との関連における保育者の成長・キャリア形成の現状と課題	共同口頭	2018年	日本乳幼児教育学会 第28回大会(岡山)	全国調査「」のデータをもとに、保育士等キャリアアップ研修の実施が現場に与える影響について、分析を行った。保育士が園の中で成長、キャリア形成をしていくにあたり、組織的な影響要因を明らかにするとともに、組織マネジメントをつかさどる管理職の状況と職員のキャリア意識への影響を中心に分析を行った。(坂田哲人・井上真理子・今井豊彦)

現場と養成校の協同による現場経験の可能性を模索する	大会企画 シンポジウム	2021年3月	日本保育者養成教育学会 第5回大会(東京)	「ポスト・コロナ」時代の保育者養成教育をどう描くのか～コロナ禍をきっかけに顕在化した実習教育についての諸課題 企画:岡健 シンポジスト:矢藤誠慈郎・丸山純・井上眞理子 コーディネーター:石井章仁 シンポジストとして、短大養成校におけるコロナ禍での実習をはじめとする現場経験の実態と制限がある中でも保育者養成として欠かすことのできない教育の可能性を探り、現場との協働のあり方を提唱する。
就学前施設と養成校の協同による保育者養成	共同ポスター	2021年3月	日本保育者養成教育学会 第5回大会(東京)	コロナ禍の養成教育の可能性として、従来の幼稚園での見学実習が実施できない中、幼稚園の環境を動画で撮影し作成したオンデマンド教材を活用してその理解の可能性と課題を探る。(伊藤路香・井上眞理子・上田よう子・高橋優子・田澤里喜)
子どもの人権を尊重する保育-保育者の自己評価から見えてくる現状と改善に向けての考察～川崎市多摩区公私立認可保育園の取り組み～	共同口頭	2021年5月	日本保育学会 第74回大会 (オンライン)	保育の質向上のために欠かすことのできない子どもの人権に配慮した保育の実現に向け、川崎市多摩区において、行政・現場・養成校の協働により、現場主体の自己評価の指針としての「チェックリスト」を作成したプロセスの報告及びその取り組みにより保育者の認識の変容の実態を明らかにする。(山口高志・船津篤子・近藤康子・山梨優佳・高橋孝子・福田和子・山下康代・井上眞理子)
コロナ禍における保育所の実習生受け入れ態勢の実態及び感染症対策、職場環境についての調査研究 第1報	共同口頭	2022年3月	日本保育者養成教育学会 第6回大会 (オンライン)	コロナ禍における保育所実習実現のため、現場と養成校の協働による、現場(子ども・職員)及び実習生の安全に配慮した実施方法について探る。保育所に対するアンケート結果から見えるコロナ禍における現場の実習に対する認識を量的に調査し分析した。(向笠京子・長島万里子・井上眞理子・坂田哲人・高橋優子・伊藤路香・上田よう子)
コロナ禍における保育所の実習生受け入れ態勢の実態及び感染症対策、職場環境についての調査研究 第2報	共同口頭	2022年3月	日本保育者養成教育学会 第6回大会 (オンライン)	コロナ禍における保育所実習実現のため、現場と養成校の協働による、現場(子ども・職員)及び実習生の安全に配慮した実施方法について探る。保育所に対するアンケート結果から見えるコロナ禍における現場の実習に対する認識を質的に分析した。(長島万里子・向笠京子・井上眞理子・坂田哲人・高橋優子・伊藤路香・上田よう子)
トライアル・アンド・エラーに学ぶ 質の向上を目指す保育マネジメント～試行錯誤のプロセスから捉える保育の質向上の検討～	自主シンポジウム	2023年5月	日本保育学会 第75回大会 (オンライン)	保育の質向上を目指し、保育の実践の改善に向けて、日々、保育者は試行錯誤を繰り返して、葛藤を経て、より良い保育を目指そうとしている。保育者のそのような営みが可能となるためには、それを認め、許す園の方針や組織風土、職員関係が不可欠であり、実践とマネジメントの両軸から検討することが欠かせない。今回は、行事の転換をめぐる質向上の実践を紐解き、試行錯誤のプロセスの実態に迫る。(井上眞理子・田澤里喜・亀ヶ谷元謙・西井宏之)

「行事」の転換が保育者・組織の実態に及ぼす影響に関する質的研究～「劇あそび」から「チャレンジ活動」への転換を可能にした組織要因～	共同 口頭	2023年5月		恒例となっていた「劇あそび」の行事をコロナ感染防止の観点で、変更せざるを得なくなったことを契機に、より教育理念に基づく行事のあり方へと変容する実践及び組織の変容プロセスを、管理職の視点と職員の実感を重ね、質的に分析することにより、「実践」と「組織」の両面の変容の実態を明らかにした。管理職の認識との相違から、マネジメント的な課題に迫る。(亀ヶ谷元謙・井上真理子・田澤里喜)
保育者のキャリアと成長を支えるマネジメントに関する研究～園長・主任・職員の三者のマッチングデータから捉える組織要因の分析～	共同 ポスター	2023年5月		2018年に実施した全国認可保育所500園を対象にした質問紙調査の結果から、施設長・職員の両者から回答が得られたデータを用いて、マルチレベル分析を行った。「園長の日頃からのコミュニケーション」「園長のリーダーシップと職員のギャップ」「職員のライフプラン・キャリア志向の理解」「園長の外部とのコミュニケーションのあり方」の4点から考察した。(井上真理子・坂田哲人)
(社会的活動等)				
保育所保育士研修等評価委員会 委員		2012年度 ～2014年度	日本保育協会	
日本保育士協会 調査研究委員会 委員		2012年度 ～2016年度	日本保育士協会	
自主研修事業検討委員会 委員		2015年度 ～2019年度	日本保育協会	
世田谷区保育運営事業者選定委員		2015年度 ～2022年度	世田谷区	
養成校との連携を考えるWG アドバイザー		2015年度 ～2022年度	日本保育協会 神奈川県支部	
人材開発・組織マネジメントアドバイザー		2017年度～ 2020年度	HITOWAキッズライフ 株式会社	
世田谷区保育運営事業者選定基準委員		2017年度～ 2022年度	世田谷区	
『保育所における自己評価ガイドライン【改訂版】(試案)』の試行検証に関する調査研究事業」調査研究チーム訪問調査員		2020年度	厚生労働省	
評議員・人材開発室顧問 コンプライアンス第三者委員		2020年度 ～2023年度	社会福祉法人 厚生館福祉会	
人材育成マネジメント 教育アドバイザー		2020年度 ～2023年度	株式会社 小学館アカデミー	
保育実践充実コーディネーター		2022年度 ～2023年度	世田谷区 教育委員会	
保育士養成課程等検討会 構成員		2022年度 ～2023年度	厚生労働省	

保育分野におけるICTの導入効果及び普及促進方策に関する調査研究 委員		2022年度	厚生労働省	
第三者調査委員		2023年度	社会福祉法人千葉学園 ほほえみ保育園	
世田谷区立公立保育園における事例検証委員		2023年度	世田谷区	
(講演・研修会等)				
習志野市保育所・こども園職員研修会	講師	2015年10月	習志野市	保育の充実につながるリーダーとしての役割を学ぶ
第37回全国青年保育者会議 佐賀大会 第4分科会	講師	2015年11月	日本保育協会青年部	保育園における人材育成と保育士のキャリアパスを考える
全国保育所理事長・所長研修会第4分科会	講師	2015年11月	日本保育協会	人材育成と保育士確保のための職場環境を考える: 保育士養成校と保育現場とのミスマッチ
平成28年度 世田谷区 保育実習指導研修会	講師	2016年6月	世田谷区主催	演題「未来の人材を確実に育て確保するために—実習指導、新人研修の可能性を探る」
平成28年度 静岡県 教員募集・採用研修会	講師	2016年6月	静岡県私立幼稚園振興協会主催	演題「未来の人材を確実に育て確保するために—実習指導、新人研修の可能性を探る」
平成28年度 習志野市保育所・こども園職員研修「職種別研修(所長・室長会)」	講師	2016年6月	習志野市主催	演題「時代の変化に対応しうる所長・室長としての資質向上を目指す」
平成28年度 働きやすい環境づくりセミナー	講師	2016年8月	日本保育協会主催	プログラムⅠ「働きやすい環境づくり—保育者の実感から」 プログラムⅡ「組織運営上におけるメリット」
働くための環境をどうつくる	講師	2016年9月	simply design主催	演題「未来の保育者が考える働きやすさとは」
今、求められるリーダーを育てるには	講師	2016年12月	わくわくBase株式会社主催	「人が主体的に動く組織づくりに向けて」
平成29年度 豊島区施設長研修	講師	2017年6月	豊島区主催	「保育における人材育成、職員集団づくり」
平成29年度 園長・施設長講座	講師	2017年7月	横浜女子短期大学 保育センター	「保育に求められるリーダーシップの育成」
平成29年度 保育士等のキャリアと育成セミナー	講師	2017年8月	厚生労働省委託事業 日本保育協会主催	「保育士等職員の資質向上に向けて～管理職の役割・キャリアパスの構築」

第39回 全国青年保育者会議	講師	2017年9月	日本保育協会青年部主催	「これからの保育園に必要なリーダー・中堅保育士の育成を考える」
平成29年度 第3回保育セオリー研修	講師	2017年11月	栃木県幼稚園連合会主催	「保育者の育成と組織マネジメント」
平成29年度 日本保育協会新潟県支部青年部研修会	講師	2018年2月	日本保育協会新潟県青年部主催	「これからの保育を担う職員の育成」
宮城県 大崎保育研究会「職員研修会」	講師	2018年7月	宮城県大崎保育研究会	「主任・副主任・専門リーダーを中心に育ち合う組織へ」
平成30年度 世田谷区保育課実習指導研修	講師	2018年8月	世田谷区主催	「実習生の受け入れについて学ぶ」
保育所等マネジメント研修会～副主任対象	講師	2018年9月	日本保育協会	「マネジメントの理解」
川崎市幸区 全体園長連絡会議講演会	講師	2018年9月	川崎市幸区	「職員の人材育成について:職員を育てるための環境づくりと園長のリーダーシップ」
平成30年度 豊島区子ども福祉研修「副園長・主査・リーダー研修」	講師	2018年11月	豊島区主催	「組織的な保育の展開とマネジメント」
平成30年度 施設長運営研修会	講師	2018年11月	群馬県保育協議会	分科会「保育現場における人材育成と組織づくり～人材確保と施設長のリーダーシップ～」
川崎市幸区 主任保育士会議講演会	講師	2018年12月	川崎市幸区	「職員の人材育成について:職員を育てるための環境づくりと園長のリーダーシップ」
保育所等マネジメント研修～施設長対象～	講師	2019年2月	日本保育協会	マネジメントの理解～長が果たす組織での役割～
鉄道弘済会 保育所長研修会	講師	2014年度	鉄道弘済会	鉄道弘済会が運営する保育所の所長を対象にした研修会において、保育所長の専門性高めるため、保育所における人材を育成するテーマで講演を行った。
日本保育協会神奈川県支部 施設経営懇談会	講師	2014年度	日本保育協会神奈川県支部	日本保育協会神奈川県支部が開催した施設経営懇談会において、保育所と養成校の連携をテーマに、実習の在り方を検討するシンポジウムに登壇した。
日本保育協会 中堅所長研修会	講師	2014年度～2017年度	日本保育協会	日本保育協会が主催する中堅所長研修会において、保育所の組織マネジメントをテーマに人材を育成する組織の在り方についての講演を行った。

世田谷区開設前支援プログラム	講師	2014年度 ～2022年度	世田谷区	・保育施設の開設・運営の課題 ・保育所の組織マネジメントと人材育成
保育マネージャー養成講座	講師	2015年度～ 2017年	日本保育協会	・保育理念と組織マネジメント ・自園の人材を把握する ・人材を活かす組織マネジメント ・持続可能な組織づくり
世田谷区開設前支援プログラム フォローアップ研修	講師	2015年度 ～2023年度	世田谷区	1「開設後の現状を把握する」 2「保育の環境構成の現状と課題」 3「自園のアクションプランをつくる」
保育所初任所長等研修会	講師	2016年度～ 2017年度	日本保育協会	組織マネジメントとこれからの保育所づくり
主任保育士等研修事業 保育所等実習指導研修会	講師	2016年度～ 2018年度	厚生労働省委託事業 日本保育協会主催	プログラム4「保育実習～基本編～」 プログラム6「自園における保育所実習」
保育士等キャリアアップ研修 「マネジメント」	講師	2017年度 ～2022年度	神奈川県 神奈川県保育会	「保育の質向上につながる職員育成にリーダーはどう向き合うか」 「保育士等の育成」
保育の質を考え合うシンポジウム	コーディネーター	2017年 1月・10月 2018年 9月	保育の質を考え合う シンポジウム実行委員会主催	「子どもの未来につながる0歳児保育の質」 (汐見稔幸・井桁容子・井上眞理子) 「なぜ乳幼児教育に“共感”なのか」 (佐伯胖・井桁容子・井上眞理子) 「」 (井桁容子・井上眞理子)
平成29年度 保育士育成研修 ※保育士キャリアアップ研修	講師	2017年 7月・12月	神奈川県保育会	「保育の質向上につながる職員育成にリーダーはどう向き合うか」
平成29年度 保育士のキャリアアップ研修 の実施に向けて事前説明会	講師	2017年11月 2018年6月	沖縄県主催	「これからの保育施設に必要な職員育成を考える」 「保育者の育成と組織の課題」
HITOWAキッズライフ株式会社 研修会	講師	2017年度 ～2022年度	HITOWAキッズライフ 株式会社	園長研修・主任研修・新採用者研修
保育士等キャリアアップ研修 「マネジメント」	講師	2018年度 ～2023年度	東京都 公益財団法人総合 健康推進財団	「職員が育つ組織づくり」「リーダーシップ論」「保育現場における人材育成の現状と課題」「組織論の基礎」「保育理念の実現と保育時線」「働きやすい環境づくりと保育の質向上」 「職員の特性を生かしたチームづくり」「未来の保育現場を担う人材育成と実習」
保育士等キャリアアップ研修 「マネジメント」	講師	2018年度 ～2022年度	神奈川県 横浜女子短期大学 研修センター	「保育に求められるリーダーシップの育成」
保育士等キャリアアップ研修 「マネジメント」	講師	2018年度 ～2023年度	川崎市	「保育所等における人材育成」
平成30年度 宮崎県保育連盟連合会研修 ※保育士キャリアアップ研修	講師	2018年 4月・6月	宮崎県 宮崎県保育連盟連 合会主催	「現場で役立つマネジメント～意味あるキャリアアップ研修にしよう」

保育士等キャリアアップ研修 「マネジメント」	講師	2018年 4月・6月	山形県 日本保育協会山形 県支部	「人材育成と組織の環境」「リーダーに求め られる役割」「保育現場における職員育成 の現状と課題」「組織としての保育施設」
園長研修	講師	2018年10月 2019年2月	ベネッセ	「保育の質を高める施設長の役割」 「組織におけるリーダーの役割とコミュニ ケーション」
平成29年度 日本保育協会長野県支部中 央研修会	講師	2018年1月 2019年1月	日本保育協会長野 県支部	「保育の質向上と組織マネジメント」 「保育者の育成と組織マネジメント」
沖縄県 保育施設管理職向け研修	講師	2018年6月 2018年11月	CREATIVE CONSENT	「組織としての保育施設と保育者の専門 性」 「組織的な保育の展開とマネジメント」
保育士等キャリアアップ研修 「幼児教育」	講師	2019年度 ～2023年度	東京都 公益財団法人総合 健康推進財団	「職員が育つ組織づくり」「リーダーシップ 論」「保育現場における人材育成の現状と 課題」「組織論の基礎」「保育理念の実現と 保育時線」「働きやすい環境づくりと保育の 質向上」 「職員の特性を生かしたチームづくり」「未 来の保育現場を担う人材育成と実習」
保育施設長研修～運営管理編～	講師	2019年 1月(大阪) 2月(東京)	日本保育協会	保育所等の組織マネジメントとリーダーシップ
東京都私立幼稚園連合会 研究大会 分科会	講師	2020年度 ～2022年度	東京都 私立幼稚園連合会	
世田谷区 人材育成研修	講師	2020年度 ～2023年度	世田谷区	保育者養成の現状を知り、実習指導を通じ た職員育成のあり方について学ぶ。
社会福祉法人 協愛福祉会 法人研修	講師	2021年度 ～2023年度	社会福祉法人 協愛 福祉会	
保育士等キャリアアップ研修	講師	2021年度 ～2022年度	東京都民間保育園 協会	
関東地区教員研修 神奈川大会	講師	2022年度	全日本私立幼稚園 連合会	特別フォーラム 園長・設置者向け
浄土宗保育協会関東地区研修会	講師	2022年度	浄土宗保育協会関 東地区連絡会	
企業主導型保育事業 施設長等研修	講師	2022年度	児童育成協会	保育施設等における人材育成
教育セミナー	講師	2022年度	日本社会福祉マネジ メント学会	保育現場におけるリーダーシップと組織マ ネジメント

幼稚園保育実践講座	講師	2022年度	福島市教育委員会	
公私幼保合同研修「施設長研修」	講師	2022年度	大阪市	
保育所・認定こども園・幼稚園職員研修会	講師	2022年度	金沢市	
認定こども園・幼稚園・保育所等の教頭・主任等研修会	講師	2022年度	熊本県教育委員会	
香川県私立幼稚園連盟 夏季特別研修会	講師	2022年度	香川県私立幼稚園連盟	
香川県保育協議会 所長研修会	講師	2022年度	香川県保育協議会	
第65回 香川大学教育学部附属幼稚園研究発表会 講演	講師	2022年度	香川大学教育学部	
大田区私立幼稚園 教諭研修	講師	2022年度	大田区私立幼稚園連盟	
大田区立区立保育園 副園長・主任研修	講師	2022年度	大田区	
川崎市保育所等職員研修	講師	2022年度	川崎市	不適切な保育を未然に防ぐために～子どもの人権を尊重する保育～
保育実践充実推進のための中央セミナー	講師	2022年度	厚生労働省	令和4年度 分科会(ア)保育所等における保育内容等の自己評価【基調講演】
(その他)				
「幸福感とは何か—子どもの喜びと充実感を保障する活動と環境」	単著	2012年7月	ひとなる書房 「現代と保育 子どもの心と感情表現」第84号	子どもの「幸福感」について、受け入れられる幸福の他に、子ども自身がつかみ取る幸福の可能性について、チクセントミハイの理論をベースに考察した。自由あそびの中に見出される挑戦の機会とそれを保障する環境のあり方を検討し、保育における環境構成についての視点を投げかける。
「子育て研究第2巻・第3巻 論文ダイジェスト」	共著	2013年3月	日本子育て学会 子育て研究第3巻	子育て研究第2巻、第3巻に掲載された論文について、その研究の方法や結果について、分かりやすく解説したもの。50-51頁担当

「子育て研究第4巻 論文ダイジェスト」	共著	2013年3月	日本子育て学会 子育て研究第4巻	子育て研究第4巻に掲載された論文について、その研究の方法や結果について、分かりやすく解説したもの。36-37頁担当
依頼原稿「学びを深めるために—保育カンファレンスのモデル」	単著	2014年8月	フレーベル館 「保育ナビ」8月号 24-25頁	保育者の専門性の向上において保育カンファレンスが注目されているが、その構造と保育者の学びの関係性を、カンファレンス構造指標モデルを用いて解説する。
座談会「研修の実態調査から考える：今、リーダーの役割とは」	共同	2014年8月	フレーベル館 「保育ナビ」8月号 12-19頁	保育における人材育成が重要視される中で、園外・園内で行われる研修がどのように機能しているかを、実態調査の結果から、現場での保育所長の実践から検討する。特にリーダーである園長の現場で人が育つための果たすべき役割について討論する。
特集「保育体験の新しいデザイン—神奈川県発、Win-Win連携に学ぶ」	共著	2016年1月	フレーベル館 「保育ナビ」1月号 10-19頁	ミスマッチが多かった保育者養成校と保育現場の連携。そのあり方を見直し、互いの存在を認め、対等な関係で保育者を目指す人材の育成に取り組むことの魅力や可能性、保育実習をも変える新たな連携の形を提案する。
特集「リーダーの学びスイッチ！ 園を成長へと導くリーダーの学びの姿勢」	共著	2017年12月	フレーベル館 「保育ナビ」12月号 4-24頁	保育の質を上げ、選べる園となっていくために、また園全体がイキイキとした集団となっていくために大切な要素として、リーダーの学びに注目した。園の未来のビジョンを描き、職員に方向性を示すリーダー、その学びに対する姿勢はどうあればいいのか、なぜリーダーは学ぶ必要があるのか、学び続けるリーダーの実例と座談会からリーダーとしての学びを考察する。
厚生労働省「保育をもっと楽しく 保育所における自己評価ガイドライン ハンドブック」	作成協力	2020年12月	厚生労働省	
厚生労働省「保育分野の業務負担軽減・業務の再構築のためのガイドライン」	作成協力	2021年3月	厚生労働省	
厚生労働省「保育分野の業務負担軽減・業務の再構築のためのガイドライン 業務改善実践に向けた事例集」	作成協力	2022年3月	厚生労働省	
連載「保育マネージャー養成講座—管理職のスキルアップと園の保育の質向上のために」	共著	2016年度 4月号～3月号	フレーベル館 「保育ナビ」連載	保育現場における園長をはじめとする管理職が、保育の質向上のために、自園の職員の特性を活かし、保育理念の実現のためにどのようにリーダーシップを発揮し、具体的な手立てをどのように講じるか、保育マネージャー養成講座でのワークを紹介しながら、手法と理論を解説する。

連載企画「園内研修講座 特選6講」	共著	2019年 4月～	フレーベル館 「保育ナビ」2019年度 4月号～	保育の質向上や職員の専門性を高めるために各保育施設において実施されている園内研修であるが、時間とエネルギーを要するばかりで職員の学びにつながらないという実態もある。また多様な保育施設が誕生する中で、ミドルリーダーなど園内研修を企画する職員に経験やアイデアが不足している現状から、特にテーマとして重要な6つについて、専門家の園内研修を紹介することにより、研修充実を図る企画である。 (企画者:井上眞理子・坂田哲人・今井豊彦)(執筆:那須信樹<4月号>)
日本教育新聞 「保育の質向上のための組織マネジメント」 連載	単著	2020年3月～ 2021年3月	日本教育新聞社	保育現場における質向上に伴う現実的な課題を組織マネジメントの視点で解説する。
日本教育新聞 「続・保育の質向上のための組織マネジメント:実践編」連載	単著	2021年4月～ 2022年3月	日本教育新聞社	保育現場における質向上を目指すために、マネジメントの理論をどう保育実践に活かすのか、現場の管理職、実践者との対話からより実践的アプローチで組織マネジメントについて解説する。
リレー討論「教育・保育の無償化」令和時代の保育学 xi	寄稿	2023年1月	日本保育学会	多様化する保育ニーズに対応する人材確保と管理職のマネジメント
ミスマッチから生まれるマネジメント～次世代リーダーの葛藤と新発想	監修	2023年1月号	フレーベル館 「保育ナビ」特集	「ミスマッチ」を前提にしたマネジメントのすすめ～次世代リーダーたちの挑戦
スムーズに新年度を迎えるために	共著	2023年3月号	全国社会福祉協議会 「保育の友」特集	保育者のモチベーションを高めるリーダーのあり方
目指せ 保育者同士が育ち合う園	監修	2023年4月号	(株)GAKKEN幼児教育事業部「あそびと環境」	「園は組織として機能する」「学びあう風土」「役割付与」
時間とゆとりをつくり出す 保育所等におけるはじめてのICT活用ハンドブック	作成協力	2023年3月号	厚生労働省	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
日本教育新聞 「保育を楽しむ組織マネジメント」連載	単著	2023年4月～ 2024年3月	日本教育新聞社	子ども主体の保育、保育の質向上を実現するためには、保育者もまた、保育にやりがいを実感し、子どもと共に生き生きと保育に参画する必要がある。香川大学教育学部附属幼稚園の実践をもとに、保育実践および組織マネジメントの視点でリアルな保育の実際を紹介する。

教育研究業績書

2023年5月1日

氏名 秋山 徹

著書・学術論文などの名称	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概要
(学会発表等)			
フンパーディング 作曲 オペラ「ヘンゼルとグレーテル」	2008/5/18	東京都児童会館事業	東京都児童会館主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)フンパーディング:オペラ「ヘンゼルとグレーテル」
子どものためのクラシックコンサート	2008/9/23	東京都児童会館事業	東京都児童会館主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)大中恩:おなかのへるうた、バスの歌、森田公一:南の島のハメハメハ大王 他
林光 作曲 オペラ「あまんじゃくとうりこひめ」	2008/10/29	洗足学園附属幼稚園 親子の為の音楽会 洗足学園大学附属幼稚園 主催	洗足学園大学附属幼稚園主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)林光:オペラ「あまんじゃくとうりこひめ」
松井和彦 作曲 オペラ「日本むかしばなし」	2009/2/28	洗足学園音楽大学/大学院 主催演奏会	洗足学園音楽大学/大学院主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「日本むかしばなし」
石川亮太 作曲 オペラ「浦島太郎」	2009/3/29	東京都児童会館事業	東京都児童会館主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)石川亮太:オペラ「浦島太郎」
ミュージア川崎市民合唱祭	2009/7/4	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟 / 文化財団 主催 音楽の街かわさき推進委員会 後援
障害児・者と共に歩む 輪・和・Waコンサート	2009/8/22	大和YMCA事業 大和YMCA実行委員会 主催 大和市教育局委員会 後援	大和YMCA実行委員会主催、大和市教育局委員会後援の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)中田喜直:夏の思い出、オペレッタ版:コーヒーカンタータ 他
子供のための クラシックコンサート	2009/9/22	東京都児童会館事業	東京都児童会館主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)團伊玖磨:花の街、大中恩:ドロップスの歌、山田耕作:あわて床屋 他
W・A・モーツァルト 作曲 オペラ「魔笛」	2009/9/27	大和シティオペラ公演 大和市/大和市教育局委員会・他 後援	大和シティオペラ主催、大和市・大和市教育局委員会・他後援の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)モーツァルト:オペラ「魔笛」
G・ヴェルディ 作曲 オペラ「椿姫」	2009/10/24	Senzoku マスターズコンサート	洗足学園音楽大学 / 大学院 主催
松井和彦 作曲 オペラ「はなさかじいさん」	2009/10/28	洗足学園大学附属幼稚園 親子の為の音楽会	洗足学園大学附属幼稚園主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「はなさかじいさん」
L・v・ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2009/12/1	FUYUON 2009	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
C・オルフ 作曲 カルミナ・ブラーナ	2009/12/20	洗足学園音楽大学演奏会	洗足学園音楽大学/大学院 主催

G・ブッチェーニ / G・ビゼー 作曲 オペラ「蝶々夫人」 / 「カルメン」	2010/3/4	みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール 主催 神奈川新聞社 他 後援
オペラの名曲への誘い	2010/3/28	広島市ひとまちネットワーク 事業	広島市ひとまちネットワーク 主催
生徒と父母のための音楽会	2010/4/28	城西大学付属中/高 音楽観 賞会	城西大学付属中学校/高等学校 主催
石川亮太 作曲 オペラ「浦島太郎」	2010/5/16	たかたの丘音楽祭 横浜市港北区 主催	横浜市港北区主催の演奏会において、幼 児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)石川亮太:オペラ「浦島太郎」
L・v・ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2010/6/13	アシュケナーズ氏 就任記念演奏会	洗足学園 主催
ミュージア川崎市民合唱祭	2010/7/10	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団 主催 音楽の街かわさき推進委員会 後援
G・ヴェルディ 作曲 オペラ「椿姫」	2010/7/31	エリザベート音楽大学 同窓生事業	エリザベート音楽大学同窓生 主催 エリザベート音楽大学/中国新聞社 後援
障害児・者と共に歩む 輪・和・Waコンサート	2010/11/20	大和YMCA事業 大和市教育委員会 後援	大和YMCA実行委員会主催、大和市教育 委員会後援の演奏会において、幼児対象 となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)石川亮太:オペラ「浦島太郎」
L・v・ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2010/12/4	FUYUON 2010	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
合唱第30回記念定期演奏会	2010/12/5	FUYUON 2010	洗足学園音楽大学/大学院 主催
L・v・ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2010/12/23	北本第九合唱団演奏会	北本第九合唱団 主催 埼玉県/埼玉県教育委員会 他 後援
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2011/5/14・15	高津区協働推進事業 子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所/洗 足学園音楽大学 共催	子どもの音楽文化体験事業実行委員会/ 高津区役所/洗足学園音楽大学共催の演 奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を 行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤鬼」
障害児・者と共に歩む 輪・和・Waコンサート	2011/7/2	横浜YMCA事業	横浜YMCA実行委員会 主催 都筑区 後援
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2011/10/12	洗足学園附属幼稚園 親子 の為の音楽会 洗足学園大学附属幼稚園 主催	洗足学園大学附属幼稚園主催の演奏会に おいて、幼児対象となる楽曲演奏を行っ た。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤鬼」
L・v・ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2011/12/2	FUYUON 2011	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催

松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2012/1/14	みなとみらいホール事業 横浜みなとみらいホール 主催 文化庁 支援	横浜みなとみらいホール主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤鬼」
さとうきび畑こんさあと	2012/1/29	「さとうきび畑」歌碑建立実行委員会演奏会	「さとうきび畑」歌碑建立実行委員会 主催 秦野市/秦野市教育委員会 後援
コーラルフェストかわさき	2012/2/5	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/川崎市文化協会 主催
鈴木敬介 追悼コンサート オペラ名曲の夕べ	2012/8/20	日生劇場事業	公益財団法人ニッセイ文化振興財団 主催
プッチーニ 作曲 オペラ「ラ・ボエーム」	2012/8/25	「ラ・ボエーム」実行委員会演奏会	「ラ・ボエーム」実行委員会 主催 エリザベート音楽大学 後援
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2012/9/1	高津区協働推進事業 子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所/洗足学園音楽大学 共催	子どもの音楽文化体験事業実行委員会・高津区役所・洗足学園音楽大学共催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤鬼」
ゲーテ作「ファウスト」より生まれた 声楽作品	2012/9/8	洗足音楽表現教育研究会	SeMEESフォーラム実行委員会 主催
G・C・メノッティ 作曲 オペラ「電話」	2012.10.10	かなっくホール事業	かなっくホール 主催 神奈川区役所 後援
障害児・者ととも You & Iコンサート	2012/10/28	You & Iコンサート運営委員会事業 横浜市都筑区社会福祉協議会 主催 横浜市教育委員会 後援	横浜市都筑区社会福祉協議会主催、横浜市教育委員会後援の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)小岩悦也:オペレッタ「商売上手」
L・v・ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2012/12/7	FUYUON 2012	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
L・v・ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2012/12/23	北本合唱団演奏会	北本合唱団 主催 埼玉県/埼玉県教育委員会・他 後援
日本洋楽の旅	2013/2/10	平塚音楽家協会事業 平塚音楽家協会 主催 平塚市/平塚市教育委員会 後援	平塚音楽家協会主催、平塚市/平塚市教育委員会後援の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)石柘真礼生:オペレッタ「河童譚」
G・ヴェルディ 作曲 オペラ「リゴレット」	2013/3/1	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール 主催 神奈川新聞社・他 後援
ゴールデンウェーブ in 横浜	2013/4/16	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール 主催 神奈川県/横浜市 他 後援
ミュージア川崎市民合唱祭	2013/7/6	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団 主催 音楽の街かわさき推進委員会 後援

平和への祈り 川崎ぞうれっしゃコンサート	2013/8/25	川崎ぞうれっしゃ実行委員会 事業 川崎ぞうれっしゃ実行委員会 主催 川崎市/川崎市教育委員会 他 後援	川崎ぞうれっしゃ実行委員会主催、川崎市・川崎市教育委員会・他後援演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)藤村記一郎:「ぞうれっしゃがやってきた」
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2013/9/7	高津区地域課題対応事業 子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所/洗 足学園音楽大学 共催	子どもの音楽文化体験事業実行委員会・高津区役所・洗足学園音楽大学共催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤鬼」
障害児・者とともに You & Iコンサート	2013/9/28	横浜北YMCA事業 横浜市都筑区社会福祉協議 会 主催 横浜市教育委員会 後援	横浜市都筑区社会福祉協議会主催、横浜市教育委員会後援の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)小岩悦也:オペラ「赤ずきん」
「4+1=10/20」	2013/10/20	シルバーマウンテン オープニングコンサート	洗足学園音楽大学 主催
「喜びの息吹き達BからBへ」	2013/11/14	シルバーマウンテン オープニングコンサート	洗足学園音楽大学 主催
ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2013/12/6	FUYUON 2013	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2013/12/8	平塚市まちづくり財団事業	平塚市・平塚市まちづくり財団 主催 平塚市教育委員会 他 後援
「X'mas ロマンティックコンサート」	2013/12/22	シルバーマウンテン オープニングコンサート	洗足学園音楽大学 主催
オペラティックコンサート ～鈴木敬介先生を偲んで～	2014/2/14	マスターズコンサート	洗足学園音楽大学/大学院 主催 「音楽のまちかわさき」推進協議会 後援
ゴールデンウェーブ in 横浜	2014/4/14	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール 主催 神奈川県/横浜市 他 後援
ミュージア川崎市民合唱祭	2014/6/29	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団 主催 音楽の街かわさき推進委員会 後援
おやこオペラ教室2014 松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2014/8/4	文化庁劇場・音楽堂活性化 事業 横浜みなとみらいホール 主 催	横浜みなとみらいホール主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤鬼」
洗足学園小学校コンサート	2014/8/17	洗足学園90周年記念コン サート	洗足学園音楽大学 主催
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2014/9/6	高津区地域課題対応事業 子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所/洗 足学園音楽大学 共催	子どもの音楽文化体験事業実行委員会/高津区役所/洗足学園音楽大学共催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤鬼」
ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2014/12/5	FUYUON 2014	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催

洗足学園小学校オーケストラ演奏会	2014/12/7	FUYUON 2014	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
高津区民音楽祭	2014/12/13	高津区地域課題対応事業	高津区民音楽祭運営委員会/高津区役所 主催 音楽の街かわさき推進委員会 後援
鎌倉風致保存会 創立50周年記念コンサート	2014/12/27	鎌倉風致保存会事業	鎌倉風致保存会 主催 鎌倉・逗子・葉山市教育委員会 他 後援
音楽鑑賞教室	2015/3/13	狛江市文化振興事業	狛江市文化振興事業団 主催
フィリアジュニア合唱団コンサート	2015/3/22	フィリアホール事業 洗足学園音楽大学 後援	フィリアホール主催、洗足学園音楽大学後 援の演奏会において、幼児対象となる楽曲 演奏を行った。 (演奏曲目)湯山昭:電話 他
ゴールデンウェーブ in 横浜	2015/4/13	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール 主催 神奈川県/横浜市 他 後援
秦野市楽友協会創立30周年コンサート	2015/6/14	秦野市楽友協会演奏会	秦野市楽友協会 主催 秦野市 共催 秦野市教育委員会/秦野市音楽協会 後 援
ミュージア川崎市民合唱祭	2015/6/28	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団 主催 音楽の街かわさき推進委員会 後援
芸術鑑賞会	2015/7/8	神奈川県立厚木北高等学校 芸術鑑賞会	神奈川県立厚木北高等学校 主催
相模原市合唱祭	2015/7/12	相模原市合唱連盟演奏会	相模原市合唱連盟 主催 相模原市民文化財団 共催 相模原市 他 後援
厚木合唱祭	2015/7/20	厚木合唱連盟演奏会	厚木合唱連盟 主催 厚木市 共催 厚木市音楽協会 後援
川崎の風コンサート2015	2015/8/29	川崎市文化協会演奏会 川崎市文化協会 主催 川 崎市/川崎市 共催 川崎市教育委員会 他 後 援	川崎市文化協会主催、川崎市・川崎市共 催、川崎市教育委員会・他後援演奏会にお いて、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)藤村記一郎:「ぞうれっしゃが やってきた」
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2015/9/5	高津区地域課題対応事業 子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所/洗 足学園音楽大学 共催	子どもの音楽文化体験事業実行委員会・ 高津区役所・洗足学園音楽大学共催の演 奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を 行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤鬼」
厚木男声合唱団定期演奏会	2015/10/17	厚木男声合唱団演奏会	厚木男声合唱団 主催 厚木市 共催 厚木合唱連盟/厚木市音楽協会 後援
芸術鑑賞会	2015/10/24	横浜市立荏田南小学校芸術 鑑賞会	横浜市立荏田南小学校 主催

ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2015/12/3	FUYUON 2015	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
鎌倉風致保存会コンサート	2016/1/31	鎌倉風致保存会事業	鎌倉風致保存会 主催 鎌倉・逗子・葉山市教育委員会 他 後援
フィリアジュニア合唱団コンサート	2016/3/20	フィリアホール事業	フィリアホール主催の演奏会において、幼 児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)シューベルト:魔王、ビゼー:オ ペラ「カルメン」闘牛士の歌
ゴールデンウェーブ in 横浜	2016/4/11	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール 他 主催 神奈川県・横浜市 他 後援
湘南合唱祭	2016/6/5	湘南合唱連盟演奏会	湘南合唱連盟 主催 茅ヶ崎市音楽協会 / 茅ヶ崎市文化・スポ ーツ振興財団 後援
厚木混声合唱団定期演奏会	2016/6/19	厚木混声合唱団演奏会	厚木混声合唱団 主催 厚木市 共催 厚木合唱連盟/厚木市音楽協会 後援
プッチーニ 作曲 オペラ「蝶々夫人」	2016/7/2	「蝶々夫人」実行委員会演奏 会	「蝶々夫人」実行委員会 主催 エリザベート音楽大学 後援
相模原市合唱祭	2016/7/10	相模原市合唱連盟演奏会	相模原市合唱連盟 主催 相模原市民文化財団 共催 相模原市 他 後援
ミュージア川崎市民合唱祭	2016/7/17	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団 主催 音楽の街かわさき推進委員会 後援
厚木合唱祭	2016/7/18	厚木合唱連盟演奏会	厚木合唱連盟 主催 厚木市 共催 厚木市音楽協会 後援
ワーグナー 作曲 オペラ「トリスタンとイゾルデ」	2016/9/11・17	東京二期会オペラ劇場公演	東京二期会 主催 読売日本交響楽団 共催 ドイツ連邦共和国大使館 他 後援
秦野マンドリンクラブ定期演奏会	2016/11/23	秦野マンドリンクラブ演奏会	秦野マンドリンクラブ 主催 秦野市/秦野市教育委員会 後援
女声合唱団「すみれ会」定期演奏会	2016/11/26	すみれ会演奏会	すみれ会 主催 相模原市教育委員会/相模原市合唱連盟 後援
ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2016/12/5	FUYUON 2016	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
フィリアジュニア合唱団コンサート	2017/3/18	フィリアホール事業	フィリアホール主催の演奏会において、幼 児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)ムソルグスキー:蚤の歌、大中 恩:早口ことばのうた

小黒恵子童謡記念館リニューアルオープン記念コンサート	2017/4/1	小黒恵子童謡記念館事業	小黒恵子童謡記念館リニューアルオープンに伴う記念コンサートにおいて、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)小黒恵子の詩による5曲のメドレー
ゴールデンウェーブ in 横浜	2017/4/10	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール 他 主催 神奈川県/横浜市 他 後援
せたがや歌の広場コンサート	2017/5/19	世田谷うたの広場「詩と作曲の会」事業	世田谷うたの広場「詩と作曲の会」/世田谷区 主催
湘南合唱祭	2017/6/11	湘南合唱連盟演奏会	湘南合唱連盟 主催 藤沢市みらい創造財団 / 藤沢市合唱連盟 後援
ミュージア川崎市民合唱祭	2017/6/17	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団 主催 音楽の街かわさき推進委員会 後援
相模原市合唱祭	2017/7/9	相模原市合唱連盟演奏会	相模原市合唱連盟 主催 相模原市民文化財団 共催 相模原市 他 後援
厚木合唱祭	2017/7/17	厚木合唱連盟演奏会	厚木合唱連盟 主催 厚木市 共催 厚木市音楽協会 後援
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2017/9/2	高津区音楽のまち推進事業 子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所/洗足学園音楽大学 共催	子どもの音楽文化体験事業実行委員会/ 高津区役所/洗足学園音楽大学共催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤鬼」
レーヴェ&ドイツ歌曲のワンダーランド	2017/9/11	日本カール・レーヴェ協会演奏会	日本カール・レーヴェ協会 主催 国際カール・レーヴェ協会 後援
芸術鑑賞会	2017/10/21	横浜市立荏田南小学校芸術鑑賞会	横浜市立荏田南小学校 主催
モラヴィアの風	2017/10/27	純声会演奏会	純声会 主催 チェコ大使館/洗足学園音楽大学 他 後援
ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2017/12/7	FUYUON 2017	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
厚木混声合唱団定期演奏会	2017/12/24	厚木混声合唱団演奏会	厚木合唱連盟 主催 厚木市 共催 厚木市音楽協会 後援
ゴールデンウェーブ in 横浜	2018/4/16	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール 他 主催 神奈川県/横浜市 他 後援
厚木男声合唱団定期演奏会	2018/5/12	厚木男声合唱団演奏会	厚木男声合唱団 主催 厚木市/厚木合唱連盟/厚木市音楽協会 後援

せたがや歌の広場コンサート	2018/5/18	世田谷うたの広場「詩と作曲の会」事業	世田谷うたの広場「詩と作曲の会」/世田谷区 主催
ミュージア川崎市民合唱祭	2018/6/23	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団 主催 音楽の街かわさき推進委員会 後援
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2018/7/4・5	平成30年度栗原市事業	栗原市教育委員会 主催の芸術鑑賞会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤鬼」
相模原市合唱祭	2018/7/8	相模原市合唱連盟演奏会	相模原市合唱連盟 主催 相模原市民文化財団 共催 相模原市 他 後援
プッチーニ 作曲 オペラ「ラ・ボエーム」	2018/7/14	「ラ・ボエーム」実行委員会演奏会	「ラ・ボエーム」実行委員会 主催 エリザベト音楽大学 後援
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2018/9/1	高津区音楽のまち推進事業 子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所/洗足学園音楽大学 共催	子どもの音楽文化体験事業実行委員会/ 高津区役所/洗足学園音楽大学共催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤鬼」
厚木市民芸術文化祭	2018/10/28	厚木合唱連盟演奏会	厚木市 主催 厚木市教育委員会 後援
洗足学園フェスティバル2018 「ファミリーコンサート」	2018/11/11	GAKUSAI 2018	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催の演奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を行った。
ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2018/12/5	FUYUON 2018	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
あつぎ市民芸術祭 交響曲第9番「合唱」	2018/12/16	厚木市事業	厚木市 主催 厚木市教育委員会 後援
コーラルフェストかわさき	2019/2/3	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/川崎市文化協会 主催
ゴールデンウェーブ in 横浜	2019/5/20	横浜みなとみらいホール事業	横浜みなとみらいホール 他 主催 神奈川県/横浜市 他 後援
厚木混声合唱団定期演奏会	2019/5/26	厚木混声合唱団演奏会	厚木混声合唱団 主催 厚木市 共催 厚木合唱連盟/厚木市音楽協会 後援
湘南合唱祭	2019/6/2	湘南合唱連盟演奏会	湘南合唱連盟 主催 座間市 / 座間市合唱連盟 後援
ミュージア川崎市民合唱祭	2019/7/6・7	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団 主催 音楽の街かわさき推進委員会 後援

相模原市合唱祭	2019/7/7	相模原市合唱連盟演奏会	相模原市合唱連盟 主催 相模原市民文化財団 共催 相模原市 他 後援
厚木合唱祭	2017/7/15	厚木合唱連盟演奏会	厚木合唱連盟 主催 厚木市 共催 厚木市音楽協会 後援
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2019/9/7	高津区音楽のまち推進事業 子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所/洗 足学園音楽大学 共催	子どもの音楽文化体験事業実行委員会/ 高津区役所/洗足学園音楽大学共催の演 奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を 行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤鬼」
谷川忠博 作曲 オペラ「宝葦」	2019/9/29	「宝葦」公演実行委員会主催	「宝葦」公演実行委員会 主催 川崎市/川崎市教育委員会/音楽の街かわ さき推進委員会後援の演奏会において、幼 児対象となる楽曲演奏を行った。 (演奏曲目)谷川忠博:オペラ「宝葦」
ベートーヴェン 作曲 交響曲第9番「合唱」	2019/12/5	FUYUON 2019	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学 主催
コーラルフェストかわさき	2020/2/2	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/川崎市文化協会 主催
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2020/9/5	高津区音楽のまち推進事業 子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所/洗 足学園音楽大学 共催	子どもの音楽文化体験事業実行委員会/ 高津区役所/洗足学園音楽大学共催の演 奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を 行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤鬼」
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2021/2/10	洗足学園音楽大学附属幼稚 園 主催	洗足学園音楽大学附属幼稚園主催の演奏 会において、幼児対象となる楽曲演奏を 行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤鬼」
せたがや歌の広場コンサート	2021/3/24	世田谷うたの広場「詩と作曲 の会」事業	世田谷うたの広場「詩と作曲の会」/世田谷 区 主催
ミュージア川崎市民合唱祭	2022/6/26	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/文化財団 主催 音楽の街かわさき推進委員会 後援
厚木合唱祭	2022/7/17	厚木合唱連盟演奏会	厚木合唱連盟 主催 厚木市 共催 厚木市音楽協会 後援
松井和彦 作曲 オペラ「泣いた赤鬼」	2022/8/10	高津区音楽のまち推進事業 子どもの音楽文化体験事業 実行委員会/高津区役所/洗 足学園音楽大学 共催	子どもの音楽文化体験事業実行委員会/ 高津区役所/洗足学園音楽大学共催の演 奏会において、幼児対象となる楽曲演奏を 行った。 (演奏曲目)松井和彦:オペラ「泣いた赤鬼」
あつぎ市民芸術文化祭	2022/10/30	厚木市事業	厚木市 主催 厚木市教育委員会 後援
秦野マンドリンクラブ定期演奏会	2022/11/23	秦野マンドリンクラブ演奏会	秦野マンドリンクラブ 主催 秦野市/秦野市教育委員会 後援

チャリティコンサート	2023/1/7	秦野市文化振興基金助成事業	フォーライフ 主催 秦野市/秦野市社会福祉協議会 後援
コーラルフェストかわさき	2023/2/5	川崎市合唱連盟演奏会	川崎市合唱連盟/川崎市文化協会 主催
厚木合唱連盟ウィンターコンサート	2023/2/25	厚木合唱連盟演奏会	厚木合唱連盟 主催 厚木市音楽協会 後援
(講演、学会における役職等)			
「華麗なるオペラの世界」講師	2009/4～2015/3	昭和女子大学 オープンカレッジ講座	昭和女子大学オープンカレッジ主催講座において、オペラをテーマに講演した。
「保育士を志す学生の集い研修会」講師	2009年6月6日～ 2019年6月1日	神奈川県保育士養成施設協会 主催研修会	神奈川県保育士養成施設協会主催研修会において、幼児教育の現場でも取り上げられる楽曲をテーマとして、各楽曲の解説を、実演を含めて講演した。(全11回)
「園歌・校歌等のCDの紹介と活用について」講師	2009/8/19	秦野市教育研究会 秦野市教育委員会 主催	秦野市教育委員会教育研究発表会において、制作した園歌・校歌のCDについて講演した。
秦野青少年音楽祭 審査員	2010/7/4	秦野青少年音楽祭 秦野市 主催	秦野市主管の秦野市青少年音楽祭において、審査員を務めた。
「華麗なるオペラの世界」講師	2010/10/31	秦野市南ヶ丘公民館 公開講座	秦野市主催の公開講座において、オペラをテーマに講演した。
「オペラ入門講座」講師	2011/2/6	秦野市事業	秦野市主催の公開講座において、オペラをテーマに講演した。
「オペラの世界によこそ」講師	2011/2/20	秦野市楽友協会 音楽講習会	秦野市楽友協会主催の公開講座において、オペラをテーマに講演した。
「オペラの名曲への誘い」講師	2011/3/20	広島市 ひとまちネットワーク事業	広島市ひとまちネットワーク主催の公開講座において、オペラをテーマに講演した。
秦野青少年音楽祭 審査員	2011/7/3	秦野青少年音楽祭 秦野市 主催	秦野市主管の秦野市青少年音楽祭において、審査員を務めた。
「クラシック音楽のたのしみ方 オペラとオペレッタ」講師	2011/11/16・30	目黒区教育委員会文化講座	目黒区教育委員会主催の公開講座において、オペラとオペレッタをテーマに講演した。
秦野青少年音楽祭 審査員	2012/7/1	秦野青少年音楽祭 秦野市 主催	秦野市主管の秦野市青少年音楽祭において、審査員を務めた。
「子育てセミナー」講師	2013/7/5	川崎市幼稚園協会事業	川崎市幼稚園協会事業において、子育ての中での音楽の重要性や具体的な楽曲の紹介など、実演を含めて講演した。

「クリスマスソングを歌いましょう」講師	2013/12/9	洗足学園小幼部洗足会事業	洗足学園小幼部洗足会事業において、幼児向けのクリスマスソングの楽曲を、実演を含めて講演した。
秦野青少年音楽祭 審査員	2014/7/6	秦野青少年音楽祭 秦野市 主催	秦野市主管の秦野市青少年音楽祭において、審査員を務めた。
秦野青少年音楽祭 審査員	2015/8/9	秦野青少年音楽祭 秦野市 主催	秦野市主管の秦野市青少年音楽祭において、審査員を務めた。
「幼児期に必要な音楽とは」講師	2016/7/25	緑区幼保小教育交流事業 夏季合同職員研修会 講師 緑区 主催	緑区幼保小教育交流事業合同職員研修会において、幼児期に必要な音楽をテーマとして、楽曲の紹介や解説、指導上の留意点、それに伴う発声や発音について講演した。
「音楽リズムと乳幼児の保育」講師	2016/11/9	高津区保育施設職員研修 高津区 主催 洗足こども短期大学 共催	高津区保育者対象人材育成研修において、音楽リズムと乳幼児の保育をテーマとして、幼児教育の現場で取り上げられる代表的なリズム楽器について、実演を含めて講演した。
「幼児の音楽指導の実践について」講師	2017/5/31	うめのき保育園職員研修 うめのき保育園 主催	うめのき保育園職員研修会において、乳幼児の音楽指導の実践についてをテーマとして、幼児教育の現場で取り上げられる代表的なリズム楽器について、実演を含めて講演した。
「乳幼児の発達に即した楽器遊び」講師	2017/6/1	高津区保育施設職員研修 高津区 主催 洗足こども短期大学 共催	高津区保育施設職員研修会において、乳幼児の発達に即した楽器遊びをテーマとして、幼児教育の現場で取り上げられる代表的なリズム楽器について、実演を含めて講演した。
「乳幼児の発達に即した楽器遊び」講師	2018/6/26	高津区保育施設職員研修 高津区 主催 洗足こども短期大学 共催	高津区保育施設職員研修会において、乳幼児の発達に即した楽器遊びをテーマとして、幼児教育の現場で取り上げられる代表的なリズム楽器について、実演を含めて講演した。
「楽器はお友達」講師	2019/6/27	高津区保育施設職員研修 高津区 主催 洗足こども短期大学 共催	高津区保育施設職員研修会において、乳幼児の発達に即した楽器遊びをテーマとして、幼児教育の現場で取り上げられる代表的なリズム楽器について、実演を含めて講演した。
「乳幼児の発達に即した楽器遊び」講師	2019/10/30	つくし保育園職員研修 つくし保育園 主催	つくし保育園職員研修会において、乳幼児の発達に即した楽器遊びをテーマとして、幼児教育の現場で取り上げられる代表的なリズム楽器について、実演を含めて講演した。
秦野青少年音楽祭 審査員	2021/7/4	秦野青少年音楽祭 秦野市 主催	秦野市主管の秦野市青少年音楽祭において、審査員を務めた。
「みんながたのしめるコンサートをつくろう！」講師	2021/11/14 2021/12/5	高津区にコンサートをつくる会/ 川崎市教育委員会 主催	高津区にコンサートをつくる会/川崎市教育委員会主催事業において、幼児、児童対象のコンサート制作をテーマとして講演した。
秦野青少年音楽祭 審査員	2022/7/3	秦野青少年音楽祭 秦野市 主催	秦野市主管の秦野市青少年音楽祭において、審査員を務めた。
(その他、教育活動)			
(CD制作) 幼児歌曲集	2011/4/1	洗足こども短期大学	幼児歌曲集(教材)の収録曲のCDを、楽曲のレパートリーと楽曲知識向上のために作成した。

(単著) 乳幼児に受け入れられる演奏って？	2012/4/1	NPO昭和 「かるがも便り」Vol.65 (1ページ)	乳幼児期は本能的に音楽に多様な反応を示す。乳幼児に対して演奏を行う時、本能的に心地良く受け入れる事の出来る音楽とは何かを考察して演奏する事は、音楽の本質を探究する上でも大変重要であるといった内容の執筆を、子育てと演奏をテーマに機関誌に掲載した。
小黒恵子童謡記念館における 解説資料作成	2017/4/1	小黒恵子童謡記念館事業	小黒恵子童謡記念館における館内展示の解説資料作成者を務めた。
図書館だより<私の推薦図書>	2020/11/1	洗足学園音楽大学/洗足こども短期大学附属図書館 第12巻 第2号 (1ページ)	「歌舞伎400年の言葉」学ぶ・演じる・育てるを推薦図書として、推薦内容を掲載した。
(単著) コード伴奏による幼児歌曲100曲集	2015年4月1日 第1刷 2016年4月1日 第2刷 2017年4月1日 第3刷 2018年3月1日 第4刷(再編) 2019年3月1日 第5刷 2020年2月1日 第6刷 2021年3月1日 第7刷 2022年3月1日 第8刷 2023年3月1日 第9刷	カワイ出版 (128ページ)	楽曲の弾き歌い技能向上の為、運指が行い易くコード伴奏で演奏可能な幼児歌曲集を、調性、和音、発想用語など、原曲を損なわぬよう配慮して、幼児歌曲より100曲を精選して作成。全曲にコード、ならびにオリジナル楽譜が参考となる楽曲についてはピアノ鍵盤図を付記した。また、演奏に際しての留意点、弾き歌いの実践方法、各調の主要三和音と伴奏例の実践方法などの解説を記載し、教材としても活用している。
高校出張授業	2015年1月～ 2021年6月	横浜清風高等学校 川崎北高等学校 荏田高等学校	高校への出張による大学模擬授業を担当した。
高校出張授業	2022/5/6～ 2023/3/20	新羽高等学校 川崎北高等学校 大磯高等学校 大東学園高等学校 湘南学院高等学校 町田総合高等学校(2講義) 大師高等学校 吉田島高等学校(2講義) 麻生総合高等学校	高校への出張による大学模擬授業を担当した。

教育研究業績書

2023年5月1日

氏名 坪井 葉子

著書・学術論文などの名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概要
(紀要論文)				
教育実習の実態調査～実習における実習生の生活実態と課題～	共著	2007.3	洗足論叢 第35号 (9ページ)	学力・コミュニケーション力・ストレス耐性が低下していると言われている学生にとって、幼稚園教育実習はどのような経験になっているのかを調査・検討した。実習への取り組みは概ね良好だが、睡眠時間5時間以下の学生が半数を占め、改善への対策が必要とわかった。半数近くの学生が日誌作成に4時間以上を要しており、事前指導並びに練習の必要性が浮かびあがった。また指導者とのコミュニケーション、見做う姿勢の育成も課題であることがわかった。(共同研究により抽出不可:主に、はじめに、調査の方法、考察、おわりにを担当)
実習における保育カリキュラムの実態	単著	2007.3	洗足論叢 第35号 (8ページ)	保護者のニーズの多様化とともに幼稚園・保育所におけるカリキュラムも多様になっている。保育者養成校での実習を通し、保育現場のカリキュラムの実態を調査し、保育者養成の視点で課題を検討した。幼保のちがいがいよりも、幼稚園・保育所個々の違いが際立ち、体育活動やリトミックでの外部講師の活動も多い傾向が見られた。子ども主体の遊び中心の保育よりも課題活動中心の保育が多い傾向も見られ、課題活動についての学びと子ども主体の活動についての学びを共に深めていくことが課題として浮かびあがった。(pp:127～134)
実習における幼児教育保育科学生の学びの過程 —実習記録の検証から—	単著	2008.1	洗足論叢 第36号 (10ページ)	幼稚園・保育所の実習において、学生は何を学んでいるのか。3実習、各10日間の実習日誌の記述について、子どもの行動と保育の経過、保育者の援助、実習生の援助、考察の4項目の記述頻度、記述内容の傾向、指導助言記述内容から個々の学びの過程を分析・検討した。子ども理解や保育のねらいと計画的な援助についての理解を深めるためには、実習期間中の適切な助言が重要であることがわかった。(pp:201～210)
教育実習の実態調査～2年次実習における課題～	共著	2008.1	洗足論叢 第36号 (10ページ)	2007.3発行の紀要論文『教育実習の実態調査～実習における実習生の生活実態と課題～』に引き続き、2年次実習の実態を調査・検討した。1年次実習と比較し、日誌記述時間の短縮、指導実習経験が増加していた。指導実習経験からの学びを肯定的に受け止める傾向が見られた一方、保育全般について自分の保育感と実習園の保育方針との違いに気づき悩む実態も明らかになった。多様な保育方針、保育方法に対応できるような動機付けや事前準備が必要であり、事後指導での個々に対するフォローアップの重要性が課題だとわかった。(共同研究により抽出不可:主に調査結果について担当)

教育実習における自己評価 —実習指導の課題を探る—	共著	2009.1	洗足論叢 第37号 (18ページ)	「実習に向かう態度」「子どもとのかかわり」「職員とのかかわり」「保育理解」「日誌・準備学習」の観点から、教育実習前後の自己評価点を比較し、実習体験の効果を検討した。実習体験を通して、項目すべてで自己評価得点が増加しており、「実践に裏付けられた保育者としての自己肯定感」が育っていることがわかった。子どもとの関わりが実感として楽しかった一方で「子ども理解」「子どもへの配慮や援助」の難しさを自覚している実態がわかった。「子どもの成長を支える喜び」を自覚するまでには至らなかった点が今後の課題となる。 (共同研究につき抽出不可:実態調査(自由記述)の概要と結果、考察を担当)
「実習日誌作成の意義と学びの実態」	単著	2009.1	洗足論叢 第37号 (9ページ)	教育実習(幼稚園)の日誌記述内容について幼児理解と保育の意図(ねらい)理解の観点から分析・検討した。子どもの行動の意味(心の動き)と保育の意図(見方・考え方を育てる視点)について検討された内容が半数程度ある一方で、子どもの「見方・考え方を育てる保育の意図」の検討が弱いものや「幼児集団を動かす」教師主導の観点からのみ保育を振り返っている内容も見られた。「子どもの育ちを支える視点」の獲得が課題となる検討結果を受け、「熱中しているところ」「けんか」「落ち込んでいるいきさつや背景」に着目するなど、具体的な着目点を提示し幼児理解を深められるような基礎知識の獲得と指導助言が必要との結果となった。(pp.271-279)
教育実習の課題—実態と自己評価から課題を探る—	共著	2010.1	洗足論叢 第38号 (22ページ)	平成17年度から継続して行った教育実習の実態調査から、教育実習の課題を検討した。学生の実習に望む態度の変化として、準備不足や自己分析能力の低下の可能性が明らかになった。「子ども理解」のための基礎知識、「基礎知識と子どもの実態を比較検討する柔軟性」、「問題解決能力」の弱さと共に、ストレスなど心の問題も示唆された。 (共同研究につき抽出不可:実態調査の分析について執筆)
保育所保育指針・保育士養成課程基準を踏まえた乳児保育の授業展開の検討	共著	2022.3	洗足論叢 第50号 研究ノート (13ページ)	2018年の保育所保育指針改定、それに伴う保育士養成課程カリキュラムの改訂による「乳児保育」科目の増加充実に対して、養成校として対応ができていくかどうかについて、シラバス、学生へのアンケートから検討した。実践的、具体的、体験的な学びを土台とし、概念的な学習を行う配慮がある方が効果的な学習が期待できることが示唆された。(共同研究により抽出不可:主に教授内容の基準、シラバスと授業展開の実際、結果と考察について担当)

(学会発表)				
実習日誌の分析～実習生は何を学んでいるのか～	単著	2008.5	日本保育学会 第61回大会発表	実習日誌の内容を教育実習と保育所実習をそれぞれ2回、合計4回の実習について7人の学生の変化を分析検討した。「子ども理解」「保育の意図の理解」を理解するためには、実習機関からのご助言の効果が大きいことがわかった。
「実習日誌の分析(2)～保育方法による学びの違いについて～」	単著	2009.5	日本保育学会 第62回大会発表	1年次教育実習の日誌記述の分析。幼稚園の方針や保育方法の多様性と実習生の学び(子ども理解や保育理解)との関連はみられなかった。幼稚園の方針によって学べる事柄が異なるという学生自身の受け止め方が問題となっている。学生自身のコミュニケーション力に課題がある。
幼稚園教育実習の実態調査と実習指導の課題	共著	2009.5	日本保育学会 第62回大会発表	3年間の実習指導の実態調査結果について報告した。客観的に自己を分析する力が弱まり、部分的ながんばりを捉えて自己評価が高くなったり、不安が大きくなったりする傾向へと変化している。
保育における「ねらい」の実態を探る～実習日誌の記述から～	単著	2011.5	日本保育学会 第64回大会発表	短大2年次学生の教育実習、保育所実習の日誌における「保育のねらい」に関する分析。保育のねらいはおよそ半数が「表現や運動技術の習得」として示されており、また「遊びを総合的に指導する」ことを反映する複数のねらいを示したものは1/4の割合であった。「望ましい心情・意欲・態度」の視点の構築、「複数の視点で保育活動のねらいを捉える」取り組みが必要である。
(学会等および社会における主な活動)				
幼稚園教諭免許状更新講習講師		2019.8 2020.8 2021.8	川崎市幼稚園協会	「園内外における質の高い連携を目指して」を担当
幼稚園教諭免許状更新講習講師		2019.5	川崎市幼稚園協会	「義務教育及びその後の教育の基礎を培う幼稚園教育の内容とは」を担当
幼稚園教諭免許状更新講習講師		2020.11	川崎市幼稚園協会	「幼稚園教育要領の保育内容と保育実践の繋がりを考える」を担当
神奈川県社会福祉協議会 第3回保育研修会 講師		2019.3	神奈川県 社会福祉協議会	「信頼関係を育む園内研修の考え方・進め方」を担当
神奈川県社会福祉協議会 第三者評価 評価機関・評価調査者 説明会 講師		2019.2	神奈川県 社会福祉協議会	「福祉サービス第三者評価・内容評価(保育所版)の概要について」を担当

幼稚園教諭免許状更新講習講師	2018.8	川崎市幼稚園協会	「園内外における質の高い連携を目指して」を担当
川崎市子ども・子育て会議 委員	2015.04～	川崎市	計画推進部会、教育・保育推進部会
福祉サービス第三者評価推進委員会 委員	2015.04～	川崎市	福祉サービス機関の第三者評価受診 推進にあたっての助言
保育士処遇改善キャリアアップ研修 講師	2017.12	川崎市	「幼児教育の意義」を担当
洗足学園大学附属幼稚園 研修会講師	2017.08	洗足学園大学 附属幼稚園	幼稚園教育要領改訂の理解 「幼児期の終わりまでに育てたい10の姿」の 理解について
川崎市児童福祉審議会委員	2014.04～ 2017.04～	川崎市	川崎市児童福祉審議会第2部会部会長 川崎市児童福祉審議会副委員長
川崎市認可外保育事業再構築 検討委員会	2012.05 ～2012.12	川崎市	川崎市認可外保育事業再構築検討委員会 に委員長として出席
講演会講師 (洗足学園大学附属幼稚園保護者会講演会)	2011.4.25	洗足学園大学 附属幼稚園	「子どもの遊びや気になる行動の理解と その対応～東日本大震災の影響をふまえて ～」
講演会講師 (平成28年度第2回麻生区幼保小連携事業実務 担当者会議 講師)	2016.10.24	川崎市麻生区役所 保健福祉センター	「幼小接続期の発達課題とその支援」
川崎市保育所整備推進室 民間活用推進委員会	2011.2.21 2016.08 2017.03 2018.03	川崎市	川崎市保育所整備推進室民間活用推進委員 会に選考委員として出席
川崎市保育所整備推進室 民間活用推進委員会	2011.7.25 2011.8.22	川崎市	川崎市保育所整備推進室民間活用推進委員 会に選考委員として出席
講演会講師 (川崎市立末長小学校PTA研修会)	2011.11.22	川崎市立末長小学校 PTA	『災害に備える～不安との向き合い方～』

教育研究業績書

2023年5月1日

氏名 柳井 郁子

著書・学術論文などの名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概要
(著書)				
『ジェンダーフリー・性教育バッシング そこが知りたい50のQ&A』	共著	2003年12月	大月書店(152ページ)	男女混合名簿、夫婦別姓に関するQ&Aを執筆した。男女混合名簿では学校のなかのかくれたカリキュラムが性役割の固定化、性に関する規範の浸透につながることを論じた。夫婦別姓に関しては、別姓が家族の崩壊を招くという批判の背景にある、「家」制度や性別役割分業を志向する家族観を問い直す必要があることを提起した。(p.88～p.92)
『フィンランドにおける性的ライフスタイルの変容—3世代200の自分史による調査研究』(翻訳)	共著	2006年6月	大月書店(280ページ)	「第2章 子ども期」を担当。20世紀に大きく変化したフィンランドの性文化を人々の自叙伝という質的調査と、同時期に行われた統計調査とを照らし合わせて構造的に把握することを試みている。自叙伝などの分析から世代間の性に関する態度や行動、意味付けの違いを、それを変容させる大きな歴史的変化という文脈のなかに位置付け、3世代モデルを導き出している。(p.38-p.54)
『はじめて学ぶ乳児保育』(コラム6担当)	共著	2009年4月	同文書院(187ページ)	保育士養成課程の学生向けに、保育所に子どもを通わせている家庭の様子を具体的に記し、子育てをしている家庭が抱える困難について記した。そのうえで、保育者による子どもや保護者への丁寧なかかわりの大切さや、家庭へのどのような支援が必要かを記述した。また、子どもが豊かな人間関係の中で育つことの大切さを指摘し、保育者の役割、保育所での集団保育の意義を論述した。(pp:94-97) 志村聡子 編著 吉長真子・藤枝充子・渡邊美智子・坂田知子・塩崎美穂・柳井郁子・小柳康子・宇都弘美 著
『青年の社会的自立と教育—高度成長期日本における地域・学校・家族—』(第IV部第2章「家族計画運動と炭鉱労働者家族の子ども観」担当)	共著	2011年2月	大月書店(384ページ)	第IV部第2章「家族計画運動と炭鉱労働者家族の子ども観」を執筆。 戦後における青年の社会的自立と教育というテーマのもと、拙稿「1950年代における家族計画運動と労働者家族の子ども観」を加筆修正した。1950年代の家族計画運動は、家族側の事情と企業側の労務管理の指導との利害が一致したところで、急速に受け入れられていった。その上で、少なく産まれた子どもたちに手厚い教育を受けさせていくという家族戦略が、時代状況に対応して徐々に受け入れられていったことを明らかにした。(pp:298-314) 著者:橋本紀子・木村元・小林千枝子・中野新之祐・柳井郁子 他5名

『はじめて学ぶ乳児保育(第二版)』(コラム7担当)	共著	2018年3月	同文書院 (203ページ)	保育者を志す学生向けに、保育の場での子どもの育ち、保護者の成長について記した。また、園生活を通じて子どもが保育者や園児たちとの関係を構築し、親も保育者や保護者とのかかわりをもつことは豊かな園生活のために大切であることを述べた。保育所での経験が子どもと保護者それぞれにどのような影響を及ぼすのか、そこで保育者に期待される役割とは何かについて論じた。(pp:122-126) 志村聡子 編著 吉長真子・藤枝充子・渡邊美智子・坂田知子・塩崎美穂・柳井郁子・小柳康子・宇都弘美 著
『はじめて学ぶ乳児保育(第三版)』(コラム7担当)	共著	2022年3月	同文書院 (208ページ)	保育者を志す学生向けに、保育の場での子どもの育ち、保護者の成長について記した。また、園生活を通じて子どもが保育者や園児たちとの関係を構築し、親も保育者や保護者とのかかわりをもつことは豊かな園生活のために大切であることを述べた。保育所での経験が子どもと保護者それぞれにどのような意味をもつのか、現代において保育所が果たす役割とはどのようなものであるかについて論じた。(pp:122-126) 志村聡子 編著 吉長真子・藤枝充子・渡邊美智子・坂田知子・塩崎美穂・柳井郁子・小柳康子・宇都弘美 著
(論文)				
「昭和戦前・戦中期における家庭教育論に関する考察—日本両親再教育協会機関誌『いとし児』の分析を中心として—」	単著	1996年3月	東京大学大学院 教育学研究科修士論文 (89ページ)	子どもの発達を阻害しかねない超早期教育への傾倒、その一方で幼児虐待の増加といった今日の家庭での教育における様々な問題を相対化するために、家庭教育の歴史の変遷の一端を明らかにすることを試みた。1928年に設立された日本両親再教育協会の機関紙『いとし児』の分析を通して新中間層の子育ての実像に迫り、現代的子育ての源流をそこに見出せることを明らかにした。
「中教審答申における「家庭」—「家庭の教育力」をめぐる—」	共著	1997年3月	民主教育研究所編『人間と教育』13号 労働旬報社(9ページ)	家庭の「教育力低下」の背景には、これまで企業中心社会の基盤として過重な負担を強いられてきた家族が地域社会の連帯の希薄化や女性の社会進出といった変化のなかで機能不全に陥っているという状況があることを指摘した。さらに今後は、「家族のみ」の社会保障制度を改め、子どもの権利保障を最優先課題にしなが、育児資源となる社会的基盤を整備していくことが課題であることを示し、それは経済論理優先の社会システム全体の見直しへとつながるものであることを論じた。(共同研究につき抽出不可) (高橋美紀・柳井郁子著)
「ドイツにおける育児支援の動向—育児の社会化への展望—」	単著	1997年6月	『東京小児科医会報』 vol.16 No. 1 (6ページ)	ドイツにおける保育制度と家族政策・育児支援について整理し、保育政策や家庭・育児支援政策における今後の課題を指摘している。保育の社会化を推進するためには、家族や企業社会のなかでのジェンダー関係を見直す必要があるが、その際、社会保障制度における「補充性(補完性)原則」をどう解釈していくかが問題であり、家族・市民社会・国家が保育機能の担い手としていかに連帯するかが模索されねばならないことを論じた。(p. 20 ~p. 25)

「明治期高等女学校教育における教科・家事科の位置—文部省例規類纂を用いて—」	単著	1997年8月	東京大学大学院 教育学研究科 教育学 研 究室『文部省例規類纂 の研究』(11ページ)	高等女学校の教育内容において、家庭教育の担い手としての賢母育成がどのように計画されていたのか、家事科教育はいかなる理念のもとに行われていたのかを、文部省例規類纂を手がかりに考察した。文部省の側では高等女学校を女教員養成機関としてよりもむしろ賢母育成の機関として位置付けていたこと、家事科教育の内容として、既に明治30年代に科学的知識に基づく家事教育がなされようとしていたことを明らかにした。(p. 132～p. 142)
「1950-60年代における企業による家族管理—新生活運動の展開に即して—」	単著	2002年3月	『東京大学大学院教育学研究科紀要』第41巻(9ページ)	企業で展開された新生活運動に注目し、すでに1950年代において企業は、労働者だけではなくその家庭をも管理の対象として位置づけ、妻の労働力再生産をいかに向上させるかに高い関心をもっていたこと、そこで提示された家族モデルは性別役割分業を基盤としていることに加えて、夫を通じて企業に貢献する妻、さらにはそれを通じて社会に寄与する妻というあり方を要求するものであったことを明らかにした。さらに、このような企業の労務管理策が労働者家族の教育意識にも変化をもたらすものであったことを論じた。(p. 106～p. 115)
「昭和戦前期における両親再教育運動と家族のおこなう教育—日本両親再教育協会機関誌『いとし児』を中心に—」	単著	2003年2月	女子栄養大学栄養学部教育学研究室『教育学研究室紀要—<教育とジェンダー>研究—』(14ページ)	両親再教育協会が昭和初期に設立され、機関誌『いとし児』を中心とした運動が展開された背景には、一つには、子どもの教育に熱心な新中間層の存在があった。そしてもう一つの背景として、新しい家庭像・主婦像の影響を受けた母親の存在があった。これらを背景としてこの時期、知能、成績、早期教育などが子育ての問題として取り上げられるようになり、新しい育児法や育児知識の習得に積極的な母親が増加した。両親再教育協会の運動はそうした家族の教育要求に応えるものであったことを明らかにした。(p. 35～p. 48)
「ジェンダーと教育—ジェンダー視点からみた教育統計を中心に—」	共著	2005年3月	『教育学研究』第72巻第1号(10ページ)	家庭教育領域におけるジェンダー統計の現状について、第一に家庭でのジェンダーの再生産への着目がなされているか、第二に家庭生活において子どものジェンダー・アイデンティティがいかに形成されるのかを明らかにする統計がとられているかという点を考察した。また、家庭教育領域におけるジェンダー統計の今後の課題についても検討した。(p.88-p.89)
「1950年代における家族計画運動と労働者家族の子ども観」	単著	2006年3月	『洗足論叢』No.34(2005年度)(11ページ)	日本家族計画普及会が発行した『家族計画』や、常磐炭鉱における家族計画運動の報告書等を資料とし、常磐炭鉱の家族計画運動がいかなる目的のもとに行われ、そこで労働者家族に起こった変化とはいかなるものであったかを考察した。常磐炭鉱の労働者家族にとっての家族計画はまずは経済上の理由から行われたが、そこには教育家族的な「少なく産んでよりよく育てる」という教育への関心が芽生えていたことを明らかにした。(p.63-p.73)

「家庭教育振興政策下の家庭教育論―大日本連合婦人会『家庭』を手がかりに」	単著	2007年3月	『洗足論叢』No.35 (2006年度)(15ページ)	1930年に創設された大日本連合婦人会(以下、連婦)において展開された家庭教育論を、機関誌『家庭』を主な史料として考察した。昭和戦前期から戦時期にかけての連婦における議論と運動の展開について、次第にその主題が家庭教育論から「婦人の修養」論へと置き替えられていったこと、その修養論とは「家庭生活」と「家庭教育」という二つの場で「生活に即した」「修養」と「奉仕」を実践するべきことを説くものであったことを明らかにした。(p.69-p.83)
「1950-60年代における親の幼児教育意識」	単著	2015年2月	『洗足論叢』第43号 (洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学) (11ページ)	家庭教育雑誌『母の友』及び家庭教育意識に関する調査の検討を通して、1950-60年代の親の幼児教育意識について考察した。考察を通して、幼稚園普及にしたがって幼稚園での幼児教育の発達の意義が次第に親たちに理解されるようになり、幼児期の社会性や自立心を育てるといった幼児教育の目標は親たちにも受容されるようになっていった様相を描き出した。また、幼児教育の意義を認めつつも、親の教育要求は学校教育でよい成績をとる、あるいは高い学歴を獲得するといった志向性をもつものであったということを明らかにした。(pp:153-163)
「保育者養成校初学者における子ども理解:詩的表現の試み」	共著	2018年2月	『洗足論叢』第46号 (洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学) (12ページ)	子ども理解について、第一に保育の実践研究として保育の中で起こっていることをどのように観察し記録するかという問題、第二に観察者と子どもとの関係性について、そして、第三に子ども理解における主観性の問題に注目し、それぞれの論点について先行研究を整理した。そのうえで、平成28年度S短期大学1年前期に実施した幼稚園半日体験において、学生自身の体験の振り返りを詩的表現によって記録することを試みる意義について論じた。 (共同研究につき抽出不可:問題関心と課題設定及び先行研究の整理にあたる部分を担当) 著者:金允貞・岡本かおり・桃枝智子・柳井郁子
「養成課程における保育の知の可能性:詩的表現の試みと子ども理解」	共著	2019年10月	『関東教育学会紀要』 第46号	実習生が子どもの心にもふれ、子どもに出会いながら保育の知を獲得するためには、これまでと違ったアプローチによる子ども理解の方法が模索されなければならないとの問題関心のもと、実習の記録とふりかえりを詩的表現を用いて行うことを試みた。保育者養成校の学生が書いた詩とそれに対する解説・感想を考察することで、詩的表現に現れる子どもの内面の理解を明らかにし、実践の中にある保育の知の可能性を探った。 (共同研究につき抽出不可:理論的背景と先行研究の整理にあたる部分を担当) 著者:金允貞・桃枝智子・柳井郁子

(報告書)				
「今日の子どもの変化をめぐる保育者の意識—保育者にとって「気になる」傾向を手がかりに—」	共著	1997年10月	平成8年度東京大学教育学部特定研究『乳幼児の変化と保育・育児の課題—臨床的育児・保育研究およびアンケート調査を中心に』平成8年度東京大学教育学部特定研究報告書(研究グループ代表 汐見稔幸)子どもの変化と学校教師の課題(その2)(124ページ)	保育の現場で、保育者にとって「気になる子」とはどのような子なのか。このことを明らかにするため、東京23区の公立保育園50園を対象に保育者の意識をアンケートによって調査した。その結果として、「気になる」子どもの傾向として、身体性、対人関係、精神面での不安定傾向に関する指摘が多いこと等を明らかにした。(共同研究につき抽出不可) (高橋美紀・柳井郁子著、データ分析・考察・論文執筆ともに両者でおこなった。)
「各領域のジェンダー統計の生産状況と必要統計—家庭教育領域—」	単著	2004年8月	日本教育学会 課題研究「ジェンダーと教育」研究委員会報告集『ジェンダーと教育』(5ページ)	家庭教育に関する男女別の統計は、政府機関よりも地方自治体と民間機関によって、より詳細に行われており、特に性別役割分集意識や子育てにおける「男らしさ」「女らしさ」など、ジェンダーの平等の問題そのものを問う統計は、全国的な統計では十分ではないことを指摘した。 必要統計としては、さまざまな男女別のクロス集計が考えられる。それにより、子どもの育ちにおける性差と家庭環境の関連を検討し課題を明らかにしていく必要があることを提起した。(p.35～p.39)
(口頭発表)				
第40回教育史学会、学会発表 「昭和戦前・戦中期における家庭教育論の展開—日本両親再教育協会『いとし児』の分析から—」	単著	1996年9月	教育史学会 第40回大会	日本両親再教育協会の機関紙『いとし児』における家庭教育論が戦時下にどのような展開を見せるのかを考察した。その結果明らかとなったのは、『いとし児』が戦時下においてなお、児童研究の成果を積極的に取り入れ子どもの心理や個性に注目し続けたということである。本誌は、むしろ大正期における子ども本位の家庭教育論流れを基本的には継承しており、その上に科学性・合理性への指向をさらに明確に打ち出していったことを論じた。
第42回教育史学会、学会発表 「家庭教育振興政策下の婦人団体—大日本連合婦人会の動向を中心に—」	単著	1998年10月	教育史学会 第42回大会	家庭教育は、国家や社会からの影響を絶えず受け近代以降大きく変化してきたが、国家が家庭教育振興を目指したとき、そこでのイデオロギーとはどのようなものであったのか。このことを明らかにするために、昭和5年創設の大日本連合婦人会における家庭教育論を検討した。 機関紙『家庭』を分析し、その主題が家庭教育論から婦人の修養論へと移行したこと、その家庭教育振興策の内実は第一に母性の修養にあったこと等を明らかにした。
第62回日本教育学会、学会発表 「男女共学制度下の学校におけるジェンダーフリー教育の実践と課題」	共著	2003年8月	第62回日本教育学会	男女共学論の質的な深まりを男女共学と男女平等教育との関連を軸にとらえた。また、「女子教育」からジェンダーフリー教育への展開とその後の女性学教育やフェミニズムの視点から取り組まれてきた実践を含んだジェンダーフリー教育の広がりを検証し、ジェンダーフリー教育の展開を整理した。 今後の課題として、親の意識や子どもの生活実態を把握した教材づくりが求められていることを示した。(橋本紀子・井上恵美子・水崎富美・田代美江子・柳井郁子・中嶋みさき)

第63回日本教育学会、学会発表 「ジェンダーと教育—ジェンダー視点からみた教育統計を中心に—」	共著	2004年8月	第63回日本教育学会	既存の教育に関する統計において、ジェンダー視点が学校・社会・家庭でどれだけもたれているのかといった点を中心に、その現状を把握し、今後の課題を明らかにした。具体的には、男女の関係構造をあらわしたジェンダー統計の教育領域における全体動向の把握と教育の各領域におけるジェンダー統計の現状を分析し、今後期待される必要統計や統計生産のための課題について提起した。 (橋本紀子・井上恵美子・柳井郁子・中嶋みさき・廣田健・長香織・森政淳子)
「赤ちゃんの泣きと保育環境・方法に関する研究(7)-乳児保育実践史から-」	共著	2007年5月	日本保育学会第60回大会	乳児保育実践を振り返る史料として、保育現場でよく読まれてきた保育雑誌『幼児と保育』(小学館、1955年4月創刊)を分析した。いつ乳児保育は雑誌上で語られ始めるのか、そして、そこに現れる赤ちゃん観、「泣き」観はどのようなものか、乳児の保育カリキュラムが意識的に語られるようになるのはいつどのようにかを明らかにした。(塩崎美穂・星三和子・柳井郁子・勝間田万喜・大川理香)
(その他)				
辞典項目執筆: 「学校外教育」「家庭教育」「家庭教育学級」「家庭訪問」「帰国子女教育」「公民館」「国際理解教育」「子ども劇場」「子ども文庫」「在外日本人学校」「社会教育」「地域異年齢集団」「地域の教育力」「PTA」「病院内学級」「訪問教育」「幼児教育」「幼稚園」		2002年4月	柏女霊峰他編『子ども家庭福祉・保健用語辞典』資生堂社会福祉事業財団(301ページ)	それぞれの項目について、基本概念や歴史的経緯を整理すると同時に、文部科学省や厚生労働省の最近の動向、各分野での学術レベルでの議論をふまえて論述し、教育的視点から今後の展望を述べた。
「解題: 藤井治枝著『これからの女性と女子教育—社会進出時代の女子教育の見方考え方—』」	単著	2005年5月	『「現代女子教育文献集」解説』,日本図書センター(5ページ)	1969年に出版された『これからの女性と女子教育—社会進出時代の女子教育の見方考え方—』について、その意義を検討した。本書は、当時の女子教育の課題を知ることができるだけでなく、その後の女子教育や女子労働論、ジェンダー論で論じられることになる枠組みをすでに提示しているという点でその先見性を示していることを指摘した。(p.169~p.173)
「解題: 奥山えみ子編『共働きのもんたい』」	単著	2005年5月	『「現代女子教育文献集」解説』,日本図書センター(5ページ)	1971年に出版された『共働きのもんたい』について、その意義を検討した。本書の提起する家事・育児の家庭内での分担と労働時間の短縮は、今日の政策課題とされる家事労働と雇用労働との間のジェンダーフリーなワークシェアリングの前提条件となるものであるが、今もなお女性労働者を取り巻く現実には厳しいものであり、本書で示された課題は引き続き女性だけではなく男性をも含めた労働者全体の連帯によって達成がめざされるべきものであることを指摘した。(p.199~p.203)

「私の推薦図書」	単著	2012年7月	洗足学園音楽大学附属図書館 洗足こども短期大学附属図書館(8ページ)	学生向けに、堀尾輝久著『教育入門』(岩波書店、1989年)を紹介した。初版から20年を経てもなお、本書が指摘する「「過剰な教育」のもとでの教育不在」という問題状況は改善されておらず、教育現場での子どもの権利思想の実現についても多くの課題を抱えている。「学ぶっておもしろい」「わかるって楽しい」という子どもたちの実感をともなう学びとはどういうものなのか、そしてそれはいかにして実現可能なのか、といった本書の提起するテーマの今日的意義を指摘した。(p.1)
辞典項目執筆: 「日本保育学会」「児童愛護連盟」「民主保育連盟」		2019年12月	『保育学用語辞典』 秋田喜代美監修/東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター編著 中央法規	それぞれの項目について、保育の実践者、研究者、保育及び教育・心理などの隣接領域の学生を想定し、保育の歴史的発展をふまえた説明をした。
(社会における主な活動)				
幼稚園教諭免許状更新講習講師		2019年8月	川崎市幼稚園協会	「幼稚園をめぐる近年の状況を踏まえた教員の役割」を担当
幼稚園教諭免許状更新講習講師		2020年8月	川崎市幼稚園協会	「幼稚園をめぐる近年の状況を踏まえた教員の役割」を担当
幼稚園教諭免許状更新講習講師		2021年8月	川崎市幼稚園協会	「幼稚園をめぐる近年の状況を踏まえた教員の役割」を担当

教育研究業績書

2023年5月1日

氏名 堀 純子

著書・学術論文などの名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概要
(著書)				
幼児の健康と運動遊び	共著	1999年4月	保育出版社 (226ページ)	幼稚園教諭・保育士をめざす学生に対し、幼児期における健康と運動遊びの重要性を提唱した教科書として編集された。幼児の「生活習慣の自立」を食事・排泄・清潔・睡眠・衣服の着脱について、自立の目安をあげて概説した。 3章4節(pp.45-46) 宇土正彦監修 畠山倫子編集 堀純子他44名分担執筆
保育のための小児保健	共著	2001年4月	保育出版社 (238ページ)	保育の現場で実際に役立つような小児保健の知識と考え方を習得できる本を目指して編集された。新生児期、乳児期、幼児期の「運動機能の発達」について担当し、先行研究だけではなく、写真を載せ、具体例をあげて、わかりやすい解説になるよう工夫した。 6章2-4節(pp.81-87) 高内正子編著 堀純子他28名分担執筆
子育て支援における保健相談マニュアル	共著	2007年6月	日本小児医事出版社 (320ページ)	保育園の子育て支援という役割の重要性に基づき、保護者向けのパンフレットの部分と保育士として現場に必要な保健知識の部分の二つより構成されている。「子どもの心の健康のためのコーチング」を担当し、「1.ベビーマッサージ、2.情緒の発達とペット、3.子どもの心をつかむ聴き方・話し方、4.心の健康を守るために心がけること」について写真や図を用いてわかりやすく記述した。 48(pp.285-288) 田中哲郎監修 堀純子他41名分担執筆
小児保健実習	共著	2008年3月	株式会社みらい (198ページ)	保育士養成校の小児保健実習の教科書として、保育士が現場に必要な内容を最新の情報に基づいてワークやコラムなども盛り込んで編成されている。「保育における健康観察」について、「発育の観察」と「生理、感覚、運動、精神機能などの発達の観察と評価」を担当した。 2章4-5節(pp.24-42) 中根淳子、服部右子編 堀純子他9名分担執筆
子育て支援における保健相談マニュアル 改訂版	共著	2009年9月	日本小児医事出版社 (321ページ)	保育園の子育て支援という役割の重要性に基づき、保護者向けのパンフレットの部分と保育士として現場に必要な保健知識の部分の二つより構成されている。48「子どもの心の健康のためのコーチング」を担当し、「1.ベビーマッサージ、2.情緒の発達とペット、3.子どもの心をつかむ聴き方・話し方、4.心の健康を守るために心がけること」について写真や図を用いてわかりやすく記述した。(pp.286-289) 田中哲郎監修 堀純子他41名分担執筆

心とからだを育む子どもの保健Ⅰ	共著	2012年2月	保育出版社 (192ページ)	保育の現場で実際に役立つような子どもの保健の知識と考え方を習得できる本を目指し、「小児保健」から「子どもの保健」への名称変更に伴い、改編された。6章1-2節「子どもと運動機能の発達」「運動発達の方向性」について担当し、写真とともに各月齢・年齢における具体例を挙げて、体を動かして遊ぶことで体の機能の発達が促されることについて、わかりやすい解説になるよう工夫した。(pp.65-69) 高内正子編著 堀純子他39名分担執筆
演習 子どもの保健Ⅱ	共著	2012年5月	株式会社みらい (226ページ)	保育士養成校の子どもの保健(演習)の教科書として、保育士が現場に必要な内容を最新の情報に基づいてワークやコラムなども盛り込んで編成されている。 2章「保育における健康観察」について、4節「発育の観察」と5節「生理、感覚、運動、精神機能などの発達の観察と評価」を担当した。健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作りだす力を養うことの重要性についての解説などをした。(pp.30-49) 中根淳子、服部右子編 堀純子他9名分担執筆
子育て支援における保健相談マニュアル 改訂第3版 保護者用パンフレットCD付	共著	2013年3月	日本小児医事出版社 (407ページ)	保育園の子育て支援という役割の重要性に基づき、保護者向けのパンフレットの部分と保育士として現場に必要な保健知識の部分の二つの構成は変えずに、内容を追加、編集を変更した。園で実際に保護者に配布できるようにCD版が同封された。「第Ⅷ章 育児に必要な知識12子どもの心の健康のためのコーチング」について担当した。(pp.372-374) 田中哲郎監修 堀純子他48名分担執筆
心とからだを育む子どもの保健Ⅱ(演習)	共著	2013年3月	保育出版社 (142ページ)	子どもに親しみをもてるような保健演習を通して、保育者養成校にて「子どもの保健Ⅱ」を学ぶために編集された。2章2節「胎児の成長と母親の健康診査」(1.不妊外来と不妊治療の在り方、2.胎児期の母子の健康な成長の在り方)について担当した。乳幼児期の健康は母親の健康状態からも影響を受けており、それは出生後から始まるのではなく、胎児期から始まっていることなど、母子保健について認識を深める内容とした。(pp.22-23) 高内正子編著 堀純子他33名分担執筆
保育者養成課程 子どもの保健Ⅱ	共著	2013年10月	光生館 (184ページ)	保育士養成課程カリキュラムの変更に伴い、「小児保健実習」の内容を改正した「子どもの保健Ⅱ」(演習)のテキストとして刊行された。2章「子どもの保健と環境」(1.保健における養護と教育の一体性、2.子どもの健康増進と保育の環境、3.子どもの生活習慣と心身の健康、4.子どもの発達援助と保健活動)について担当した。(pp.22-52) 志賀清悟編著 堀純子他9名分担執筆

保育者養成シリーズ 子どもの保健 I	共著	2014年3月	一藝社 (213ページ)	保育者養成校で「子どもの保健 I」を学ぶために必要な事項をわかりやすくコンパクトにまとめた本である。第3章「小児の発育と発達」(第1節 発育と発達、第2節 発育と発達の様子 第3節 発育・発達と保育)および、第15章「母子保健対策と保育」(第1節 母子保健と子ども 第2節 母子保健に関するわが国の現状 第3節 母子保健対策)を担当した。(pp.38-47、pp.200-210) 林邦雄・谷田貝公昭監修 加部一彦編著 堀純子他9名分担執筆
現場のエピソードに学ぶ保育士受験対策講座 子どもの保健 (三幸保育カレッジ)	共著	2016年10月	株式会社 日本教育クリエイト (112ページ)	保育士受験対策講座で使用するテキストとして編集されたシリーズ。第2章「子どもの発育・発達と保健」、第3章「子どもの疾病と保育」、第4章「子どもの精神保健」、第5章「環境および衛生管理並びに安全管理」を担当した。心と体の健康は相互に密接な関係があること、自分の体を大切にしようとする気持ちが育つような保育者の働きかけが重要であること、子どもの情緒の安定を図りながら、遊びを通して安全について学ぶようにすることについて理解を深められるような内容にした。(pp.21-43、pp.45-64、pp.67-75、pp.77-84) 吉田真理監修 宇佐美かおる編 堀純子 宮川萬寿美 内山有子著
(学術論文)				
教育実習の実態調査 —実習における実習生の生活実態と課題—	共著	2007年3月	洗足論叢	1年次の教育実習において多様化する幼稚園の考え方や保育方法と、学生の実態を把握し、今後の教育実習指導に生かすための課題を見出した。 坪井葉子、堀純子 第35号(平成18年度): pp.135-143
教育実習の実態調査 —2年次実習における課題—	共著	2008年1月	洗足論叢	2年次の教育実習について1年次との比較検討から2年次の教育実習のあり方や課題について検討した。 堀純子、坪井葉子 第36号(平成19年度): pp.191-200
教育実習における自己評価 —実習指導の課題を探る—	共著	2009年1月	洗足論叢	2年次の教育実習について、これまでの実態調査に加えて、学生自身の自己評価の結果から実習指導の課題について検討した。 堀純子、坪井葉子、大條あこ 第37号(平成20年度): pp. 281-298
教育実習の課題 —実態と自己評価から課題を探る—	共著	2010年1月	洗足論叢	平成17年度から継続して行っている教育実習の実態調査から、学生の実習に望む態度の変化として、準備不足や自己分析能力の低下の可能性が示唆された。 坪井葉子、堀純子 第38号(平成21年度): pp.189-210
保育士に求められる 保健分野の知識・技術についての現状と課題	単著	2016年2月	洗足論叢	「子どもの保健」の授業について改善を図るために、①「子どもの保健(演習)」の実技テストの結果から学生の現状を知り、②現役保育士を対象としたアンケートから、保育士が保健分野の知識や技術をどこまでどのように習得すべきかを検討した。演習形式であるから見えてくる問題点や保育士として現場で重要だと感じられていることが明らかとなった。(13ページ) 第44号(平成28年度): pp.187-199

保育所保育指針・保育士養成課程基準を踏まえた乳児保育の授業展開の検討	共著	2022年3月	洗足論叢	「乳児保育」に対するより深い理解と実践力が求められているようになった状況において、保育士養成校の授業について学生の現状に合わせた授業展開を検討するために、保育指針と保育士養成課程基準とシラバスを照らし合わせ、「乳児保育Ⅱ」の授業受講者を対象としたアンケート結果から学生の現状を知り、今後の授業展開について検討した。(13ページ) 第50号(2021年度):pp.145-157
(学会発表:口頭・ポスター)				
小中学生の身長・体重月次データ5年間の解析	共同	1997年10月	日本学校保健学会	発育研究では横断的方法だけではなく、個人の月次データを時系列解析するという縦断的方法の重要性が指摘されてきている。しかし、長年にわたる短期間ごとの測定は困難であるうえ、進学を機にデータが途切れることも多い。本研究では5年間の連続した月次データが得られた小中学生について、その発育特性を調べた。 堀純子、岩城淳子、小林正子、東郷正美、衛藤隆
幼稚園教育実習の実態調査と実習指導の課題	共同	2009年5月	日本保育学会	幼稚園教育実習について、学生が記入した実態調査の結果、子どもとの関わりはできているが、個々への配慮を含む援助や指導的な関わりが難しいことを経験し、今後の課題として自覚できていることがわかった。学生自身が数値で達成率を確認する自己評価は、学生に自信を持たせる効果があると考えられた。 堀純子、坪井葉子、大條あこ
保育士養成校における保健分野の技術取得状況と課題	単独	2014年11月	日本公衆衛生学会	保育士養成過程における「子どもの保健(演習)」科目の実技試験結果から、短期大学生の保健分野における技術取得状況を調べた。学生の資質が変化しているなかで、手順やポイントを習得できていないだけでなく、考える力や配慮に乏しいことに対する改善策が必要であることが明らかになった。
保育者に求められる保健分野の知識についての一考察	単独	2015年5月	日本保育学会	保育士資格取得の必修科目の1つである「子どもの保健」の授業内容について、現役保育士が感じている実情を調べること、現在、保育者に求められる保健知識を見直すことを目的とした。「乳児の養育方法」は実習前に習得が期待されることや、「感染症の知識」の重要性がわかり、また、保護者への対応には苦慮している様子も伺えた。
短期大学学生の保健体育に関する知識の現状と今後の課題	単独	2015年11月	日本学校保健学会	短期大学生が保健体育に関する知識をどの程度身につけているかは明確でない。今回の調査では、避妊方法、人工妊娠中絶や、妊娠、出産などについては認知度が高く、検診や病気、不妊や生殖補助医療などについては理解が不十分か知らない割合が高いことがわかった。学生生活最後であり、その後の妊娠・出産や子育て支援につながる学びの場という認識で内容を再考する必要があることがわかった。
保育所実習における保健分野の実践と学びについて	単独	2016年5月	日本保育学会	現役の保育士を対象としたアンケート結果から、現在、保育所で保育士に必要とされている保健知識を調べた。「乳児の養育方法」は実習前に習得が望ましく、「病気(特に感染症)の知識」が重要だと感じている保育士が多かった。保健分野においても、保護者に対応できる知識に加えて、思考力やコミュニケーション能力が必要不可欠であるということがわかった。

<p>保育者養成校における学生の心身の現状および保育者としての健康管理の課題</p>	<p>共同</p>	<p>2018年10月</p>	<p>日本保育保健学会</p>	<p>短期大学2年生を対象としたアンケートより、保育者養成校の学生の心身の自覚症状や健康状態について調べた。実習中に増えた自覚症状は「強い倦怠感」「頭痛」「カフェインの過剰摂取」があり、原因として「不安・緊張・プレッシャー」「睡眠不足」が挙げられた。「アレルギー」に関しては自己管理ができていたことが伺えたが、就職に向けて不安なことに「月経痛」が多かった。学生自身が「生活リズムを整える」「運動習慣を持つ」ことの必要性を実感していることはわかったが、養成校としての具体的な支援につなげていくことが今後の課題である。 推野万里子、堀純子</p>
<p>保育者養成における保健分野の学びの現状と不安を踏まえた授業内容の検討と今後の課題</p>	<p>共同</p>	<p>2018年10月</p>	<p>日本公衆衛生学会</p>	<p>保育における保健分野の対応は医療職との連携について課題もある。本研究では、学生を対象としたアンケートより、養成校で習得すべき保健分野の内容について検討した。就職にあたり不安な内容は救急時の対応、応急手当の他、予防接種などについての保護者への説明が挙げられた。また、実習中に経験した内容については乳児クラスでの経験が全くできなかった学生もあり、個人差が大きかった。保健分野の学びについては大きな不安を抱えたまま就職する現状にあり、他職種とのサポートのあり方を含めて、養成校での学び方を再検討することが今後の課題である。 堀純子、推野万里子</p>
<p>コロナ禍における「手洗い」の教育方法の検討ー保育者養成校学生の実態からー</p>	<p>共同</p>	<p>2021年11月</p>	<p>日本学校保健学会</p>	<p>新型コロナウイルス感染症の流行下、保育者はより高い感染予防意識と対策が求められる。感染予防の基本である「手洗い」の習得と、感染予防意識の向上を目的として、実技演習授業を実施した。簡易手洗いチェックの自己採点結果からコロナ禍における「手洗い」の教育方法を検討した。 推野万里子 堀純子</p>
<p>保育者養成校の学生および保育者を対象とした心肺蘇生法の習得方法の検討</p>	<p>共同</p>	<p>2021年12月</p>	<p>日本公衆衛生学会</p>	<p>保育者養成校の学生および保育者が確実に心肺蘇生法を修得するための方法を以下の点より検討した。蘇生ガイドラインの改定について、乳幼児を対象とした内容を中心に整理し、保育者養成校の学生と保育者を対象とした心肺蘇生法に関する文献をまとめた。「子どもの健康と安全」の授業について、公開されている保育者養成校のシラバスを検索し、心肺蘇生法を授業でどの程度実施しているか、現状を確認し、コロナ禍における心肺蘇生法の授業の実際と今後の課題について、保育者養成校の「子どもの健康と安全」を担当する教員に聞き取り調査を実施した。 堀純子 推野万里子</p>
<p>コロナ禍における学生の感染予防に対する意識の現状と課題 ー保育者養成校学生の手指衛生に関する実態からー</p>	<p>共同</p>	<p>2022年5月</p>	<p>日本保育保健学会</p>	<p>①手洗い教育用キットとチェックシートを用いて洗い残しを視覚化し、自己評価を行った。②ハンカチ・手指消毒液の携帯状況、実施している感染予防対策についてのアンケート調査を実施した。コロナ禍にあっても、保育者養成校学生の手指衛生状況は良いとはいえず、学生の感染予防に対する意識の低さが明らかとなった。日常生活における基本的な手洗い習慣の見直し、入学時から卒業までの期間を通じた積極的感染予防教育、継続した調査・研究と教育方法の検討の必要性が示唆された。 推野万里子 堀純子</p>

(その他:講演等)				
「子どもの中の世界/世界の中の子ども」第10回 「子どものからだとスポーツ」	単独	1998年11月	1998年度 かがわ女性カレッジ	香川県主催のかがわ女性カレッジの講師を務めた。香川県民対象の公開講座のうちシリーズの一回を担当した。子どもの発育および運動発達と、スポーツを行う際に知っておきたいことについて解説した。
「食育 ～今、なぜ食育?家庭での食育とは?～」	単独	2006年11月	幼稚園児を持つ母親のための 「洗足会講演会」	洗足学園大学附属幼稚園主催の幼稚園児を持つ母親のための「洗足会講演会」の講師を務めた。食育に関心を持つ幼稚園児の母親を対象に、附属幼稚園での講演会を担当した。食を取り巻く現状や行政の取組みを紹介しながら、家庭での食育について考える内容とした。
「子どもの食生活 (①子どもの口の動き ②生活リズム ③子どもの角度から食事を考える)」	単独	2007年2月	多摩市栄養士担当者部会 研修会	多摩市主催の多摩市栄養士担当者部会研修会の講師を務めた。多摩市の栄養士を対象とした研修会の一回を担当した。乳児期の哺乳と離乳食について口の動きに着目した内容と、生活リズムや子どもの角度から食生活を見直す内容とした。
「子どもの保健 (感染症の動向と予防接種 ・母子健康手帳の改正 ・生殖補助医療と出生前診断)」	単独	2013年7月	(財)川崎市保育会 職員夏季研修会	(財)川崎市保育会主催の職員夏季研修会の講師を務めた。「子どもの保健(感染症の動向と予防接種・母子健康手帳の改正・生殖補助医療と出生前診断)」について、((財)川崎市保育会 職員夏季研修会)川崎市保育会の保育士を対象とした研修会の一講座を担当した。
「子どもの保健 (子どもの生活習慣とからだの変化 ・母子健康手帳の改正と母子保健情報 ・感染症の動向と予防接種の改正 ・子どもの事故を防ぐために)」	単独	2014年7月	(財)川崎市保育会 職員夏季研修会	(財)川崎市保育会主催の職員夏季研修会の講師を務めた。「子どもの保健(子どもの生活習慣とからだの変化・母子健康手帳の改正と母子保健情報・感染症の動向と予防接種の改正・子どもの事故を防ぐために)」について、((財)川崎市保育会 職員夏季研修会)川崎市保育会の保育士を対象とした研修会の一講座を担当した。
「子どもの生活習慣とからだの変化を踏まえた課題について考える」	単独	2014年8月 2015年8月 2016年8月 2017年8月 2018年8月 2019年8月 2020年7月 2021年8月	公益社団法人 川崎市幼稚園協会	公益社団法人川崎市幼稚園協会主催の免許状更新講習の講師を務めた。担当項目「子どもの変化についての理解」のうち、「子どもの生活の変化を踏まえた課題」について、「子どもの生活習慣とからだの変化を踏まえた課題について考える」というテーマで「1. 子どもの生活習慣とからだの変化、2. 乳幼児健診、母子健康手帳と母子保健、3. 感染症と予防接種、4. 子どもの事故を防ぐために」を取り上げ、最新のデータや最近の話題を紹介しながら解説した。
短大見学会(オープンキャンパス)体験授業	単独	2013年8月 2014年8月 2015年8月 2016年7月 2016年8月 2021年3月	洗足こども短期大学 オープンキャンパス	短大見学会(オープンキャンパス)の大学講義体験授業(「赤ちゃんのお世話」)を担当した。
高校出張講義・高校生来校模擬授業	単独	2008年4月～ 2021年1月	玉川学園高等部、神奈川県立百合ヶ丘高等学校、神奈川県立旭高等学校、神奈川県立金井高等学校、神奈川県立藤沢西高等学校、東京都立美原高等学校、東京都立芦花高等学校	高校への出張・高校生の来校により大学講義模擬授業(「赤ちゃんのお世話と保育者の仕事」他)を担当した。

教育研究業績書

2023年5月1日
氏名 石濱 加奈子

著書・学術論文などの名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概要
(著書)				
子どものしあわせ 父母と教師を結ぶ雑誌	共	2023年2月	日本子どもを守る会	「ひろがる『31条ムーブメント』—「31条のひろば」体験記—」を執筆 (pp.30-34)
子どもと社会の未来を拓く —保育内容—健康	共	2022年3月	青踏社	第3章子どものからだと発育発達 「1からの発育発達」、「2からの発育発達における現代課題」を執筆 (pp.31-38)
子どもの運動・遊び —健康と安全を目指して—	共	2021年9月	アイ・ケイコーポレーション	編著 1章「SECTION6健康課題からみた幼稚園・保育所に求められるもの」、2章「SECTION3幼児期運動指針」、3章「SECTION2小さな空間での運動遊び、3運動量を確保する運動遊び」、保護者に伝えたい子どもの健康・運動情報「気晴らしの保障」を執筆 (pp.24-29、40-45、50-57、102-103)
子ども白書2021	共	2021年8月	かもがわ出版	「余暇・遊びと子どもの健康」を執筆 (pp.106-107)
子どものからだと心白書2019	共	2019年12月	ブックハウスHD	「子どもが自由時間にやりたいこと：調査結果」を執筆 (pp.38-40)
(学術論文)				
不定愁訴と自己イメージに及ぼす生活活動(既定生活活動、余暇活動)の影響：小学3～6年生を対象として	共	2021年3月	日本幼少児健康教育学会誌 第6巻2号(9ページ)	小学3～6年生993名を対象に、自己記入式の調査票を用いて、平日の生活行動と不定愁訴及び自己イメージを尋ねた。生活行動は、睡眠、塾・習い事、勉強、食事で構成される既定生活活動と、外遊び、屋内遊び、ぼんやりする、家族とのおしゃべりで構成される余暇活動とに分け、それぞれが同時に不定愁訴と自己イメージに及ぼす影響を構造方程式モデリングにより分析した。その結果、既定生活活動よりも余暇活動の方が不定愁訴と自己イメージに影響を強く及ぼすことが示され、特別な活動をせずとも余暇を保障することで心身を充実させることができるかと推測された。(pp. 101-109) (共同研究のため抽出不可、全体的な研究の遂行と結果の解釈をもとに執筆を担当)
What Japanese Children Actually Do and What They Wish To Do in Their Free Time (日本の小学生における生活時間の実態と自由時間にやりたいこととの関連)	共	2020年9月	Child Care in Practice Published online: 18 Sep. 2020 (13ページ)	小学3～6年生1230名を対象に、生活時間と自由な時間にもっともやりたいことを尋ね、それらの関連を検討した。自由な時間にもっともやりたいことに多く選ばれたのは「ゲーム機、携帯電話、スマートフォン、タブレット、PCなどを使う」であり、次いで「からだを動かして遊ぶ」であった。生活時間との関連では、やりたいこととやっていることが一致する結果となり、自由な時間の不足とともに、それしか選ぶことができない経験の不足も懸念された。(共同研究のため抽出不可、全体的な研究の遂行と結果の解釈をもとに執筆を担当)

S短期大学の女子学生における体力の推移について —2010年から2016年までの測定結果より—	単	2018年2月	洗足論叢第46号 (8ページ)	2010～2016年にS短期大学に在籍した女子学生のうち、体カテストと背筋力のデータに欠損のない3778名を対象にした。体カテストについては、横ばいもしくは多少の向上傾向であった。背筋力については、低下傾向であった。もっとも高値を示した2013年と最も低値を示した2016年との平均値を比較する10kg以上にもなった。また、いずれの年も両側に均等に分布しているものの、幅は2016年の方が広い分布となった。(pp. 379～386)
幼児期の発達調査に関する提言 —S幼稚園児の土踏まず測定と生活アンケート結果をもとに—	共	2016年2月	洗足論叢第44号 (10ページ)	S幼稚園児を対象に、土踏まずの測定と生活に関するアンケート調査を3年間縦断的におこなった。その結果、男児においては、身体を活発に動かす活動を好む、素早い身のこなしができる、母親との運動遊びをよくおこなう、父母が運動を好む、という項目と、土踏まずの有無との間に関連がみられたが、女児ではそのような結果を得ることができなかった。(共同研究のため抽出不可、足跡測定・分析および背景・考察の執筆を担当)
幼児の運動能力向上を促す保育活動の提案：S幼稚園児の足跡・運動能力・生活習慣の関連性から	共	2014年9月	運動・健康教育研究 第23巻1号(8ページ)	足跡測定、運動能力テスト、保護者を対象とした生活アンケートから、運動能力向上のための保育活動を提案することを目的とした。その結果、日常の運動量や運動経験が影響を及ぼしていると考えられ、対象園児は運動経験が乏しいことが考えられる結果となった。そこで、広い敷地を利用し運動量を確保すること、多様な動きを伴う運動を取り入れること、歩行量を増やすこと、などの提案をした。(共同研究のため抽出不可、足跡測定・運動能力テストの準備、実施および調査結果の分析を担当)
背筋力からみた運動習慣・生活習慣への提案	単	2014年2月	洗足論叢第42号 (7ページ)	背筋力の測定と運動・生活に関するアンケートとの結果から、背筋力の維持・向上に必要な生活・運動習慣を導き出すことを目的とした。その結果、背筋力指数(背筋力/体重)1.5以上群の方が、1.5未満群よりも運動に意欲的であり、集中や協調性、社交性なども優れていた。運動のみならず生活行動全般への意欲的な取り組みが、背筋力の向上につながるということが示唆された。(pp. 179～185)
子育て支援における一考察 —子育て支援セミナー参加者に対するアンケートの分析より—	共	2012年3月	洗足論叢第40号 (6ページ)	平成23年5月に行われた子育て支援セミナーに参加した参加者よりアンケートを集計し、子育て支援の在り方について検討した。その結果、教育機関であるという特性を活かし、専門的な立場から地域における育児負担感を軽減することの必要性が浮き彫りになった。(共同研究により抽出不可、プログラム内容および方法の執筆)
幼児の体力向上に関する基礎研究 —S幼稚園児の足跡測定と生活アンケート結果の関連—	共	2012年3月	洗足論叢第40号 (8ページ)	幼児の体力向上に資する保育内容の提言にむけての基礎資料を得るために、川崎市のS幼稚園児を対象に、足跡測定と、保護者への生活アンケートを実施し関連を考察した。①土踏まずの形成は年齢が上がることに進んでいること、②生活習慣では良い睡眠習慣が形成されていること等が認められたが、多くの生活習慣と土踏まずの形成の関連には顕著な相関は見出せなかった。一方、子どもの運動量の認識に保護者と担任教師間に差が見られたことなど、今後の研究への視点が見出された。(共同研究のため抽出不可、足跡測定・分析および研究背景・方法の一部の執筆を担当)

保育者養成校における体育授業に求められる課題について ～幼児教育保育科学生の体力の現状より～	単	2011年 2月	洗足論叢第39号 (7ページ)	幼児教育保育科に在籍する女子学生650名を対象に新体力テストと背筋力測定を行い、体育授業における課題を明確にすることを目的とした。体力テストの結果は、全国平均とほぼ同等であったが、背筋力は育児に適應できるとされる値に達しておらず、体幹の筋力向上が課題であることが明らかとなった。(pp. 15～21)
(その他・学会発表等)				
屋内遊び・外遊びと家庭学習への意欲との関連 - 小学3～6年生を対象として -	共	2022年9月	日本幼少児健康教育学会、第41回大会 【秋季:山陽小野田大会】	屋内遊び・外遊びと家庭学習への意欲との関連を明らかにするため、1都4県の公立小学校に在籍する小学3～6年生の男女965名を対象に家庭学習、屋内遊び、外遊びに従事した時間および意欲をそれぞれ尋ねた。その結果、外遊びを「やりたい」と思って実現できた子どもで、家庭学習への意欲が高いことが示された。
小学生の自由時間と心身の健康との問題	単	2020年 8月	教育科学研究会 「身体と教育」部会 特別例会	小学生(3～6年生)の余暇の実態と、既定された活動と余暇活動が、不定愁訴や自己意識に及ぼす影響について検討した。その結果、余暇にもっともやりたいことは「ゲームやスマートフォン」がもっとも多く選ばれた。加えて、自由に使うことができると考えられた余暇活動は、既定生活活動より不定愁訴と自己意識に好影響を及ぼす可能性も示唆された。
子どもの自由時間の満足感と自己肯定感・生活時間との関連	共	2020年3月 (web発表5月)	日本発育発達学会 第18回大会	1都4県の公立小学校に在籍する小学3～6年生の男女1,190名を対象に、自由時間に対する満足感と自己肯定感、生活時間に関する調査をおこなった。その結果、自由時間に不満と答えた子どもに比して、満足と答えた子どもの方が自己肯定感が高い傾向にあった。また、自由時間に満足と答えた子どもは、塾や習い事といった「しなければいけないこと」の時間が有意に短く、「屋内遊び」の時間が有意に長かった。
子どもが経験したことがある遊びとやりたい遊びとの関連: 小学3～6年生を対象として	共	2019年9月	日本幼少児健康教育学会、第38回大会 【秋季:広島大会】	1都4県の公立小学校に在籍する小学3～6年生の男女1,304名を対象に、遊びに対する知識、経験、意欲、を調査した。その結果、多くの外遊びは90%前後の認知度があり十分に伝承されていない様子が確認できた。経験と欲求との関係からは、経験がある遊びの方が欲求が高くなるという有意な関連が明らかとなり、各遊びに対する欲求はその遊びの経験に基づくことが推測された。
保護者との約束事が子どもの自由時間における満足感に及ぼす影響	共	2018年12月	第40回 子どものからだと心 全国研究会議	1都4県の2159名の小学3～6年生の男女とその保護者を対象に、子どもの自由時間についてアンケート調査をおこなった。その結果、自由時間に満足な子どもは全体の76%、不満足な子どもは19%であった。保護者との約束事については、時間や場所などを連絡する約束事がある方が満足感が高いということが示され、自由時間の約束事は保護者から見守られている感覚になるのだろうと考えられた。
子どもが自由な時間にやりたいことと生活状況との関連	共	2018年10月	三大学院合同研究発表 会	世田谷区の公立小学校に在籍する3～6年生14911名を対象とした。「自由時間にやりたいこと」と生活状況との関連を二項ロジスティック回帰分析により検討した。その結果、日ごろ外遊びをしている者は、自由時間に身体活動を望み、日ごろ外遊びをしていない者は自由時間にゲームやパソコンなどをしたいと望んでいることが明らかとなったことから、日ごろやっていることとやりたいことは一致することが考えられた。

自由時間に「何もしたくない」「寝たい」と考えている子どもの生活と体調 —世田谷区の悉皆調査の結果を基に—	共	2018年8月	日本体育学会 第69回大会	世田谷区の公立小学校に在籍する3～6年生14911名を対象とした。「自由時間にやりたいこと」「寝る」「何もしない」と答えた者とそれ以外の者との生活状況を比較した。その結果、睡眠時間や通塾状況などには有意な差が見られなかったが、だるさ感や元気度には有意な差が見られ、心身の不調が自由時間にネガティブな欲求を引き起こす要因になっていることが明らかとなった。
子どもが「自由時間にやりたいこと」とその生活関連要因の検討 —世田谷区の悉皆調査の結果を基に—	共	2018年3月	日本発育発達学会 第16回大会	世田谷区の公立小学校に在籍する3～6年生14911名を対象とした。「自由時間にやりたいこと」は、からだを動かして遊ぶと答えた児童が多く、高学年になるにつれ、携帯電話・スマートフォン・タブレット・パソコンを使うが多くなった。生活関連要因としては、からだを動かして遊ぶと答えた児童は日常で外遊びをすると答える割合が高く、日ごろおこなっていることがやりたいことにつながる事が考えられた。
体力の感覚的判断と背筋力との関連について	単	2017年8月	日本体育学会 第68回大会	女子短大生584名を対象に、体力に対する自信と背筋力との関連を2011年と2016年の比較から検討することを目的とした。背筋力の平均値は2016年が有意に低値を示した。体力に対する自信について、いずれの年も「ある」「ふつう」「あまりない」と答えた割合は変わらなかった。これらのことから、背筋力の有無は体力の自信とは関係がないが、相対的な割合が変わらないことから、周囲との比較によって自信につながっていることが明らかとなった。
保育科学生における体格と体力・アンケート調査結果との関連 ～やせ傾向の学生に着目して～	単	2017年3月	日本幼少児健康教育学会 第35回大会	保育科学生284名を対象に、体重・体脂肪・体力テスト・アンケート調査を実施した。その結果、BMI18.5未満、体脂肪率20%未満に該当する者は、35名だった。やせ傾向の者と普通以上の者とは、体力テストの結果に差はなかったが、テレビ視聴時間が長く、気持ちの集中と粘り強さが低いことが示された。さらに、やせ傾向の者を、低体重、低体脂肪、両方ともに低い、とに分けたところ、低体重の者は他の者よりも握力・背筋力が有意に低いという結果を示した。
女子短期大学生における持久走と感情・意欲との関連について	単	2016年8月	日本体育学会第67回大会	女子短大生1240名を対象に、持久走の測定とアンケート調査を実施した。その結果、持久走タイムが速い方が、「健康である」「体力がある」と感じる割合が高く、意欲や行動力が高いことが示された。また、粘り強さや人付き合いといった外へ働きかける力も高いことが明らかとなり、持久走の測定は、個人の意欲や行動力、自信のパロメータとなることが考えられた。
女子短大生における背筋力・BMI・体力テストの関連について	単	2016年3月	日本幼少児健康教育学会 第34回大会	女子短大生1330名を対象に、背筋力と体重、体力テストを実施し、それらの関連を調査した。その結果、背筋力指数(背筋力/体重)1.5以上であっても、BMIが低いとパワー系の種目が有意に低いことが示された。背筋力指数1.5未満の者は、BMIが低いとパワーが、BMIが高いと体を移動させる種目が低いことが示された。これらのことから、背筋力指数に合わせ、BMIも含めた体力の検討が必要であることがわかった。

S幼稚園における幼少児の土踏まず測定と生活アンケート結果の分析	共	2016年3月	日本幼少児健康教育学会 第34回大会	S幼稚園児を対象に、土踏まずの測定と生活に関するアンケート調査を3年間縦断的におこない、在園中に土踏まずができた幼児を分析した結果、早寝・早起き、活発な身体活動をよくする、母親と運動遊びをよくおこなう、保護者と運動に関する話題をよくする、という項目において、他の群との間に有意な差がみられた。幼児期には、運動への興味を促す家庭環境が必要であり、実際に活発な身体活動をおこなうことが土踏まずの発達を促すものと考えられた。
The relation between back strength, mental action and lifestyle in S-college students	単	2015年8月	第20回東アジア運動・スポーツ科学学会	S短期大学の女子学生266名を対象に、背筋力や上体起こしの向上が意欲や自信にもたらす影響について検討した。その結果、背筋力や上体起こしの向上にともなって、スポーツの嗜好や意欲、自信における項目が良い傾向を示した。また、背筋力値が高い方が、スポーツの嗜好、意欲、自信における項目が高くなり、筋力の維持・向上と精神的な要素との関連が明らかとなった。
土踏まずの形成を促す生活要因について	共	2014年12月	第34回 子どものからだと心・ 全国研究会議	幼児期の土踏まずの発達要因を探るため、土踏まずが形成されている子どもの生活の特徴を検討した。その結果、「活発にからだを動かす活動をよくする」「食事をよく食べる」「母親と一緒に運動遊びをおこなう」「父親が運動をおこなう」「保護者と運動に関する話題をする」というアンケート項目に関し、形成群と未形成群との間で有意な差をみることができ、生活の中に運動があることが望ましいと考えられた。
A Study of the Respiratory rate time and the Tidal volume in the Long breathing exercise method	共	2014年8月	The 19 th Annual Congress of East Asia Sport Exercise Science Society	操体呼吸法における呼吸時間と換気量について検討することを目的とした。その結果、熟練者において、足芯呼吸において吸息時間が長くなることによって換気量が多くなった。運動終了後に呼吸時間の延長と換気量に増加がみられた。ゆっくりとした呼吸をすることによってこれらの減少がみられたと論じた。
Detecting a Different of the Skill Level during the Long Breathing Exercise Method by Expiration Gas Analysis (操体呼吸法時の呼気ガス分析による熟練度の相違について)	共	2014年3月	Journal of International Society of Life Information Science	操体呼吸法時の呼吸量やリズムについて、熟練者と初心者とを比較検討した。その結果、熟練者は、足芯呼吸時に呼息と吸息とをコントロールし、ゆっくりと深い呼吸が出ていることから動作と呼吸の調和をはかっていることが考えられた。
からだの発育に必要な運動遊びと生活スタイルについて ～S幼稚園における土踏まずの有無と体力テストの関連から～	共	2012年3月	日本発育発達学会 第10回大会 名古屋学院大学	神奈川県川崎市のS幼稚園に在籍する年長児を対象に、体力テスト(25m走、立ち幅跳び、テニスボール投げ、後方両手両足走、両足連続跳び越し)と土踏まず測定を実施し、その結果から効果的にからだの発育を促す運動遊びを提案することを目的とした。体力テストのいずれの種目に関しても土踏まずあり群の方が良い傾向が示され、全身の巧みな動きを伴う運動遊びと日常の歩行量を確保することが必要であると考えられた。

子どもの身体能力を高める遊びの提案—S幼稚園における保育条件と生活アンケートより—	共	2012年2月	日本幼少児健康教育学会 第30回記念大会 東京理科大学	本研究は神奈川県S幼稚園において2011年に実施した足跡測定、生活アンケート及び運動能力測定から、幼児の身体能力向上に資する保育内容の提案にむけての基礎資料を得ることを目的としたものである。神奈川県教育委員会の報告と比較した調査結果と「広さが十分ではない園庭」と「自由遊びが主活動」という保育条件から、S幼稚園に対し遊び場所の工夫、広さに制限のある場所における遊び方の工夫、保育者の子どもの遊び観察の実施、の3点を提案した。
体育実技授業における体幹筋力向上の効果について ~保育者養成校の女子学生を対象として~	単	2011年 12月	第33回 子どものからだと心・ 全国研究会議	保育者養成校であるS短期大学女子学生を対象に上体起こしと背筋力の測定から授業内容を再考することを目的とした。上体起こしは向上し、背筋力は元々測定値の低い者のみ向上がみられた。現在の授業内容では、筋力の低い者に対しては筋力の向上が期待できるが、個々に対する負荷には差があることが確認された。
Making of the evaluation standard of the lactate training test in the university cross-country skier	共	2011年8月	第16回 東アジア運動・ スポーツ科学学会	大学クロスカントリースキー選手を対象にしたLTテストは、雪上における競技力を予測することが可能であることを明らかにし、LLTPとHLTPの値からパフォーマンスの評価基準を作成することができた
アレルギー疾患を罹患している男子生徒のコンディショニングに関する一事例 ~簡易血液測定を利用して~	共	2010年12月	第32回 子どものからだと心・ 全国研究会議	陸上競技をおこなっているアトピー性皮膚炎と喘息を罹患している18歳男子生徒に対し、コンディショニングをおこなった事例を報告し、客観的指標の有効性を検討した。
(社会的活動・講演、学会における役職等等)				
子どもの権利条約市民・NGOの会 専門委員会・健康部会専門委員		2023年3月		
「子どもの室内遊び」		2022年12月		川崎市高津区の保育者を対象に子どもの室内遊び(全身のバランスを整える遊び)に関するオンライン研修会の講師
子どもの権利条約31条のひろば 実行委員		2022年4月		
子どものからだと心連絡会議 運営委員		2022年4月		
「子どもの室内遊び」		2022年2月		川崎市高津区の保育者を対象に子どもの室内遊びに関するオンライン研修会の講師
川崎市幼稚園協会 幼稚園教諭免許状更新講習会		2021年9月		
日本幼少児健康教育学会 国際交流員		2021年4月		
子どものからだと心連絡会議 全国委員		2021年4月		
川崎市幼稚園協会 幼稚園教諭免許状更新講習会		2020年9月		
日本幼少児健康教育学会第39回大会【春季:加須大会】大会組織委員		2020年5月		

「子どもの室内遊び」	2019年11月	保育・子育て研究所、高津区共催	川崎市高津区の保育者を対象に子どもの室内遊びに関する研修会の講師
川崎市幼稚園協会 幼稚園教諭免許状更新講習会	2019年9月		
日本幼少児健康教育学会 理事	2019年4月		
総説「遊びは心とからだの休養です」	2019年1月	幼少年体育指導士会 NEWSLETTER No.8	
「子どもの遊び・運動」	2018年11月	洗足こども短期大学にて	保育士を志す高校生に向けた模擬授業
「子どもの遊び・運動」	2018年10月	生田東高校にて	保育士を志す高校生に向けた模擬授業
川崎市幼稚園協会 幼稚園教諭免許状更新講習会	2018年9月		
川崎市幼稚園協会 幼稚園教諭免許状更新講習会	2017年9月		
川崎市幼稚園協会 幼稚園教諭免許状更新講習会	2016年9月		
川崎市保育会 夏季研修会	2016年7月		
日本幼少児健康教育学会 第35回大会 大会組織委員	2016年4月～		2017年3月に開催される学会大会まで委員としての任務にあたる
川崎市幼稚園協会 幼稚園教諭免許状更新講習会	2015年9月		
川崎市保育会 夏季研修会	2015年7月		
横浜マーチャンダイジングセンター 社長会 健康・体操についての講習会講師	2015年6月		
川崎市幼稚園協会 幼稚園教諭免許状更新講習会	2014年9月		
川崎市保育会 夏季研修会	2014年7月		
川崎市幼稚園協会 幼稚園教諭免許状更新講習会	2013年9月		
川崎市保育会 夏季研修会	2013年7月		
川崎市幼稚園協会 新任教諭研修会	2011年11月		
川崎市保育会 夏季研修会	2011年7月		
洗足こども短期大学、保育・子育て研究所『子育てコンパス実践編』セミナー	2011年5月		
川崎市保育会 夏季研修会	2010年7月		
「脳を鍛えて健康生活～ワクワク！ドキドキ！キラリ！」	2010年2月		洗足学園大学附属幼稚園

教育研究業績書

2023年5月1日

氏名 下尾 直子

著書・学術論文などの名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概要
(著書)				
「わたしたち、こんなふうに、暮らしているよ」	分担執筆	2022年3月	千書房	楽しい生活応援団(田中恵美子・千田好夫・MASHU。白井千晶)著 2021年ど公益法人ひと・健康・未来財団助成事業によりブックとして制作。本文執筆を担当した。
「保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典」	分担執筆	2021年3月	ミネルヴァ書房	中坪史典・山下丈一・松井剛太・伊藤喜余子・立花直樹編 7章家庭支援5項目を分担で執筆
「東京の民生委員・児童委員百年史」	共著	2020年12月	東京都社会福祉協議会	東京都社会福祉協議会編 第2部第3章東京における災害対応と復興支援課活動
「実習生の日誌事例から考察する 社会的養護Ⅱ」	編著	2020年4月	大学図書出版	両宮由紀絵・下尾直子編著 はじめにP3 第2章1節(4)P21-23、第3節P30-32、第3章1節P38-45、第5章2節P20-22 ~施設職員の視点ではなく実習生の日誌事例を考察する内容で、教科書全体をまとめる企画をし、障害の氷山モデルや、障害のとらえ方、障害者の通所・通園施設についての概要、社会的養護における家庭的養護とはなどを執筆した
「保育士等キャリアアップ研修テキストシリーズ No3 障害児保育」	編著	2019年6月	オフィスポケット	須永進監修 大多和亮介・胡桃沢令子・下尾直子著 (第1章 障害児保育を支える障害の理解 第4章 障害児保育の実際1 第5章 障害児保育の実際2 を執筆)
「乳幼児教育保育シリーズ 子ども家庭福祉」	分担執筆	2019年3月	光生館	渋谷昌史・加藤洋子編著 第4章⑦障害のある子どもへの対応を執筆
「乳幼児教育保育シリーズ 社会的養護Ⅰ・Ⅱ」	分担執筆	2019年4月	光生館	谷口純世・加藤洋子・志濃原亜美編著 Ⅱ 第5章②日常生活支援とは何か③治療的支援とは何か④自立支援とは何かの障害児施設について執筆
「知的障害のある子を育てた母の障害観 ICFによる質的分析から」	単著	2018年3月	生活書院 総ページ302	博士論文の出版である。知的障害児の母親4グループのグループディスカッションデータをICFコードにリンクして分析を行った。母親の障害観は、障害児を育てることで医学モデルに依拠しながら社会モデルの視点をもつようになり、両モデルの交差が母親の障害観の中にみられることを示した。
「実習生の日誌事例から考察する 社会的養護内容」	編著	2017年9月	大学図書出版	両宮由紀絵・下尾直子編著 はじめにP3 第2章1節(4)P21-23、第3節P30-32、第3章1節P38-45、第5章2節P20-22 ~施設職員の視点ではなく実習生の日誌事例を考察する内容で、教科書全体をまとめる企画をし、障害の氷山モデルや、障害のとらえ方、障害者の通所・通園施設についての概要、社会的養護における家庭的養護とはなどを執筆した

「演習・保育と障害のある子ども」	分担執筆	2017年3月	みらい	P29～38 第2章障害児保育の基本を学ぶ～障害の概念を医学モデルと社会モデルの対比から確認し、「ショウガイ」の表記についての議論など、昨今の障害概念の変遷に触れ、ICFの構成要素を使った関連図で子どもの生活機能を捉える方法を紹介している
「特別支援教育におけるICFの活用 Part3 学びのニーズに応える確かな実践のために」	分担執筆	2013年1月	ジアース教育新社/ (独)国立特別支援教育総合研究所編	P170 -P178:第IV章1「小中学校でのICF-CY活用の可能性」～特別支援学校教員や小中学校教員らの挙げた事例に基づき、ICFは特別支援教育にだけでなくすべての子どもに共通して適用できる概念であり、特に参加の実行状況を高めることをスタートとして活動の能力や心身機能まで高めることが可能であることを示唆している。
「社会福祉(保育士養成課程)」	分担執筆	2012年10月	宇山勝儀・小林理編著/ 光生館	宇山勝儀・小林理編著 <分担執筆箇所> 第6章第2節「地域福祉の推進」P134-P145～ 近年の社会福祉の主流である地域福祉の基本的考え方を書いた。自助・共助・公助がバランスよくすべてなければ、住民主体の地域福祉は成立しない。特に、高齢者福祉・災害福祉との関係では、これからの地域福祉が重要である。
「ICF及びICF-CYの活用 試みから実践へ」	編著	2007年4月	ジアース教育新社/ (独)国立特別支援教育総合研究所/世界保健機関(WHO)編	P102～110第3章第2節「学級担任と保護者の面談にICF-CYを活用した取り組み」P132～140第3章第5節「ICFを利用した支援ツールを電子化する試み」P174～178第4章第5節「ICFを使った理解啓発」～特別支援学校または通常学校の中でICFを活用して主に連携を深めていく支援の方法について論を展開した。特に、保護者と教員のあいだの共通言語としてのICFに着目した。
「ICF活用の試み～障害のある子どもの支援を中心に」	編著	2005年4月	ジアース教育新社/ (独)国立特別支援教育総合研究所/世界保健機関(WHO)編	P115～118:第3章第2節「家族の視点から見たICF—家族と専門家が一緒に考えるツールとしてのICF」 P176～182:ICF関連資料一覧～家族と本人がICFを介してニーズを整理し、他者伝えていく道具としてICFがどのようにつかるか、その可能性を述べた。
(論文)				
「障害の社会モデルの啓発・理解促進に向けた授業の開発—障害を学ぶための授業の比較から—」	共著	2021年3月	東京家政大学研究紀要 第61集	田中恵美子・平井佑典・野澤純子・奥平真砂子・下尾直子 いまだ浸透していない障害の社会モデルの啓発理解促進を目的に開発した教材を使った授業の実践研究である。
「親元から一人暮らしを始めた知的障害のある娘と母の内的変容—ひとまずの「自立生活」から真の「自立」へ向けて—」	単著	2020年3月	「社会福祉」第60号	親元から自立した知的障害のある26歳女性の言動記録をエピソード記述の手法で分析した事例研究である。
「知的障害児の母親の障害観にみる障害モデルの共存 ～ICFによる質的分析～」	単著	2016年3月	日本女子大学 人間社会学研究科社会福祉学博士号請求論文	障害のある子どもをもつ母親らのグループディスカッションをICFで分析し、母親の障害観が子育ての過程で変容し、社会モデルと個人モデルの交差という独特の障害観を示すことを示唆した、

「障害のある子の親との信頼関係を構築する保育者の伝え方—連絡帳のICF分析を通して」	単著	2013年2月	洗足論叢第42号	障害のある子の保護者と保育所や通園施設の担任との連絡帳ICFコードで分析することにより、信頼される保育士の伝え方に共通の特徴があることが認められた P141-154
発達障害のある子どもの行動に対する「よく知らない人(ICF)」の態度	単著	2008年7月	福祉のまちづくり研究第10巻第1号 福祉のまちづくり学会	発達障害のある子どもが、WHO発行のICFにおいて「よく知らない人」とコード化される環境因子との影響をいかにうけているかについて考察した P12~16
障害のある子を中心にしたミュージカル活動—WAKU2キッズミュージカル実践報告	単著	2008年3月	国立青少年教育振興機構研究紀要 第8号 国立青少年教育振興機構	横浜北部地域を中心に活動する「WAKU2キッズミュージカル」独自のミュージカル創作過程を報告し、参加者の変容を追った報告である。P115~125
個別の教育支援計画へのICFの活用	共著	2007年9月	発達障害研究第29巻4号 日本発達障害学会	「個別の教育支援計画」の策定にあたり、保護者からの情報収集をICF-CY付箋カードを使った面談によって行った実践の事例研究を行った。P254~261 下尾直子・関戸英紀
(報告書など)				
書評りぷらい「知的障害のある子を育てた母の障害観:ICFによる質的分析から」	単著	2019年	社会福祉学59(4)	拙著の書評に対するリプライ
「ICF児童青少年期バージョンの教育施策への活用に関する開発的研究」	共著	2008年3月	(独)国立特別支援教育総合研究所	P59~63: I-8「ICF-CYに期待すること—家族の視点から」 P119~122: II-7「ICF-CYのコーディング活用の可能性」 P123~127: II-8「電子化によるICF-CY活用の取り組み」
(学会発表: 口頭発表)				
「知的障害児の母親の障害観にみる障害モデルの共存 ~ICFによる質的分析~」	単著	2016年7月	日本女子大学社会福祉学会	博士論文公开发表
知的障害のある子をもつ母親が語る「結婚」~ICF-CYで分類したFGDから~	単著	2013年9月	日本家族社会学会第20回大会	知的障害のある子を持つ母親のフォーカスグループインタビューデータをICF-CYのコードで分類し、母親が語る子供の結婚観について分析した
知的障害のある子の母親が卒後に振り返る「学校時代」~ICF-CYで分類した母親のフォーカスグループディスカッションデータから	単著	2010年9月	日本特殊教育学会第48回大会	知的障害のある子を持つ母親のフォーカスグループインタビューデータをICF-CYのコードで分類し、「学校時代」について分析した
ICF-CY序論「家庭関係における子ども」をみる—社会モデルからの示唆—	単著	2009年10月	日本社会福祉学会	WHOのICF-CY序論にある「家庭関係における子ども」を社会モデルの「脱家族論」の文献研究により論じた
ICFモデルにおける「家族」~ICF-CYの「child in the context of the family」を捉えるために~	単著	2008年6月	日本女子大学社会福祉学会	WHOのICF-CY序論にある「家庭関係における子ども」という表現に着目し、ICFモデルにおける「障害児家族」について論じた

(学会発表:ポスター発表)				
「統合保育における、発達障害のある子と玩具」	単著	2019年5月	日本保育学会	インクルーシブ保育を推進する保育所において参与観察を行い、障害のある子どもがほかの子どもとかかわりを持ち、あそびが広がる様子を確認し、保育者の有効な動きかたについて考察を行った。
「知的障害のある子をもつ母親のFGDで現れた「かすがい」とう他者援助機能—ICFによる質的分析」	単著	2016年9月	日本社会福祉学会	知的障害のある子を持つ母親のフォーカスグループインタビューデータをICF-CYのコードで分類し、母親が語る子のプラス機能である「かすがい」について分析した
統合保育における障害児の保護者との連絡帳 ～ICF分析～	単著	2014年9月	日本特殊教育学会 第52回大会	保育園に通う障害児の保護者と保育士の連絡帳をICFを使って分析し、連絡帳の応答次第で保護者の変容が見られることを指摘した
特別支援教育における「家族を背景にした子ども」—ICF-CYの活用を目指して—	単著	2008年9月	日本特殊教育学会 第46回大会	「特殊教育学研究3」「日本特殊教育学会大会論文集4」「国立特殊教育研究所紀要」に掲載された論文タイトル・シンポジウムテーマ・発表タイトルの中から、家族に関するキーワードを含むものを抜き出し、これまでの特別支援教育における「家族」の位置づけを整理した。
連絡帳記述文のICFによる分類～ICFを活用した連携の可能性を探る	単著	2007年9月	日本特殊教育学会 第45回大会	障害のある子どもの保護者と担任の毎日の連絡帳をICFのコードでまとめ、これを集計して子どもの支援計画に活かす方法を実践し、その効果について分析した
教育用ICFデータベースe-ANGELの試作と評価	共著	2006年9月	日本特殊教育学会 第44回大会	ICFのコードを使ったデータベースを試作・試用し、その評価についてまとめた 渡邊正裕、徳永亜希雄・下尾直子・齋藤博之
電子化によるICF活用の可能性—ICFチェックリスト試作データベースによる多職種間の情報共有	共著	2005年9月	日本特殊教育学会 第43回大会	ICF活用ツールの電子化の可能性を探るべく、データベースを試作し、その実用性について検証した 渡邊正裕、下尾直子
個別の教育支援計画策定に保護者の参画を促すツールの開発	単著	2006年9月	日本特殊教育学会 第44回大会	ICFのコードによる関連図を使った障害のある子の担任と保護者の面談を分析し、ツールの汎用性を検証した
(学会発表:シンポジウム)				
日本特殊教育学会第45回大会 自主シンポジウム「ICFと合理的配慮」	話題提供	2014年9月	日本特殊教育学会 第52回大会	ICF-CYに依拠した合理的配慮についてのシンポジウムで、保護者の立場から発達障害児の防災対策を行ったPTA活動について報告した
日本特殊教育学会第45回大会 自主シンポジウム「ICFの学校現場への適用」Ⅶ	話題提供	2009年9月	日本特殊教育学会 第47回大会	ICF-CY8・9章の参加項目に絞って保護者面談を行い、この結果を中心に作成した関連図を個別の指導計画につなげ、そのクラス全員分を合わせて授業シートを作成するという方法で、ICF-CYを使った保護者連携を試験的に実施した成果を報告した

日本特殊教育学会第45回大会 自主シンポジウム「ICFの学校現場への適用」V	話題提供	2008年9月	日本特殊教育学会第46回大会	ICF/ICF-CY の分類項目を用いたコーディングも活用の際の重要な柱だと考えられるが、コーディングの取組についての研修は行ってきた経験からICF研修の有効性及び、研修を活かした実践について報告した
日本特殊教育学会第44回大会 自主シンポジウム「ICFの学校現場への適用」III	話題提供	2006年9月	日本特殊教育学会第44回大会	教師との面談においてICF-CYを使用した保護者5名尾インタビュー記録を質的に分析した結果を話題提供として発表した
日本特殊教育学会第45回大会 自主シンポジウム「ICFの学校現場への適用」IV	指定討論	2007年9月	日本特殊教育学会第45回大会	指定討論者として、話題提供者の発表をまとめ、障がいのある子を、地域の小・中学校に入学させるということは、ICF で表現すれば、参加の実行状況を確保することとも言える。地域の学校での特別支援におけるCFの可能性について指摘した
(講演)				
玉川幼稚園職員研修	講師	2023年3月	玉川幼稚園	「私たちにできること～特別支援の保育」
横浜市都筑区社会福祉協議会 講演会	講師	2023年2月	葛が谷地域ケアプラザ	「私たちにできること～“障害”と地域」
横浜市荏田南社会福祉協議会 講演会	講師	2020年 2022年	都筑区荏田南1丁目会館	障害をどう捉えるか、そして今何ができるのか ～他人事ではないジブンゴトとしての障害～
横浜市青葉区放課後児童健全育成事業 職員向け研修	講師	2021年10月	青葉区役所大会議室	「障害とは」
横浜市立鉄小学校PTA 講演会	講師	2020年 2021年 2022年	横浜市立鉄小学校	「福祉の観点から見た、子育てのヒント」
川崎市幼稚園協会 免許更新講習	講師	2019/11/13 2020/11/18 2021	川崎市ユニオンビル	テーマ「子どもの言語発達を促す遊びと援助 個別の教育的ニーズへの対応」
横浜市放課後キッズクラブ・はまっこふれあいスクール連絡協議会 講演会・巡回保育相談員	講師	2019/1/24 2019/5/21	青葉区役所大会議室	テーマ「気になる子とその対応」
洗足学園SD	講師	2017/12/1 2018/12/18 2019/9/3	洗足学園	テーマ「障害とは何か～発達障害に対応する」
日本女子大学同窓会「みどり会」講演会	講師	2017年10月	日本女子大学	テーマ「相模原障害者殺傷事件をうけて～障害とは何か、社会の「観方」を問い直す」
川崎市保育士会	講師	2014年7月	川崎市保育会	テーマ「気になる子の支援」
川崎市保育士会	講師	2014年7月	川崎市保育会	テーマ「気になる子の支援」
相武台中央幼稚園職員研修	講師	2012年12月 2014年3月 2015年3月 2016年3月 2017年3月	学校法人神奈川県住宅福祉学園 相武台中央幼稚園	軽度障害のある園児への効果的な指導について、当該児童の生活観察にもとづいて実践的なアドバイスを行った

東京都精神保健福祉士研修	講師	2008年11月	東京都精神保健福祉	テーマ「ICF活用の可能性」
NPO法人自閉症協会東京支部講演会	講師	2008年8月	NPO法人自閉症協会東京支部	テーマ「ICFでとらえる障害と特別支援教育」
宇都宮大学教育学部附属特別支援学校 公開研究会 基調講演	講師	2008年2月	宇都宮大学教育学部附属特別支援学校	テーマ「特別支援教育におけるICFの活用の実際」
川崎市職員研修	講師	2008年1月	川崎市	テーマ「“障害”をとらえる視点の転換 ～ICF-CYを使って～」
(その他教育研究活動など)				
町田市子ども発達支援計画行動計画検討部会	委員	2023年4月より委員	町田市	町田市子ども総務課より委託
横浜市保健医療協議会	委員	2023年4月より委員	横浜市	横浜市医療局医療政策課より委託
横浜市福祉調整委員	代表委員	2021年4月より 2023年4月より代表委員	横浜市	横浜市健康福祉局相談調整課より委託
知的障害のある人の自立生活を考える会	運営委員	2019年9月～現在		特定非営利活動法人風雷社中 理事長 中村和利の呼びかけによる団体
障害の社会モデル啓発研究	メンバー	2018年4月～現在	東京家政大学	東京家政大学大学間連携等共同研究 研究代表者 田中恵美子
巡回保育相談研究会	メンバー	2017年1月～現在		大妻女子大学久富陽子教授の呼びかけによる、巡回保育相談を行っている相談員が集まって月に一回研究活動を行っている研究会
さいたま市巡回保育相談委員	委員	2017年4月～ 2020年3月	埼玉県 保育課	さいたま市内の育成支援の対象となった障害のあるお子さんの巡回相談員・一人のお子さんに年1回巡回し、保育の様子を観察、園内カンファレンスを行、報告書を提出する
手話通訳士試験実施検討委員会	委員	2017年1月～現在	聴覚障害者情報文化センター	手話通訳士資格の試験問題を作成
東京都民生委員100年史編纂	委員	2016年4月～ 2019年3月	東京都民生児童委員連合会	東京都民生委員100周年を記念した100年史の編纂
ぼらん保育園第三者評価委員	委員	2016年4月～ 2020年3月	ぼらん保育園 第2ぼらん保育園	東京都大東区のぼらん保育園で年2回開かれる第三者評価委員会に出席し、第三者として意見を述べる
障害者職業カウンセラー採用試験委員会委員	委員	2016年4月～ 2019年3月	独)高齢・障害・求職者雇用支援機構	障害者職業カウンセラー採用試験作成
ドリーム	代表	2010年4月～ 現在	横浜市任意団体 ドリームキッズ	横浜市を中心に活動している、障害のある子どもたちのインプロブ的WS活動を支援する団体。主催者として立ち上げから参画し、企画運営の中心となっている(国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」助成事業)
国立特別支援教育総合研究所 専門研究A「特別支援教育におけるICF-CYの活用に関する研究－活用のための方法試案の実証と普及を中心に－」	研究協力	2010年4月～ 2012年3月	国立特別支援教育総合研究所	特別支援学校の学習指導要領等の解説に示された「ICFの考え方」を具体的な特別支援教育実践につなげていくための調査。研究を行った。

<p>国立特別支援教育総合研究所 専門研究A 「特別支援教育におけるICF-CYの活用に関する実際研究」</p>	<p>研究協力</p>	<p>2008年4月～ 2010年3月</p>	<p>国立特別支援教育総合研究所</p>	<p>WHOのICFおよびその派生分類であるICF-CYの特別支援教育における具体的な活用方法を明らかにし、合わせてそのためのツール開発をするとともに、適切な成果公表のために活用状況を把握することを目的として研究を行った</p>
<p>国立特別支援教育総合研究所 課題別研究 「ICF児童青年期バージョンの教育施策への活用に関する開発的研究」</p>	<p>研究協力</p>	<p>2006年4月～ 2007年3月</p>	<p>国立特別支援教育総合研究所</p>	<p>WHOのICFおよびその児童青年期バージョンの活用方法について検討を行い、個別の教育支援計画における実態把握のためのICF項目の活用等について研究を行った</p>
<p>WAKU2キッズミュージカル</p>	<p>代表</p>	<p>2001年4月～ 2011年3月</p>	<p>横浜市任意団体 地域で生きる子どもたちの会 主催</p>	<p>横浜市を中心に活動している、障害のある子どもたちのミュージカル団体。ここで、主宰者として、企画立案から参加者40数名の個別指導計画を作成し、これをもとにスタッフ・学生ボランティアに対する教育実践指導を行った</p>

教育研究業績書

2023年5月1日

氏名 山本 有紀

著書・学術論文などの名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概要
(論文・紀要等)				
「ラテラルリティに関する心理学的研究 -利き手を決めるのは主観か-」	単	2006年3月	青山学院大学 (69ページ)	学位論文(学士) ラテラルリティには「身体の対器官において、一方が他方より優先的に使用されること」といった定義があるが、解釈は統一されていない。多く用いられている利き手の質問紙において、その信頼性が高く評価される一方、妥当性を問題視する先行研究が多い。利き手質問紙における妥当性の問題を、優先使用と機能的優先性の不一致の状況と仮定し、種々の課題から、意識の構えが、利き手を決定する要因として強いことを検討した。
「ラテラルリティに関する心理学的研究 -利き手を決めるのは主観か-」	単	2006年3月	青山心理学研究(5), 別冊, 青山学院大学心理学会 (4ページ)	2005年度卒業論文要約集として、4ページにまとめたものである。(pp.121~124)
「現代大学生の対人関係における感受性 -感じやすさの背景文脈-」	単	2008年3月	首都大学東京大学院 (現 東京都立大学) (99ページ)	学位論文(修士) 現代大学生の心的傷つきやすさがどのような文脈のもとに生じているのかについて、愛着、病理の枠組み、社会的スキルに代表される対人認知的側面からではなく、生物、文化、社会といった様々な要因が背景として複雑に絡み合う中で生きる個々の人間像として、発達の観点から青年期心性を捉えた。
「没入型ディスプレイを用いたアーケードゲームにおける視聴覚情報がプレイヤーのゲームパフォーマンスに及ぼす効果」	共	2010年9月	デジタルゲーム学研究 4(1) (10ページ)	実験実施協力者の役割であり抽出不可。 瀬谷 安弘・佐藤 皇太郎・木村 祐介・大久保明・遠山 茂樹・山形 仁・笠原 和美・藤懸大也・山本 有紀・池田 華子・渡邊 克巳
「子ども理解と援助に関する心理科目からの検討(1)発達理解 -実習での戸惑いと対応に関する実態調査-」	単	2011年2月	洗足学園音楽大学 洗足こども短期大学 洗足論叢 第39号 (12ページ)	子ども理解と援助の要素から発達理解に焦点を当て、実習での子どもとの関わり、発達と個人差の捉え方と発達理解の意義、理論と実際の相違の実感について実態を把握した。「子ども理解」の様々な側面、発達と個人差の捉え方、子ども理解の方法についてまとめた。調査を通じて、実習と心理科目の連関を目指した。(pp.111~122)(研究ノート)
「子ども理解と援助に関する心理科目からの検討(2)心情把握 -実習における心情把握の方法および対応の実態-」	単	2012年2月	洗足学園音楽大学 洗足こども短期大学 洗足論叢 第40号 (10ページ)	実習での子どもの心情把握と援助の実態に焦点を当て、学生の意識、カウンセリングマインドの視点、心情把握の方法を探った。心情把握に困難を抱えている現状として、子どもの心情を直感的、感覚的に把握するばかりで、背景や直前直後の反応等の事実をつなげて考えられていないこと、把握から実際の子どもの関わりへ反映、省察が不十分とわかった。(pp. 177~186)(研究ノート)

「観察および記録に関する一試論 ―心情把握の根拠―」	単	2013年2月	洗足学園音楽大学 洗足こども短期大学 洗足論叢 第41号 (14ページ)	実習での子どもの心情把握の方法(観察と記録、保育でのアセスメント)、根拠と確信、実習日誌(事例と考察、省察)の実態を探った。一方的な映像学習や非言語的特徴の分析のみでは、心情把握の客観性を高め、明確な根拠にならないという実感が深まった。心情把握で客観性や妥当性を高めるために全体性、関係性、状況性の視点が欠かせず、背景把握が必要とわかった。(pp. 91~104)
「保育者養成課程における乳幼児の発達理解について ―育ちの記録の作成による学び―」	単	2017年2月	洗足学園音楽大学 洗足こども短期大学 洗足論叢 第45号 (15ページ)	保育者養成課程の心理科目で求められる到達目標のうち、生涯発達、個人差や発達過程に応じた保育、発達の課題に応じた援助や関わり、発達の連続性の教授法や事前事後学習の工夫が望まれる現状である。自身の幼少期の発達と養育者や保育者からの関わりについてまとめることを課し、学生同士で課題を見合うことで、乳幼児の発達についての理解が深まり、発達の個人差を実感し、自身の学びを確認、意欲を喚起する結果となった。学習成果を確認する機会となった。(pp.141~155)
「子ども理解と援助に関する心理科目の授業実践 ―“感覚”への意識による気づきと学び―」	単	2019年2月	洗足学園音楽大学 洗足こども短期大学 洗足論叢 第47号 (15ページ)	保育者養成課程の心理科目で求められる子ども理解と援助についての実践力を高めるため、“感覚”に焦点をあて、実習での学生の実態と、講義での必要な学びについて検討した。実習において“感覚”を意識することを学生に課し、子ども、保育者、自身の“感覚”を意識した援助についての気づきについて、実習後の授業で振り返り、子どもの育ちや学びの過程に関する知識、具体的には乳幼児の言葉や認知などの発達、感覚を用いた直接的な体験による学びの特徴、乳幼児の学びの特性に合わせた感覚の情報を補う援助について段階を追って整理した。感覚を意識することを発端に、子どもに寄り添う援助への気づきや学びの広がりが見られ、感覚を意識することが子ども理解と援助の実践力の向上および乳幼児の学びの過程についての理解の深まりにつながったと考える。(pp.117~130)
「感性と表現」についての学生の学び―保育者養成課程の「子どもの理解と援助」における授業実践―」	単	2023年3月	洗足学園音楽大学 洗足こども短期大学 洗足論叢 第51号 (15ページ)	「子どもの理解と援助」の実践力を高めるための心理科目の教授内容として「感性と表現」に焦点をあてた。心動いたものを子どもの視点で捉えて発表するという授業実践における学生の学びをまとめた。子どもの「表し」の過程を考えること、子どもの存在そのものが「表現」であること、幼い子どもの表出は「表現」との接点があること、これらの学びが見受けられた。子どものありのままの感性と表現を受け止めること、表しに至らなくとも、そこに子どもの思いがあることに気づくこと、素朴な表現を見逃さないように心がけることが保育者には大切である。子どもの感じる世界を受け止め、感じ取り、応じるといった保育者の関わりの実践を具体的に思い描き、保育現場での実践につなげようとする、他者の個性や感性を認めるという結果につながり、「子どもの実態、内面を捉えて援助する」という保育者養成課程の心理科目「子どもの理解と援助」の学びに通じた。(pp.213~227)

(著書)				
「シードブック 保育にいかず精神保健」	共	2010年3月	建帛社 (208ページ)	<p>保育者に求められる姿勢であるカウンセリングマインド、保育者による保護者面接、送迎時などの日常の場を活用した支援、傾聴、受容、共感などカウンセリングの代表的な技法を用いた保護者とのコミュニケーションの方法をまとめた。子どもを取り巻く環境である保護者を支援することが、子どもへの援助につながることを述べた。(pp.176～178:第11章4「保護者への具体的な対応」)</p> <p>[編著] 宮本 信也、小野里 美帆 [共著] 山本 有紀、他11名</p>
「シードブック 保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」	共	2011年1月	建帛社 (240ページ)	<p>自閉症、注意欠陥多動性障害などの発達障害や知的障害などの全体構造、各障害の主症状と保育現場で関わる幼少期の子どもの状態、発達障害と虐待の関連性、PTSD、愛着障害の症状やその原因について述べ、保育での対応の留意点をまとめた。障害を含め、子どもの様々な状態を理解した発達援助の実践力の修得を目指して執筆した。(pp.123～133:第13章「子どもの精神的健康と障害」)</p> <p>[編著] 本郷 一夫 [共著] 山本 有紀、他14名</p>
「学びと教えて育つ教育心理学 ー教育心理学入門ー」	共	2011年3月	保育出版社 (196ページ)	<p>粗大運動や微細運動といった乳幼児の身体運動発達の様相、児童期以降の運動能力の発達を述べた。運動不足、易疲労感、成熟前傾など現代社会の子どもの運動発達の問題、運動の成功体験による自己概念の形成、教育上の留意点を述べた。(pp.29～32:第2章3節「発達の諸相と教育身体と運動の発達」)</p> <p>[編著] 小林 芳郎 [共著] 山本 有紀、他30名</p>
「保育の心理学Ⅰ」	共	2012年4月	一藝社 (216ページ)	<p>乳幼児の遊びの意味、見立て遊びやごっこ遊びなど遊びの分類、一人遊びや並行遊びなど発達の様相、保育者の遊びへの関わりと留意点、仲間関係の発達の様相、いざごぞをはじめとする保育での仲間関係の問題、仲間関係の役割と学び、保育現場での子ども同士の関係づくりの支援について述べた。(pp.103～114:第8章「遊びと仲間関係」)</p> <p>[監修] 林 邦雄・谷田貝 公昭 [編著] 谷口 明子・西方 毅 [共著] 山本 有紀、他13名</p>
「保育の心理学Ⅱ」	共	2012年4月	一藝社 (208ページ)	<p>乳幼児の身体運動発達、運動を通じた有能感による自己概念の形成、現代の子どもの身体運動傾向について述べた。また、乳幼児期の情緒の発達、情緒の機能、成立と分化、情緒の表出と調整、かみつきなど現代での情緒の問題と対応、足場づくりを主とした保育での関わりについて述べた。(pp.37～48:第3章「身体運動・情緒発達における経験と環境、現代社会の問題」)</p> <p>[監修] 林 邦雄・谷田貝 公昭 [編著] 西方 毅・谷口 明子 [共著] 山本 有紀、他13名</p>

「理論と子どもの心をつなぐ保育の心理学」	共	2012年4月	保育出版社 (184ページ)	<p>ヴィゴツキーの理論から子どもの創造活動、創造過程、保育実践と結びつけて集団遊びでの創造性、幼少期の創造性について述べた。(pp.125～128:第8章2節「子どもの創造性とは」)</p> <p>ヴィゴツキーの理論をもとに、子どもの自己表現活動としてのアート、ごっこ遊びや劇遊びなどの遊びでの想像と創造、描画の発達、模倣、想像と創造を高める保育者の関わりについて述べた。(pp.129～132:第8章3節「子どものあそびとアート」)</p> <p>[編著] 大橋 喜美子 [共著] 山本 有紀、他29名</p>
「生きる力を育てる臨床心理学」	共	2013年4月	保育出版社 (183ページ)	<p>性格形成に影響を与える内・外的要因と相互作用、学習による行動変容、自己制御、観察学習による性格形成について述べた。また各発達段階での性格形成の様相、幼少期であっても理想の自分を思い描き、望ましい性格や振る舞いをしようと努力すること、モラトリアムや中年期危機など、各発達段階で生じる適応の危機について述べた。(pp.21～23:第2章2節「性格の形成と発達段階」)</p> <p>[編著] 小林 芳郎 [共著] 山本 有紀、他52名</p>
「保育の心理学ワークブック」	共	2014年1月	建帛社 (128ページ)	<p>乳幼児の信頼形成、適応、生きる力の形成を、子ども理解と援助や子育て相談を想定し、基本的な生活習慣、保護者支援の事例を加えて解説した。第一反抗期と大人の関わり、愛着の問題と大人の関わり、情緒反応の乏しい子どもの障害や心の問題の演習を挙げた。関連して、愛着やエリクソンの発達課題についても述べた。(pp.59～66:Ⅲ関係・連携の中での子どもの育ち 第8章「子どもと保育者の関係を育てる」)</p> <p>[編著] 本郷 一夫 [共著] 山本 有紀、他13名</p>
「新しい心理学へのアプローチ」	共	2014年12月	保育出版社 (188ページ)	<p>感覚と知覚の違い、協応、視覚など感覚の構造、胎児期や乳児期など発達初期の様相を述べた。(pp.30～32:第3章1節「まわりの何を感じるのか 感覚とその種類」)</p> <p>適刺激と不適刺激について、刺激閾と弁別閾について、感覚の順応について、視覚および聴覚の感覚の範囲について、乳幼児期の共感覚の原因、様相を述べた。(pp.33～34:第3章2節「まわりを感じ取る中身とは 感覚の性質と共感覚」)</p> <p>喃語など前言語を含む言語発達、思考の道具としての言語、話し言葉と書き言葉の獲得について述べた。(pp.56～58:第5章1節「言葉はどのようにして身につくか 言語の獲得」)</p> <p>[編著] 小林 芳郎 [共著] 山本 有紀、他29名</p>

「シードブック 保育の心理学Ⅰ・Ⅱ 第2版」	共	2015年9月	建帛社 (232ページ)	<p>2011年1月発行「シードブック 保育の心理学Ⅰ・Ⅱ」の第2版において、担当章の改訂を行った。DSM-ⅣからDSM-Vへの改訂における特徴(新設、呼称変更、区分など)、自閉スペクトラム症/自閉症スペクトラム障害をはじめとし、知的能力障害、注意欠如・多動症/注意欠如・多動性障害(ADHD)の症状および保育現場での対応についてまとめた。また、心的外傷(トラウマ)およびストレス因子関連障害として、①虐待と神経発達障害の関連、②虐待とPTSD(心的外傷後ストレス障害)、③虐待と愛着障害の項目で、各症状と保育現場での対応についてまとめた。(pp.123～133: 第13章「子どもの精神的健康と障害」)</p> <p>[編著] 本郷 一夫 [共著] 山本 有紀、他14名</p>
「保育を深めるための心理学」	共	2018年3月	花伝社 (253ページ)	<p>乳幼児期からの自己形成の過程と様相を述べた。自己感、身体的自己、鏡映自己、第一次反抗期の様相と大人の関わり方の留意点、自己評価の特徴、自己制御(自己主張・自己実現と、自己抑制)、児童期以降を含めた自己概念の形成、記憶などについて述べた。また、コラムとして、隔離飼育で育ったサルについて述べ、生物学的にヒトに近いサルにおいても、社会的行動の発達には、発達初期の親子関係や同年代の仲間関係の経験が不可欠であることをまとめた。(pp.70～82、pp.219～221: 第6章自他の気づくとき)(問26～30)</p> <p>[編著] 鈴木 敏昭、村上 涼、松鹿 光、加藤 孝士 [共著] 山本 有紀、他13名</p>
「子どもの発達の連続性を支える保育の心理学」	共	2019年5月	教育情報出版 (222ページ)	<p>子どもの育ちや学びの過程、子どもと向き合う基本姿勢といった心理学の基礎知識が、子どもの心を育むための関わりとして保育にとって重要であること、獲得と喪失を繰り返す中での発達、発達心理学の歴史の変遷、文化や社会、環境が互いに関連する中で生きる子どもの姿を捉えることの大切さについて述べた。(pp.18～22: 第1章2節「心理学では発達は、どのように捉えられているのでしょうか」)</p> <p>子どもの発達や内的世界を把握するために必要な保育者の視点として生涯発達を挙げ、時間や状況、関係性の中で発達を捉えることや、発達の連続性を踏まえた保育者の関わりについて述べた。また、ピアジェやエリクソンの発達段階について述べた。(pp.51～55: 第3章1節「子どもの発達の連続性とはどのようなものなのでしょうか」)</p> <p>[編著] 浅井 拓久也 [共著] 山本 有紀、他30名</p>

「新・子ども理解と援助—その理論と方法—」	共	2021年9月	教育情報出版 (168ページ)	<p>保育士養成課程における「子どもの理解と援助」、幼稚園教諭養成課程における「幼児理解の理論及び方法」に対応したテキストである。乳幼児期は環境の影響を大きく受けること、環境が子どもを育むこと、保育幼児教育が環境を通して行われること、環境構成や環境調整の実際、入園や就学、家族構成の変化、自然災害などの乳幼児が経験する種々の環境の変化や移行、環境移行への保育者の関わりと子どもが培う力について説明した。心の拠り所となる大人に寄り添われながら環境の変化を乗り越えたという経験が、生涯のなかでいつかまた現れる環境の変化に向き合う力を培うことについて述べた。(pp. 63～72: 第6章「環境の変化や移行が子どもに与える影響」)</p> <p>[編著] 入江 慶太 [共著] 山本 有紀、他11名</p>
「シードブック 子ども理解と援助」	共	2023年1月	建帛社 (135ページ)	<p>保育士養成課程における「子どもの理解と援助」に対応したテキストとして、発達の観点から子どもを理解し、それに基づく適切な援助を行う実践力の修得を目指すことを主旨としている。“子どもの理解に基づく発達援助”のなかでも、就学に向けての実際と支援について述べた。「子どもの理解」が援助や支援の起点となること、日々、子どもとの関わりを積み重ね、振り返り、子どもを理解し直すという循環が欠かせないこと、保育の場に留まらず、専門機関によるアセスメント、関連機関との連携の必要性について述べた。乳幼児期からの発達と学びの連続性、幼児教育保育から学校教育への環境移行、“連続性”を意識した幼保小の連携や接続期カリキュラムの実際と問題点について説明した。個別に配慮を必要とする子どもの就学に向けた支援の実際と問題点について触れるなかで、時間、関係、状況の視点に基づく一貫した支援、総合的かつ継続的な支援となるように、関連機関が連携し、多職種が協働して子どもとその家族を支えるの重要について述べた。(pp. 120～129: 第13章「発達と学びの連続性と就学支援」)</p> <p>[編著] 飯島 典子・本郷一夫 [共著] 山本 有紀、他12名</p>

(問題集)				
保育士試験科目別問題集'14年版[下巻]	共	2014年6月	成美堂出版 (190ページ) (解説32ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。保育の心理学のポイント、練習問題、本試験型問題の三部構成。(練習問題、本試験型問題については、同問題集'13年を一部修正、作問した。)発達、学習、適応・不適応、保護者支援、評価などに触れた。(pp.5-50、解説pp.2-8) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他5名
保育士試験科目別問題集'15年版[下巻]	共	2015年3月	成美堂出版 (190ページ) (解説32ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。保育の心理学のポイント、練習問題、本試験型問題の三部構成。(練習問題、本試験型問題については、同問題集'14を一部修正、作問した。)(pp.6-50、解説pp.2-8) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他5名
保育士試験完全予想模試問題集'15年版	共	2015年4月	成美堂出版 完全予想模試第1回 (100ページ) 完全予想模試第2回 (101ページ) (解説99ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当、本試験型問題を作問した。(同問題集を一部修正、作問した。)(問題:第1回pp.1-10、第2回pp.1-12)(解説:pp.30-35、pp.80-85) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他10名
保育士試験科目別問題集'16年版[下巻]	共	2016年2月	成美堂出版 (190ページ) (解説書32ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。保育の心理学のポイント、練習問題、本試験型問題の三部構成。(練習問題、本試験型問題については、同問題集'15を一部修正、作問した。)(pp.6-50、解説pp.2-8) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他5名
保育士試験完全予想模試問題集'16年版	共	2016年3月	成美堂出版 完全予想模試第1回 (109ページ) 完全予想模試第2回 (108ページ) (解説99ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'15を一部修正、作問した。)(問題:第1回pp.1-10、第2回pp.1-12)(解説:pp.30-35、pp.80-85) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他8名
保育士試験完全予想模試問題集'17年版	共	2017年2月	成美堂出版 完全予想模試第1回 (109ページ) 完全予想模試第2回 (108ページ) (解説100ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'16を一部修正、作問した。)(問題:第1回pp.1-13、第2回pp.1-13)(解説:pp.4-10、pp.54-59) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他9名
本試験型保育士試験問題集'17年版	共	2017年3月	成美堂出版 (262ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(科目別問題集'16を一部修正、作問した。)(pp.6-36) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他9名
本試験型保育士試験問題集'18年版	共	2017年12月	成美堂出版 (262ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'17を一部修正、作問した。)(pp.6-36) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他9名

保育士試験完全予想模試問題集'18年版	共	2018年2月	成美堂出版 完全予想模試第1回 (108ページ) 完全予想模試第2回 (108ページ) (解説101ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当、本試験型問題を作問した。(同問題集'17を一部修正、作問した。)(問題:第1回pp.1-13、第2回pp.1-12)(解説:pp.4-10、pp.55-60) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他8名
保育士採用試験重要ポイント+問題集'20年版	共	2018年11月	成美堂出版 (222ページ)	公立保育園の採用試験対策の問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'19を一部修正、作問した。)(pp.128-151) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他6名
本試験型保育士試験問題集'19年版	共	2018年12月	成美堂出版 (262 ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'18を一部修正、作問した。)(pp.5-36) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他9名
保育士採用試験重要ポイント+問題集'21年版	共	2019年11月	成美堂出版 (234ページ)	公立保育園の採用試験対策の問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'20を一部修正、作問した。)(pp.128-151) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他6名
本試験型保育士試験問題集'20年版	共	2019年12月	成美堂出版 (264ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'19を一部修正、作問した。)(pp.5-36) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他9名
本試験型保育士試験問題集'21年版	共	2020年10月	成美堂出版 (264ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'20を一部修正、作問した。)(pp.5-36) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他9名
保育士採用試験重要ポイント+問題集'22年版	共	2020年11月	成美堂出版 (224ページ)	公立保育園の採用試験対策の問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'21を一部修正、作問した。)(pp.128-151) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他6名

本試験型保育士試験問題集'22年版	共	2021年10月	成美堂出版 (264ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'21を一部修正、作問した。)(pp.5-36) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他9名
保育士採用試験重要ポイント+問題集'23年版	共	2021年11月	成美堂出版 (224ページ)	公立保育園の採用試験対策の問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'22を一部修正、作問した。)(pp.128-151) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他6名
本試験型保育士試験問題集'23年版	共	2022年10月	成美堂出版 (264ページ)	保育士試験対策問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'22を一部修正、作問した。)(pp.5-36) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他9名
保育士採用試験重要ポイント+問題集'24年版	共	2022年11月	成美堂出版 (224ページ)	公立保育園の採用試験対策の問題集である。「保育の心理学」科目を担当した。(同問題集'23を一部修正、作問した。)(pp.128-151) [監修] 近喰 晴子 [共著] 山本 有紀、他6名

(研究発表)				
「グレーゾーンの子どもをめぐる発達支援(5)ーアスペルガーの疑いのあるきょうだいの事例におけるやりとりの調節過程の発達の變化ー」	共	2007年3月	日本発達心理学会 第18回大会 大宮ソニックシティ	アスペルガー症候群、高機能自閉症の疑いのあるきょうだいへの、発達支援室での取り組みをまとめたものである。(発表論文集 p775) <u>山本 有紀</u> ・大津 麻衣子・渡部 未来・須田 治
Effects of Peripheral Visual Information on Performance of Video Game with Hemi-Spherical Immersive Projection Screen.	共	September 1-4, 2009	<i>DiGRA2009</i> , London,9.1-4	実験実施協力者の役割である。 Seya, Y. Sato, K., Kimura, Y., Ookubo, A., Yamagata, H., Kasahara, K., Fujikake, H., <u>Yamamoto, Y.</u> , Ikeda, H., & Watanabe, K.
「保育所実習の振り返りにおける学生の学びのとらえ方」	共	2015年5月	日本保育学会 第68回大会 相山女学園大学	短期大学2年次の保育所実習終了時点での振り返りの記述内容を分析した。学生が子どもの姿からどのような点を学びとしているのか、傾向や着眼点を整理した。実習で体験したことが「気づき」「考察」まで深まらず、「感想」「事実」に留まるものが70%を超えた。実際に捉えた子どもの姿と、これまで学んだ知識との結びつけ、分析を行う経験が不足していると考えられる。 <u>曾野麻紀</u> 、並木真理子、桃枝智子、 <u>山本有紀</u>
「保育者養成課程の心理学における授業実践ー“育ちの記録”作成による視点変化と学びー」	単	2017年5月	日本保育学会 第70回大会 川崎医療福祉大学	保育者養成課程の心理科目では、実践的な発達援助の理解が到達目標だが、各年齢での様相と目安の理解不足という学生の自覚が挙がった。関係性や連続性から捉える意識に乏しい現状から、教授法と課題に工夫が必要であり、学習成果の査定、主体的に取り組む事前事後の学習課題が求められる。“育ちの記録”の作成と、学生同士で互いに見ることを課した結果、発達過程の理解を底上げし、各自の関心(例:言葉、描画)を掘り下げることができたが、乳児期より幼児期の理解に繋がりにくい結果となった。感想の記入方法を変えたことで、生涯発達と関係性の視点が全学生に生じ、園の連絡帳を読む、出身園の方針を調べるなど、より保育現場に沿った学びが見られた。(洗足論叢第45号『保育者養成課程における乳幼児の発達理解についてー育ちの記録の作成による学びー』(山本有紀、2016)の未発表部分と、追研究として2016年12月から翌1月に収集したデータを加え再分析したものである)。

(教育活動、その他)			
模擬講義	2009年12月	洗足学園短期大学	高校生対象の模擬講義 (蒲田女子高等学校)
模擬講義	2010年7月	洗足こども短期大学	高校生対象の模擬講義 (蒲田女子高等学校)
模擬講義	2010年4月	洗足こども短期大学	高校生対象の模擬講義 (橘高等学校)
模擬講義	2011年7月	洗足こども短期大学	高校生対象の模擬講義 (蒲田女子高等学校)
出張講義	2009年12月	洗足学園短期大学	高等学校での出張講義 (元石川高等学校) 保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義	2010年2月	洗足学園短期大学	高等学校での出張講義 (立川女子高等学校) 保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義	2010年3月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義 (世田谷総合高等学校) 保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義	2010年12月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義 (東京都立園芸高等学校) 保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義	2010年12月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義 (百合丘高等学校) 保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義	2012年1月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義 (住吉高等学校) 保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。

出張講義	2012年5月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義 (港北高等学校) 保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義	2012年6月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義 (川崎市立高津高等学校) 保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義	2014年12月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義 (湘南学園高等学校) となりのトトロのメイ(4歳)を例に、身体運動や言語の発達など、メイの言動に見られる心理と大人の関わりについて触れ、保育における心理学について講義を行った。
出張講義	2014年12月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義 (百合丘高等学校:2年生) 保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義	2014年12月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義 (百合丘高等学校:1年生) 保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、子どもの遊び、遊びの中の模倣、課題の効果的な設定として、子どもが模倣で学ぶ過程、スモールステップの原則を用いた課題の設定と取り組み方について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義	2015年3月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義 (生田東高等学校) 保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義	2016年3月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義 (生田東高等学校:2年生) 保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義	2016年11月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義 (横浜清風高等学校:2年生) 保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。
出張講義	2017年1月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義 (横浜清風高等学校:1年生) 保育における心理学とは何か、感覚・認知発達を例に大人は異なる世界の捉え方について、親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。

出張講義	2019年12月	洗足こども短期大学	高等学校での出張講義 (生田東高等学校:2年生) 「子どもの心を育む保育者の関わりー保育の心理学よりー」と題し、ワークを挟みながら講義を行った。幼少期が生涯に渡る生きる力の基礎を育む重要な時期であること、保育の現場では、日々の生活や遊びの中で子どもの心を育む関わりを大切にしていること、どのような関わりが子どもの心を育むことにつながるのかについて、保育の心理学の領域より講義を行った。
出張講義	2020年9月	洗足こども短期大学	高校での出張講義 (川崎市立高津高等学校:3年生) 「子どもの心を育む保育者の関わりとはー保育の心理学より、”子どもの理解”を中心にー」と題し、ワークを挟みながら講義を行った。幼少期が生涯に渡る生きる力の基礎を育む重要な時期であること、保育の現場では、日々の生活や遊びの中で子どもの心を育む関わりを大切にしていること、どのような関わりが子どもの心を育むことにつながるのかについて、保育の心理学の領域より講義を行った。
出張講義	2020年11月	洗足こども短期大学	高校での出張講義 (神奈川県立大師高等学校:2年生) 「子どもの心を育む保育者の関わりとはー保育の心理学より、”子どもの理解”を中心にー」と題し、ワークを挟みながら講義を行った。幼少期が生涯に渡る生きる力の基礎を育む重要な時期であること、保育の現場では、日々の生活や遊びの中で子どもの心を育む関わりを大切にしていること、どのような関わりが子どもの心を育むことにつながるのかについて、保育の心理学の領域より講義を行った。
出張講義	2020年11月	洗足こども短期大学	高校での出張講義 (神奈川県立横浜桜陽高等学校:2年生) 「子どもの心を育む保育者の関わりとはー保育の心理学より、”子どもの理解”を中心にー」と題し、ワークを挟みながら講義を行った。幼少期が生涯に渡る生きる力の基礎を育む重要な時期であること、保育の現場では、日々の生活や遊びの中で子どもの心を育む関わりを大切にしていること、どのような関わりが子どもの心を育むことにつながるのかについて、保育の心理学の領域より講義を行った。
出張講義	2021年10月	洗足こども短期大学	高校での出張講義 (神奈川県立霧が丘高校:3年生) 「子どもの心を育む保育者の関わりとはー保育の心理学より、”子どもの理解”を中心にー」と題し、ワークを挟みながら講義を行った。幼少期が生涯に渡る生きる力の基礎を育む重要な時期であること、保育の現場では、日々の生活や遊びの中で子どもの心を育む関わりを大切にしていること、どのような関わりが子どもの心を育むことにつながるのかについて、保育の心理学の領域より講義を行った。

出張講義	2021年11月	洗足こども短期大学	高校での出張講義 (東京都立町田総合高等学校:2年生) 「子どもの心を育む保育者の関わりとは—保育の心理学より、”子どもの理解”を中心に—」と題し、ワークを挟みながら講義を行った。幼少期が生涯に渡る生きる力の基礎を育む重要な時期であること、保育の現場では、日々の生活や遊びの中で子どもの心を育む関わりを大切にしていること、どのような関わりが子どもの心を育むことにつながるのかについて、保育の心理学の領域より講義を行った。
出張講義	2022年6月	洗足こども短期大学	高校での出張講義 (東京都立深沢高等学校:3年生) 「子どもの心を育む保育者の関わりとは—保育の心理学より、”子どもの理解”を中心に—」と題し、ワークを挟みながら講義を行った。幼少期が生涯に渡る生きる力の基礎を育む重要な時期であること、保育の現場では、日々の生活や遊びの中で子どもの心を育む関わりを大切にしていること、どのような関わりが子どもの心を育むことにつながるのかについて、保育の心理学の領域より講義を行った。
体験授業	2010年5月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、子どもの描画の発達過程と大人の関わりについて講義を行った。
体験授業	2011年5月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、子どもの描画の発達過程と大人の関わりについて講義を行った。
体験授業	2012年4月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、言語の一般的な発達過程、子どもの言い誤り、発音の難しさ、大人の関わりについて講義を行った。
体験授業	2013年4月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、認知の一般的な発達過程、アニミズムの発達過程と子どもの捉えの特徴について講義を行った。
体験授業	2013年6月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 卒業生の現役保育士と共に、保育士の職務内容、仕事の喜びについてインタビュー形式で講義を行った。
体験授業	2013年8月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、遊びの種類、発達、見立て遊びやごっこ遊びを例に、遊びにおける子どもの興味関心とそれに寄り添う大人の関わりについて、遊びの治療的効果について講義を行った。
体験授業	2013年8月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、遊びの種類、発達、見立て遊びやごっこ遊びを例に、遊びにおける子どもの興味関心とそれに寄り添う大人の関わりについて、遊びの治療的効果について講義を行った。
体験授業	2014年3月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、子どもの描画の発達過程と大人の関わりについて講義を行った。
体験授業	2014年8月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、言語の一般的な発達過程、子どもの言い誤り、発音の難しさ、大人の関わりについて講義を行った。

体験授業	2014年8月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、食事、排泄、睡眠、着脱、清潔といった基本的な生活習慣の一般的な発達過程、子どもにとっての難しさ、大人の関わりについて講義を行った。
体験授業	2015年3月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、遊びの種類、発達、見立て遊びやごっこ遊びを例に、遊びにおける子どもの興味関心とそれに寄り添う大人の関わりについて講義を行った。
体験授業	2015年8月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、言語の一般的な発達過程、子どもの言い誤り、発音の難しさ、大人の関わりについて講義を行った。
体験授業	2016年3月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、子どもの仲間関係の意義とその発達、保育場面でのいざこざの対応について講義を行った。
体験授業	2016年7月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、言語の一般的な発達過程、子どもの言い誤り、発音の難しさ、大人の関わりについて講義を行った。
体験授業	2016年8月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、言語の一般的な発達過程、子どもの言い誤り、発音の難しさ、大人の関わりについて講義を行った。
体験授業	2017年6月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、“崖の上のポニョ”の宗介くんを例に、幼児の思いやりの発達と心理、大人の関わりについて講義を行った。
体験授業	2018年3月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 保育における心理学、子どもの描画の発達過程と大人の関わりについて講義を行った。
体験授業	2019年7月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 「子どもの理解と援助」について、幼少期が生涯に渡る生きる力の基礎を育む時期であり、子どもの個性や個人差を捉え、子どもに寄り添いながら関わることが、子どもの心を育むために大切であることについて、子どもの遊びを例に講義を行った。
体験授業	2021年8月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 「子どもの身体運動発達」について、一般的な発達の過程を辿りつつ、大人の関わりについて講義をおこなった。粗大運動、微細運動における子どもの個人差や個性の実際、子どもの思いに寄り添いながら関わることの重要性について触れた。
体験授業	2022年8月	洗足こども短期大学	学内での体験授業 「子どもの理解と援助」をテーマに、子どもの個性や個人差を捉え、子どもに寄り添いながら関わることが、子どもの心を育むために大切であることについて講義を行った。幼少期は直接的な体験を通して感じながら学ぶことや、子どもの様々な感性について、ワークの実施と共に触れた。
進学相談会における模擬講義	2010年3月	横須賀 学外進学相談会	横須賀学外進学相談会 (横須賀産業交流プラザ) 「赤ちゃんのかわいらしさの秘密を探ろう！」 親の養育行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触発機構)について、ワークを挟みながら講義を行った。

進学相談会における模擬講義	2017年4月	進学相談会 主催：神奈川県私立 短期大学協会	2017進学相談会かながわ短大フェア (パシフィコ横浜) 「子どもの顔に隠された秘密とは？ -乳幼児の心理学より-」 子どもの視覚などの感覚発達を例に、大人 は異なる世界の捉え方について、親の養育 行動を引き出す子どもの特徴(生物学的触 発機構)について、ワークを挟みながら講 義を行った。
夢ナビ講義ライブ2013	2013年7月	主催 フロムページ 後援 文部科学省 共催 河合塾・Z会・受験 サプリ・進研ゼミ高校講 座	フロムページ主催の夢ナビライブでは、大 学教員が学問の魅力を30分間でわかりや しく紹介する。2013年東京会場(東京ビッグ サイト)では、305の講義ライブが実施され た。 「となりのトトロから学ぶ子どもの発達と心 理」と題し、登場人物のメイ(4歳)の言葉や 行動、表情などの映像を元に、一般的な子 どもの発達の様相、個性、心理、乳幼児へ の大人の関わり方に関して講義を行った。 ・夢ナビ講義 http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g005620
夢ナビ講義ライブ2014	2014年7月	主催 フロムページ 後援 文部科学省 共催 河合塾・Z会・受験 サプリ・進研ゼミ高校講 座	フロムページ主催の夢ナビライブは、大学 教員が学問の魅力を30分間でわかりやすく 紹介する。2014年東京会場(東京ビッグサ イト)では、349の講義ライブが実施され た。 「となりのトトロから学ぶ子どもの発達と心 理」と題し、登場人物のメイ(4歳)の言葉や 行動、表情などの映像を元に、一般的な子 どもの発達の様相、個性、心理、乳幼児へ の大人の関わり方に関して講義を行った。 ・夢ナビ講義 http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g005620 ・受講者の声 http://yumenavi.info/live/uketuke/kakunin/Kuchikomi_pc.aspx?kjid=s800622001&kougicd=20040
夢ナビ講義ライブ2015	2015年7月	主催 フロムページ 後援 文部科学省 共催 河合塾・Z会・受験 サプリ・進研ゼミ高校講 座	フロムページ主催の夢ナビライブは、大学 教員が学問の魅力を30分間でわかりやすく 紹介する。2015年東京会場(東京ビッグサ イト)では、301の講義ライブが実施され た。 「となりのトトロから学ぶ子どもの発達と心 理」と題し、登場人物のメイ(4歳)の言葉や 行動、表情などの映像を元に、一般的な子 どもの発達の様相、個性、心理、乳幼児へ の大人の関わり方に関して講義を行った。 ・夢ナビ講義 http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g005620 ・受講者の声 http://yumenavi.info/live/uketuke/kakunin/Kuchikomi_pc.aspx?kjid=s800622001&kougicd=20040

夢ナビ講義ライブ2016	2016年7月	主催 フロムページ 後援 文部科学省 共催 河合塾・Z会・受験 サプリ・進研ゼミ高校講 座	<p>フロムページ主催の夢ナビライブは、大学教員が学問の魅力を30分間でわかりやすく紹介する。2016年東京会場(東京ビッグサイト)では、333の講義ライブが実施された。「となりのトトロから学ぶ子どもの発達と心理」と題し、登場人物のメイ(4歳)の言葉や行動、表情などの映像を元に、一般的な子どもの発達の様相、個性、心理、乳幼児への大人の関わり方に関して、講義を行った。</p> <p>・夢ナビ講義 http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g005620</p> <p>・受講者の声 http://yumenavi.info/live_archive/uketuke/kakunin/KliveList_Pc.aspx?p=tokyo</p>
夢ナビ講義ライブ2017	2017年7月	主催 フロムページ 後援 文部科学省 共催 河合塾・Z会・受験 サプリ・進研ゼミ高校講 座	<p>フロムページ主催の夢ナビライブは、大学教員が学問の魅力を30分間でわかりやすく紹介する。2017年東京会場(東京ビッグサイト)では、384の講義ライブが実施された。「となりのトトロから学ぶ子どもの発達と心理」と題し、登場人物のメイ(4歳)の言葉や行動、表情などの映像を元に、一般的な子どもの発達の様相、個性、心理、乳幼児への大人の関わり方に関して、講義を行った。</p> <p>・夢ナビ講義 http://yumenavi.info/lecture.aspx?GNKCD=g005620</p>
新説！所JAPAN	2019年3月	カンテレ	<p>日本人が隠れ家に心惹かれる理由について番組が調査する中、発達心理学の観点でインタビューに答えた。幼少期に経験したかくれんぼや秘密基地といった遊びでの体験、発見の喜びが生涯につながっていることを述べた。</p>
スタッフセミナー (洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学)	2019年12月	洗足学園音楽大学 洗足こども短期大学 SD活動	<p>「心豊かな日々のための生涯発達心理学」と題し、本学職員に向けたセミナーの講師を担当した。生涯での獲得と喪失、対象喪失、他者との関係性の中で築かれる自己について、幼少期の経験が大人につながるなど、他者の喜びや悲しみを分かち合うことなど、発達心理学をはじめ、心理学の諸領域より講義を行った。</p>
図書館便り2020 <私の推薦図書>	2020年9月	洗足学園音楽大学附属 図書館・洗足こども短期 大学附属図書館 図書館便り2020 第11巻 1号 (13ページ)	<p>『子どもの世界をどうみるか 行為とその意味』を推薦図書に挙げ、著者である津守真が、日々の保育実践から感じた子どもの内奥に広がる世界の奥深さについて、また自己理解が完全ではないこと、他者理解の難しさ故に積極的関心を向けること大切さについて述べていることについて文章にまとめた。「子どもにとって意味のある世界は、生活の片隅のように見える小さな時間と空間の中にある」という一文、「何気ない日常場面のひとつのような記憶が、何十年を経た後も心の底に残り、人間形成に関わる」という著書の内容を取り上げ、コロナ禍における現在の日常も貴重な人間形成の時間であることを述べた。また、他者からのあたたかなまなざしと寄り添い、心を通わせ合う経験の積み重ねが、その人の生涯に渡る生きる力の基礎を育むということについても触れ、自分の思いを伝え、受け止めてくれる存在がいることの幸せを存分に感じながら日々を過ごしていくことのかげがえのなさについて言及した。(p3)</p>

教育研究業績書

2023年5月1日
氏名 長島 万里子

著書・学術論文などの名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概要
(著書)				
発達保育実践政策学のフロントランナー(第2巻 保育・子育ての社会科学)	共著	2021年2月	中央法規出版	東京大学大学院教育学研究科付属発達保育実践政策学センター監修、秋田喜代美・小玉重夫編。第2巻第1章「保育者養成の高度化」を分担執筆。保育者養成に4年制大学が増加している状況とその要因をアンケートとインタビュー調査から実証的に検証した。アンケート作成、インタビュー実施、分析を担当。両角亜希子・長島万里子・松村智史(pp1-34)
(学術論文)				
児童期の国際交流活動が相互理解促進に与える影響—日韓「運動遊び」交流アンケート調査結果の考察—	単著	2011年2月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学、洗足論叢第39号(5ページ)	小学校学習指導要領では、異文化の体験および異文化との交流が国際理解を深める重要な役割を果たすとしている。「異文化との交流」が国際理解意識に与える影響を検証することは、国際化に対応した教育の導入や授業計画にあたって意義があるということを踏まえ、運動遊びを主とする国際交流活動が、児童期における日本及び韓国の子どもの国際理解促進に与える効果を、林原ら(2010)の研究をもとに調査、検証した。(pp.33~37)
保育学生の幼児・学童期における遊び体験に関する調査研究	共著	2011年2月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学、洗足論叢第39号(10ページ)	学生自身の幼児期・学童期の遊びの体験について、種目による経験の差が見られ、遊びを体験できる環境が整っていることの重要性が指摘された。子どもたちが園生活において様々な遊びを体験し、遊びの中で体を十分に動かし楽しむことができるには、保育学生自身が遊びを体験し、子どもたちに伝承できること、性差を超えて様々な遊びに関わり、子どもたちの興味・関心を高められる指導力と環境を構成する力の必要性が示唆される。実践的な学びによる保育実践力を授業で培うことの必要性も窺える。神蔵幸子・長島万里子・岡本かおり。アンケート作成・実施・集計・分析・考察を担当執筆。
運動遊び交流が子どもの国際理解意識に与える影響—国際理解教室(韓国)アンケート調査結果の考察—	単著	2012年2月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学、洗足論叢第40号(8ページ)	2011年に横浜市公立小学校の第6学年児童108名を対象に調査を実施し、運動遊び交流による国際理解意識の変化の分析を試みたものである。その結果、運動遊びを主とする国際交流活動は子どもの国際理解意識の「外国語」、「異文化体験」、「地球的課題」、「国際交流」4因子すべてに対して効果があった。また先行研究との比較から、条件の差があっても、国際交流活動は「外国語」への関心を高める効果があることも明らかになった。(pp.141~148)
幼児の体力向上に関する基礎研究—S幼稚園児の足跡測定と生活アンケート結果の関連—	共著	2012年2月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学、洗足論叢第40号(8ページ)	幼児の体力向上に資する保育内容の提言にむけての基礎資料を得るために、川崎市のS幼稚園児を対象に、足跡測定と、保護者への生活アンケートを実施し関連を考察した。①土踏まずの形成は年齢が上がるごとに進んでいること、②生活習慣では良い睡眠習慣が形成されていること等が認められたが、多くの生活習慣と土踏まずの形成の関連には顕著な相関は見出せなかった。一方、子どもの運動量の認識に保護者と担任教師間に差が見られたことなど、今後の研究への視点が見出された。神蔵幸子・石濱加奈子・長島万里子。アンケート作成・実施・集計・分析・考察を担当執筆。

学生の保育教材研究能力の育成— 保育内容・健康におけるお手玉を題材とした授業実践—	共著	2013年2月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学、洗足論叢第41号（11ページ）	幼稚園・保育所の子どもの遊びを想定したお手玉作りと遊びの実践による教材研究を実施した。調査の結果、授業で保育教材の実践的な学びを取り入れることが、子どもの発達や保育目標に沿った保育教材を考え作り出す力、遊びを創造する力を高めることが示唆された。また「幼児の運動能力に沿って、遊びを考えているかを大切にしたい」「1つの教材で1つの遊びしかできないことはほとんどない」といった回答がみられるように、子どもの運動能力を考慮し、1つの教材から様々な活動を展開できる保育実践力を育む可能性が指摘できる。長島万里子・岡本かおり・神蔵幸子。 アンケート作成・実施・集計・分析・考察を担当執筆。
幼児の運動能力向上を促す保育活動の提案：S幼稚園年長児の足跡・運動能力・生活習慣の関連性から	共著	2014年9月	日本幼少児健康教育学会、運動・健康教育研究、第23巻第1号（8ページ）	幼稚園児の運動能力向上を促す保育活動を提案することを目的とし、S幼稚園年長児を対象とした足跡測定、運動能力テスト、および保護者を対象とした生活の様子に関するアンケートを行った。その結果から、土踏まずの形成および運動能力は、日常の運動量や経験が影響してくることが示唆された。しかしながら、土踏まずの有無と生活アンケートとの間には、有意な関連がみられなかったことから、身体活動量の主観的な評価だけでなく、客観的な指標を取り入れ、検討することが課題となった。長島万里子・石濱加奈子・神蔵幸子。 アンケート作成・実施・集計・分析・考察を担当執筆。
幼児期の発達調査に関する提言—S幼稚園児の土踏まず測定と生活アンケート結果をもとに	共著	2016年3月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学、洗足論叢第44号（10ページ）	3年間縦断的に集積したS幼稚園における園児の土踏まずの形成状況と保護者へ向けた生活に関するアンケート結果との関連を報告し、発達を促すと考えられる生活習慣、運動習慣を検討することを目的とした。また、この結果より得られた発達調査研究の限界と課題を明確にし、現在広くおこなわれている発達調査に対する課題に言及し、今後の発達調査を的確におこなうための一助とすべく提言を行った。石濱加奈子・長島万里子・神蔵幸子。 アンケート作成・実施・集計・分析・考察を担当執筆。
保育の質に対する園長の専門性—保育に関する全国調査から—	共著	2017年3月	大学経営政策研究、東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース 第7号、89-104（14ページ）	東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター（Cedep）が実施した「保育・幼児教育施設大規模調査」のうち、就学前教育・保育施設の長（園長）を対象としたアンケートを用いて分析を行った。園に対する主観的な評価に対しては、園長の学歴、園長の専門性がきわめて大きな影響を与えており、逆に立地の違いは影響を与えていないことがわかるなど、これまで研究が行われてこなかった面が明らかになった。両角亜希子・長島万里子。 研究設計、アンケート分析、考察を担当執筆。
韓国の保育者養成校における教育課程—培花女子大学の事例から—	単著	2017年3月	短期高等教育研究、短期大学コンソーシアム、第7号、51-57（7ページ）	近年、保育者養成校はいかにその教育課程を工夫し、基準に則りつつも他大学と差別化を図り、質の良い保育者を送り出していくかが問われている。本研究では韓国の保育制度や保育者養成の動向を整理した上で、首都ソウルに立地する短期高等教育機関である専門大学、培花女子大学の保育者養成の教育課程を考察した。人形劇やワークショップの授業プログラム、学士学位取得への「専門深化課程」、学校独自の奨学制度等から日本への示唆を得た。

韓国における医師養成課程の効率性分析	共著	2017年12月	Journal of Policy Informatics、政策情報学会、第11巻第1号、47-55(9ページ)	韓国におけるメディカルスクールは国際競争力のある医師を養成するために米国式の形態を取り入れたものである。韓国の医師養成課程における3類型(MS型/MC型/並行型)別の効率性について、包絡線分析(DEA)を用いて明らかにした。その結果MC型のほうが効率性のよい教育研究を推進していることが分かったが、全国的にMS型に戻る流れとなっていることなどの現状の分析と、日本への示唆を示した。長島弥史郎・長島万里子。資料翻訳、分析、考察部分を担当執筆。
保育者養成校の教育内容に関する実証的研究—四大化は質の高度化につながっているのか—	共著	2019年3月	大学経営政策研究、東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース 第9号、1-18(18ページ)	保育者養成校の教育内容に焦点を当て、どのような教育内容・方法等が質の高い保育者養成あるいは評価の高い卒業生の輩出につながっているのかをアンケート調査結果から検討した。その結果、入学者の学力層の直接的な影響が見られず、機関別の直接的影響も限定的であることがわかった。卒業生評価においてはinput要素と比較して教育内容の違い、その中でも「実践力重視」や「保育関連カリキュラムの充実」が高い影響を与えている傾向があった。また養成校の歴史や専任教員の保育者を育てる自負心の強さ、教員間のコミュニケーションの良好さ、実習指導授業の充実などが実践力を重視する教育内容につながっている可能性が示された。両角亜希子・長島万里子 アンケート作成・実施・集計・結果分析を担当執筆。
短期大学における保育者養成の特徴と課題—機関責任者へのアンケート調査から—	単著	2019年5月	短期高等教育研究、短期大学コンソーシアム、第9号、25-31(7ページ)	幼稚園教諭免許を取得可能な指定保育士養成校の責任者を対象としたアンケート調査の分析を行い、現場での実践的な教育と、丁寧な就職支援が特色であるとする短期大学が多い傾向が明らかになった。課題としては、実習指導の忙しさや担当授業数の多さで時間を取られること、学生の学習習慣不足があげられた。また短期大学の強みについては保育士資格を2年で取得できる、早く働きたいニーズに応えられる、低学費に加え、学生の目的も保育者になることと明確であること、また短大卒に対する現場のニーズが高いことなどがあげられた。
保育者養成系高等教育機関に期待される養成及び現職教育への関わり方に関する考察	共著	2021年3月	大学経営政策研究、東京大学大学院教育学研究科大学経営・政策コース 第11号、85-100(16ページ)	保育者養成系高等教育機関が保育者の「養成」及び「現職教育」にどのように関わるべきかを検討するため、保育現場の長(園長等)へのインタビューからの分析を行った。養成校で身に着けることが求められていることとして実技の「基本」、保育への構え、前向きさ、豊かな人間性、学び続ける姿勢などの土台の上に、「知識」や「引き出し」があげられたことが明らかになった。松村智史、長島万里子 研究設計・先行研究整理・インタビュー実施・分析・考察を担当執筆。
「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育む授業の検討:「実習日誌」及び「保育者のための文章表現授業」アンケートからの分析	共著	2021年3月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学、洗足論叢第49号、81-95(15ページ)	著者グループは子どもの育ちを的確に記録し、その姿を丁寧に読み解いて記述する能力に着目し、保育記述力と名付け、それを育む授業のあり方を模索している。本研究では2019年から2020年にかけて、学生の実習日誌記述に関する困難感を把握し、「保育者のための文章表現授業」の効果を明らかにするために実習日誌及び「保育者のための文章表現授業」に関するアンケートを実施し、その分析結果をまとめた。井上 真理子、向笠 京子、長島 万里子、高橋 優子、伊藤 路香、上田 よう子 研究設計・先行研究整理・統計分析・考察を担当執筆。

我が国における政策系大学院教育に関する研究動向	共著	2021年12月	Journal of Policy Informatics、政策情報学会、第15巻第1号、5-12。	我が国の政策系大学院の教育に関する研究動向を把握することを目的とし、政策系大学院の教育課程、海外の政策系大学院教育、政策系大学院教育と仕事との関係の3点それぞれの分野から論文レビューを行い、整理したものである。その結果、我が国の政策系大学院の教育に関する研究領域は多岐に渡り、それぞれの領域について部分的に先行研究は存在するものの、全体として低調な傾向にあり、特に実証系の研究が欠如しているのが現状といえることを明らかにした。海外(韓国)の政策系大学院教育の事例部分を担当執筆した。長島弥史郎・松村智史・長島万里子
「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育む授業の検討(2): テキストマイニングによる「保育者のための文章表現」授業アンケート自由記述回答の解析	共著	2022年3月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学、洗足論叢第50号、117-129。	「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育む授業の検討(1)(井上ほか2021:81-95)の結果を検証するとともに質的な言語データ(テキスト)の中に埋もれている情報を掘り起こし、活用するため、テキストマイニングによる授業アンケート自由記述回答の解析を行った。その結果、学生にとって、「事例・考察」の書き方についての授業内容が最も役に立ち、また知りたかった内容であったということ、そのなかでも第2回目の実習(保育所)終了後には一段階レベルの高い保育記述力についての要望が強くなっていることを明らかにした。研究設計・先行研究整理・テキストマイニング分析・考察を担当執筆。長島万里子・向笠京子
円滑な幼保小接続のための保育者養成教育内容の検討—A市の公立小学校における栄養教諭・栄養士等のアンケート調査のテキストマイニング分析から—	共著	2023年3月	洗足学園音楽大学・洗足こども短期大学、洗足論叢第51号、229-240。	小学校栄養教諭/栄養士への23名へのインタビューを行った結果を報告した。小学校教員(栄養教諭)は、幼小接続に関する研修や実際の交流がなかったこと、接続という意識ではなかったが各自が円滑な接続のため工夫してきたことが明らかになった。また、各自の知識や経験をあわせることで、食に関して、より効果的な幼小接続が実現する可能性が示唆された。そして幼小交流に栄養教諭が参加することに効果がある可能性が示唆された。長島万里子・山下奈美子・青柳徳子
(学会発表)				
留学生の大学教育満足度の日韓比較	単独	2009年5月	日本高等教育学会、第12回大会、長崎大学	外国人留学生を対象に大学教育への満足度を測定する際、二宮(広島大学)等の先行研究から項目を設定し測定した経緯を整理し報告した。
Self-Regulation of Adult Learners: Planning as a Variable That Influences e-Learning	共同	2009年8月	The International Symposium and Conference for Educational Media in School in 2009, Seoul National University	青山学院大学が平成20年度に採択された文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」において、成人学習者を対象とし、学習に与える影響を探った。その結果、自己学習力と学習時間帯との関連が認められたことを報告した。
E-Mentor Development Course	共同	2009年8月	The International Symposium and Conference for Educational Media in School in 2009, Seoul National University	青山学院大学が平成20年度に採択された文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の推進にあたり、カリキュラム設計の経緯、韓国のeラーニングコースとの比較を報告した。
日韓の留学生交流	単独	2010年3月	CRUMP高等教育ワークショップ、大学経営政策研究センター(東京大学教育学研究科)、東京大学	東アジアの教育を考えるワークショップにおいて、日本と韓国における留学生交流の歴史を整理し、現状と今後の課題を報告した。

韓国の留学生政策と日本との関係	単独	2010年5月	日本高等教育学会、第13回大会、関西国際大学	イ・ミョンバク政権の「スタディ・코리아」政策により積極的に外国人留学生の受け入れを進める韓国が、日本の留学生受け入れに与える影響を報告した。
保育者養成機関における学生の健康意識 —健康意識と学習意欲の関連—	単独	2011年5月	日本保育学会、第64回大会、玉川大学	保育者養成機関に在籍する306名の学生へのアンケート調査をもとに、健康意識と学習意欲の関連を分析し報告した。
子どもの身体能力を高める遊びの提案—S幼稚園における保育条件と生活アンケートより—	共同	2012年2月	日本幼少児健康教育学会、第30回記念大会、東京理科大学	S幼稚園における幼児の身体能力向上に資する保育内容の提案にむけての基礎資料を得ることを目的とし、①土踏まずの有無と生活アンケート結果から実態を把握するとともに、②年長児の運動能力測定を実施し、神奈川県平均と比較しながら考察した。その結果を踏まえ、不意な動きを含めた多種多様な動きを引き出す鬼遊びやドッジボールなどを実施することや、相撲などの人が触れ合う遊びや、日常ではあまり行わない動きを伴うハイハイやスキップ競争、お手玉などを使用した遊びなどを実施すること、保育者が一人ひとりの子どもの遊びを観察し、運動量が足りないと思われる子どもの保護者に対して、降園後の外遊びや歩行量の獲得を促すような発信を行うことを園に提案した。
からだの発育に必要な運動遊びと生活スタイルについて ～S幼稚園における土踏まずの有無と体力テストの関連から～	共同	2012年 3月	日本発育発達学会、第10回大会、名古屋学院大学	神奈川県川崎市のS幼稚園に在籍する年長児を対象に、体力テスト(25m走、立ち幅跳び、テニスボール投げ、後方両手両足走、両足連続跳び越し)と土踏まず測定を実施し、その結果から効果的にからだの発育を促す運動遊び提案をすることを目的とした。体力テストのいずれの種目に関しても土踏まずあり群の方が良い傾向が示され、全身の巧みな動きを伴う運動遊びと日常の歩行量を確保することが必要であると考えられた。
保育学生の伝承遊び体験①-伝承遊びの有無とお手玉体験-	共同	2012年 5月	日本保育学会、第65回大会、東京家政大学	保育学生を対象に、遊び経験における伝承遊びの有無を調査すると共に、「お手玉」に注目した教材研究授業において、製作を含めた「お手玉体験」を設定し、学生の自由記述からお手玉体験の効果について検討した。調査より、お手玉経験はあるものの、多くの学生はお手玉を「昔のもの」と認識し、様々な遊びの案を持っていないことが明らかになった。次世代に遊びを伝承させていくためには、保育者養成校での遊び体験により、保育学生が、お手玉を身近に感じ、性質や楽しさを知ることが有効であることが明らかになった。
保育学生の伝承遊び体験②-お手玉授業の効果-	共同	2012年 5月	日本保育学会、第65回大会、東京家政大学	本研究ではお手玉を養成校の授業のなかで扱うことによる教育効果を検証するため、特別授業(全3回)を通した学生の意識について質問紙調査を実施した(N)=311)。結果、7項目中6項目で、授業前より1・2回目の授業の後、1・2回目の授業の後よりも3回目の授業の後に有意に得点が上がったことから、保育学生が養成校の授業を通してお手玉に対する好感度や親しみやすさを向上させ苦手意識を減少させたことが明らかになった。「映像」や「使用する道具の製作」「体験」を積極的に取り入れることで、より効果的で実りある教育が行われることを明らかにした。

<p>韓国の地方自治体における留学生受入れ政策-京畿道の事例から-</p>	<p>単独</p>	<p>2012年6月</p>	<p>日本高等教育学会、第15回大会、東京大学</p>	<p>韓国は留学生受入れの歴史が浅く政府主導の政策がとられてきたため、これまで地方自治体単位の留学生受入れ政策はなかったが、2011-2012年にかけて、全羅北道や京畿道等で地域の実状に合った特色ある留学生受入れ体制が見られつつある。本研究では京畿道の中国人留学生政策ビジョン「中国人の韓国留学のアイコン：京畿道」の内容や成立背景を調査した。少子高齢化が一層深刻になる日本に、親日・知日の高度職業人候補である中国人留学生を地域に根付かせるために、韓国・京畿道の事例から学ぶ点があることを示した。</p>
<p>保育内容・健康におけるお手玉を題材とした実践的授業の効果—学生の保育教材としてのお手玉に対する意識変化—</p>	<p>共同</p>	<p>2013年3月</p>	<p>日本幼少児健康教育学会、第31回大会、聖セシリア女子短期大学</p>	<p>幼児の体力・運動能力の向上に効果的な遊びがあることを理解する機会を設けるため、日本の伝承遊びの一つであるお手玉を保育内容・健康の授業で取り上げ、そこでの学生の意識変化について調査した。質問紙調査から、実践的授業によって学生のお手玉に対する意識が「難しいもの」から「簡単・身近なもの」へと変化したし、お手玉の魅力や遊びの幅の広さにも気づいていったことが明らかになった。他に学生がお手玉を「幼児にも扱いやすいもの」として捉え直したこと、お手玉の大きさ・重さ・中に入れる素材を変化させることで、運動発達の側面も意識した。</p>
<p>韓国、全羅北道における留学生受入れの取り組み—外国人留学生受入れ・管理能力認証制導入の影響—</p>	<p>単独</p>	<p>2013年7月</p>	<p>日本比較教育学会、第49回大会（於 上智大学）</p>	<p>韓国の地方自治体は地域再生の契機としての留学生政策が行われているが、他の地域に先駆けて地方自治体独自の留学生受入れに取組み始めた「全羅北道」の留学生受入れの取組みを分析し、中央政府の質管理政策から受けた影響を明らかにすることで、韓国の留学生受入れの動向を整理し、日本の地方大学・自治体への示唆を得ようとした。</p>
<p>幼児期の運動実施が高学年児童の生活に及ぼす影響</p>	<p>単独</p>	<p>2014年2月</p>	<p>日本幼少児健康教育学会、第32回大会、淑徳大学</p>	<p>児童を対象に生活アンケートを実施し、幼児期の運動や運動遊びの経験と小学校入学後の健康的な生活の関連を探った。幼児期に運動や運動遊びの経験が多いほど健康的な生活を送っていることが示唆されたことから、幼稚園・保育所において幼児が楽しんで体を動かすことができるような環境を整えることが重要だと考えられることを報告した。</p>
<p>S幼稚園における幼少児の土踏まず測定と生活アンケート結果の分析—年長時の測定で土踏まずが形成されていた子どもの特徴</p>	<p>共同</p>	<p>2016年3月</p>	<p>日本幼少児健康教育学会、第34回大会、青山学院大学</p>	<p>幼児期の土踏まず形成を促す要素を検討する目的で、年少時に土踏まず形成が見られなかった幼児のうち、年長時には土踏まず形成が見られた幼児と年長時にも土踏まず形成が見られなかった幼児の生活アンケート調査結果をマン・ホイットニーのU検定を実施し比較した。その結果「早寝・早起きの規則正しい生活をする事」、「活発な活動を保育の場や家庭で十分におこなうこと」、「母親が幼児とともにスポーツ・運動遊びを積極的におこなうこと」、「家族で運動・スポーツに関する話題を楽しむこと」が土踏まず形成群に有意に多く認められたことから、これらが幼児の体力・運動能力を向上させることにつながる可能性が示唆された。長島万里子・石濱加奈子・神蔵幸子（30-31頁）</p>

<p>メディカルスクール導入後の韓国における医師養成課程の効率性分析</p>	<p>共同</p>	<p>2016年5月</p>	<p>日本比較教育学会、第52回大会、大阪大学</p>	<p>韓国の医師養成課程におけるメディカルスクールの発展過程(導入の背景、経緯、現況、導入後の課題等)を明らかにした。また韓国の医師養成課程における3類型(MS型/MC型/並行型)別に包絡線分析(DEA)を用いてその効率性を調べた、その結果、メディカルスクール(MS型)は旧来の医学部(MC型)や並行型と比較し、効率性の高い医師養成課程である可能性を垣間見ることができた。長島万里子・長島弥史郎。</p>
<p>保育者の遊び環境設定力の教育歴による差 -保育に関する全国調査(5歳児クラス担任編)から-</p>	<p>単独</p>	<p>2017年3月</p>	<p>日本幼児健康教育学会、第35回大会、日本体育大学</p>	<p>「保育所内外の空間や物的環境、様々な遊具や素材、自然環境や人的環境を生かし、保育の環境を構成していく技術」に着目し、保育者の教育歴によりその力に違いがあるのかどうかを分析した。東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(Cedep)が実施した「保育・幼児教育施設大規模調査」を用いて分析を行った。マンホイットニーのU検定の結果、幼稚園においては遊び環境設定力($p=0.000$)は四年制大学卒業者が短期大学卒業者に比べ有意に高い水準を示し、ルール指導力($P=0.000$)においては四年制大学卒業者より短期大学・専門学校卒業者の方が有意に高い水準を示していることなどが明らかになった。</p>
<p>保育者養成の高学歴化に関する研究 -機関側の行動から-</p>	<p>共同</p>	<p>2017年3月</p>	<p>東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 2016年度関連SEEDSプロジェクト成果報告会、東京大学</p>	<p>保育者養成を行う四年制大学の教育・カリキュラムなどは短大のそれとどのように異なっており、本当に保育の質の高度化につながっているのかを明らかにする目的で東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(Cedep)SEEDSプロジェクトで取り組んでいる研究(研究代表者:両角亜希子)の当該年度の報告をおこなった。保育者養成校の取得資格、就職状況などを各校のウェブサイトをもとに整理した結果及び機関関係者へのインタビュー調査の結果をカリキュラム、就職面などでの特徴を中心に発表した。両角亜希子・長島万里子</p>
<p>保育者養成の高学歴化に関する研究 -機関側の行動から-</p>	<p>共同</p>	<p>2018年1月</p>	<p>東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 2017年度関連SEEDSプロジェクト成果報告会、東京大学</p>	<p>保育者養成を行う四年制大学の教育・カリキュラムなどは短大のそれとどのように異なっており、本当に保育の質の高度化につながっているのかを明らかにする目的で東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(Cedep)SEEDSプロジェクトで取り組んでいる研究(研究代表者:両角亜希子)の当該年度の報告をおこなった。首都圏を中心に四大4校、短大5校の学科・学部の長、担当教員を対象とし、2016年7月～2017年10月に実施したヒアリング調査を分析したものを発表した。保育者の需要がピークアウトすることへの対応、専門性への議論の必要性、保育者の資格のあり方・資質統制方法の必要性などが共通の課題であることを整理した。両角亜希子・長島万里子</p>
<p>保育者養成の高学歴化に関する研究 -四大化は質の高度化につながっているのか-</p>	<p>共同</p>	<p>2019年2月</p>	<p>東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター 2018年度関連SEEDSプロジェクト成果報告会、東京大学</p>	<p>保育者養成校の教育内容に焦点を当て、どのような教育内容・方法等が質の高い保育者養成あるいは評価の高い卒業生の輩出につながっているのかを東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(Cedep)が実施した「保育者養成に関するアンケート」の調査結果から検討した。その結果、入学者の学力層の直接的な影響が見られず、機関別の直接的影響も限定的であることがわかった。卒業生評価においてはinput要素と比較して教育内容の違い、その中でも「実践力重視」や「保育関連カリキュラムの充実」が高い影響を与えている傾向があった。また養成校の歴史や専任教員の保育者を育てる自負心の強さ、教員間のコミュニケーションの良さ、実習指導授業の充実などが実践力を重視する教育内容につながっている可能性が示された。両角亜希子・長島万里子</p>

保育者養成校の教育内容に関する実証的研究－短期大学における保育者養成の特徴と課題－	単独	2019年5月	日本保育学会、第72回大会、大妻女子大学	四年制大学の参入が続き、少子化のなかで学生募集の競争が激化している状況における短期大学の保育者養成の課題及び特徴を東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(Cedep)が実施した「保育者養成に関するアンケート」の調査結果から検討した。その結果、短期大学における保育者養成の課題は、立地別の差は見られなかった。また、短期大学における保育者養成の共通の課題には「実習指導の忙しさ」、「学生の学習習慣の不足」、「担当授業の多さ」があげられた。
保育者養成の高学歴化に関する研究－四大化は質の高度化につながっているのか－	共同	2020年2月	東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター2019年度関連SEEDSプロジェクト成果報告会、東京大学	保育者養成校の高学歴化に関して東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(Cedep)が実施した「保育者養成に関するアンケート」の調査結果と保育現場へのインタビューを分析した。専門職としての保育者を育てるために現場では就職後の経験や学びが重要とされていること、しかしながら養成校の教育内容が専門性を高めることを意識したものであることも一定の意味があることなどが明らかになった。 両角亜希子・長島万里子・松村智史
保育学生の心身の健康が実習満足度に与える影響の分析	共同	2021年2月	日本幼少児健康教育学会第39回大会春季：加須大会、平成国際大学	保育実習の充実には保育学生自身の心身の健康が関連するという仮説の検証を試みた。2020年6月に実施した実習終了後アンケートから実習に関する項目を使用し、研究における倫理的配慮を行ったうえで分析を実施し重回帰分析を行い、実習期間の心の健康は、実習満足度に影響を与えることを明らかにした。 向笠京子・長島万里子
コロナ禍における保育所の実習生受け入れ体制の実態及び感染症対策、職場環境についての調査研究 第1報	共同	2022年3月	日本保育者養成教育学会第6回研究大会	新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が流行・拡大・鎮静している中で、感染対策を講じながら、実践力を培う実習の受け入れと健康と安全を保障する実習のあり方が課題となっているなかで、1. 実習の受け入れに対する現場の実態を捉えること2. 実習受け入れの可否やその条件を現場がどのような基準や判断に基づき決定をしているのかの実態を明らかにすること3. 養成校における教育・指導内容を検討することを目的とした保育者対象アンケート調査結果を報告した。向笠京子・井上眞理子・坂田哲人・長島万里子・高橋優子・伊藤路香・上田よう子
コロナ禍における保育所の実習生受け入れ体制の実態及び感染症対策、職場環境についての調査研究 第2報	共同	2022年3月	日本保育者養成教育学会第6回研究大会	第1報では量的分析結果を報告したが、第2報では、自由記述部分をテキストマイニング分析によって考察した。その結果、保育所におけるコロナ禍での実習生受け入れに関して、「よかった点」として示された意見の大多数は、普段の実習生受け入れ時と変わらなかったといえること、「養成校への要望、意見」については、コロナ禍ならではの養成校への要望・意見が多くみられたこと、「困ったことや検討したこと」については、実習内容や経験が通常通り提供できなかったことへの実習園側の申し訳なさや、安全面への配慮に苦慮しながらも、慎重かつ最大限の工夫を模索・検討している様子が明らかになった。長島万里子・向笠京子・井上眞理子・坂田哲人・高橋優子・伊藤路香・上田よう子
コロナ禍における保育士の心身の健康と感染症対策に関する検討－テキストマイニングによるアンケート自由記述回答の解析－	共同	2022年3月	日本幼少児健康教育学会第40回記念大会【春季：赤羽台大会】	保育士の心身の健康やコロナ禍での感染症対策などを、質的に検討するため、言語データ(テキスト)を活用し、テキストマイニングによる自由記述回答の解析を行った。その結果から、保育者養成校の子どもの保健や実習指導の授業では、実際に現場に行った際に感染症の予防と対策などを実践できるように、今まで以上に感染症対策に関して授業で取り扱い、演習形式で実践的な授業がより必要であると考えられることが明らかになった。向笠京子・長島万里子

健やかな子どもの育ちのための幼小接続期のあり方に関する一考察	共同	2022年3月	日本幼少児健康教育学会第40回記念大会【春季：赤羽台大会】	小学校栄養教諭への4名へのインタビューを行った結果を報告した。小学校教員(栄養教諭)は、幼小接続に関する研修や実際の交流がなかったこと、接続という意識ではなかったが各自が円滑な接続のため工夫してきたことが明らかになった。また、各自の知識や経験をあわせることで、食に関して、より効果的な幼小接続が実現する可能性が示唆された。そして幼小交流に栄養教諭が参加することに効果がある可能性が示唆された。 長島万里子・山下奈美子・青柳徳子
韓国の保育者養成—専門大学における「専攻深化課程」の考察—	単独	2022年5月	日本高等教育学会第25回大会	韓国では専門大学(短期高等教育機関)出身者の割合が高いため、入学者ではなく卒業者の学力向上の方法を用意するべきであること、「深化教育課程(専攻深化課程をさす)」などで学士学位を取得することがすすめられている。韓国の「専門大学」における学士学位取得制度である「専攻深化課程」が、保育者養成においてどのような位置づけにあるのかを事例考察から明らかにすることを試みた。保育者を養成する専門大学にとっても学生獲得というメリット、及び4年制大学と同等の学位を授与できるため4年制大学と対抗できるというメリットがあることが示唆された。
遊び中心・子ども主体の現場づくりのための日韓中の状況と幼少児の健康・生活習慣の現状と課題に関する国際調査の取り組み	単独	2022年9月	日本幼少児健康教育学会第41回大会	日本と同じ東アジアに立地し、少子高齢化、子どもの体力低下、保育の質への取り組みなどにおいて類似する課題をかかえる韓国・中国の子どもの現状、教育保育の動向を知ることで日本への示唆を得ることを試みた。日中韓の子どもが置かれる状況、保育制度、保育内容は様々であるが、子ども主体、遊び中心は共通であることが明らかにされた。日本主導でおこなう研究、本学会が調査する意義を考慮し、「保育内容・健康」の考え方からの尺度(本学会員澤・藤本作成)をベースに、日韓中3か国のこどもの心身の健康を調査することにつながる議論のたたき台となった。
健やかな子どもの育ちのための幼小接続期のあり方に関する一考察—A市における栄養教諭・栄養士等のアンケート調査の分析から—(共同)	共同	2023年3月	日本幼少児健康教育学会第42回大会	円滑な幼小接続のために保育者(幼稚園教諭・保育士・保育教諭)がどのようなことを知識として備えて現場に出ることが求められているのか、そのために保育者養成段階でどのような養成教育を行うことが望ましいのか、を22名のアンケートから実証的に探った。1年生の給食指導において困ることは①給食の量や内容、準備に時間がかかること、食べるにあたっての偏食など、給食そのものへの苦手意識や苦手な反応、②牛乳を飲むことや箸の使い方、食事時間の短さに泣くなどの児童の様子、③静かに座ることができない、④授業中に教室をでる、⑤食事中に立つ、歩く、集中できない、マナー不足、が目立っているというように整理された。青柳 徳子・長島 万里子・山下 奈美子
(報告書)				
平成20年度社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託業務成果報告書「主婦・団塊世代等社会人経験を有する人材に対するオンライン学習支援者育成プログラム」平成20年度報告書	共著	2009年3月	青山学院大学	青山学院大学が平成20年度に採択された文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の成果報告書である。本人はプログラムのなかでは「教育評価」の授業を担当した。本報告書では事業広報に関する報告部分の執筆を主に担当した。総30頁
平成21年度「教科書の質・量改善推進事業」～英語教科書改善・充実のための調査研究～報告書	共著	2010年3月	株式会社三菱総合研究所	中学校の英語の教科書について質・量両面での改善・充実を図ることを目的として実施された文部科学省委託調査報告書。韓国における教育政策を韓国教育科学技術部の資料や韓国教育課程評価院へのインタビューを通して整理し、英語教育の現状と今後を同徳女子大学・ソウル大学教授へのインタビューを通じてまとめた。またソウル市の公立中学校の授業見学と教員インタビューから日本への示唆をまとめた。47-78頁(総152頁)

平成20年度社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム委託業務成果報告書「主婦・団塊世代等社会人経験を有する人材に対するオンライン学習支援者育成プログラム」平成21年度報告書	共著	2010年3月	青山学院大学	青山学院大学が平成20年度に採択された文部科学省委託事業「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」の成果報告書である。本人はプログラムでは「教育評価」の授業を担当し、本報告書では事業広報に関する報告部分の執筆を主に担当した。総32頁
私立高等教育研究所シリーズ No.48「日中韓の留学生政策と日本の私立大学」	共著	2012年 9月	日本私立大学協会 附置私学高等教育研究所	『韓国の留学生政策の展開と日韓の私立大学』を担当した。韓国の留学生政策の成果と課題を韓国高等教育の状況・留学生送り出し・受入れ状況とともに分析し、日本への示唆を示した。政策の成果として確実に留学生受入れ数を増やしている韓国が、課題である留学生管理の不徹底等に取り組むため新たに大胆な対策をとっていることを紹介し、日本とは①英語圏の短期留学・交換留学生受入れ、また②中国人留学生の獲得という点でライバルになるということが示唆されることを報告した。43-74頁
地域活性化を目指した留学生受入れ・交流・ネットワークの仕組みづくりー課題解決の取組みと社会的変化の横断的分析ー 2010～2012年度トヨタ財団研究助成報告書	共著	2012年12月	2010～2012年度トヨタ財団研究助成報告書 助成番号D10-R-0470	少子高齢化と産業の空洞化の進行の中で、地方をどう活性化するかを日本にとって重要な課題の一つと位置づけ、「留学生」が地域の活性化や国際化にどのような役割を果たしているのか、また持続的な留学生受入れ・交流・ネットワーク構築に向けた課題とその克服策について明らかにすることを目的とした研究報告書である(研究代表者:佐藤由利子)。本人担当部分:第5章(金美姫・長島万里子『第5章 韓国・全羅北道における留学生受入れの取組み』)日本以上に深刻な少子化の影響で、高度人材としての外国人材の受入れと支援が重要視されている韓国における地方の置かれた課題を明らかにしたうえで全羅北道の取組みを報告した。111-117頁
留学生受入れによる地域活性化の取組みと社会統合の課題に関する国際比較研究 研究課題番号24531061 平成24-26年度科学研究費補助金基盤研究C研究成果報告書	共著	2013年 3月	平成24-26年度科学研究費補助金基盤研究C研究成果報告書、 東京工業大学	留学生受入れによる地域活性化の取組みと社会統合の課題に関する国際比較研究(研究代表者:佐藤由利子)において、第4章「韓国の地方都市における留学生受入れ例と定着支援の取組み」の中で金美姫著「韓国・全羅北道における中国人留学生留学実態分析及び支援計画に関する計画」を朴源花氏と共同翻訳した。
私学高等教育研究叢書『日韓大学国際化と留学生政策の展開』	共著	2014年 10月	日本私立大学協会 附置私学高等教育研究所	高等教育の国際化について、日本と韓国を比較し、特に私学の実態に迫ることを目的に行われた調査研究をまとめた報告書。本人担当部分である第4章「韓国の留学生受入れ・送り出し政策」では、2013年までの韓国における留学生受入れ・送り出し数と政策を整理し、少子化や留学生数の伸び悩みへの韓国政府の対応から日本への示唆を示した。
(その他)				
韓国の留学生政策とその変遷	単著	2011年4月	月刊ウェブマガジン「留学交流」 2011年4月号、日本学生支援機構(JASSO) http://www.jasso.go.jp/about/web/magazine201104.html	韓国の留学生送り出し・受け入れ政策の歴史を整理し、現在の韓国の留学生送り出し・受け入れの現状をまとめ、日本への示唆を提言した。平成23年の時点では世界における留学先としての存在感を日韓で比較する際、韓国に比べて日本が優勢であるといえるが、日本と韓国の受入れ留学生数の差は、2000年から2008年の間に約16倍から約2倍へと大幅に縮まっている。韓国がどのようにしてさらなる課題である優秀な留学生の確保や受入れ国家の多様化、受入れ留学生の管理・支援強化を進めていくのかを把握する必要があると提言した。総10頁

韓国における留学生受入れ—地方大学の現状と政策—	単著	2012年6月	教育学術新聞 第2484号(平成24年6月6日)	留学生の受入れ先として、少子高齢化の進行が深刻な点・雇用機会が不足している点などで不利な立場を克服しようとする韓国・京畿道の取組みを調査し紹介した。物価が安い点・大学内寄宿舎や公的宿舎の整備率が高い点など大都市と比較して有利な面を伸ばし、自治体が主導して地元大学・地元企業と連携することで、地域に合った効果的な留学生受入れ戦略を展開しようとする姿勢を日本の地方大学へのヒントとした。2頁-2頁
1回でわかる！保育士過去問題集14年度版	共著	2014年3月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の平成25年、24年、23年度の3か年分を解説したものである。担当した発達心理学、精神保健及び保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。 平成25年度保育の心理学30-37頁、平成24年度発達心理学66-70頁、精神保健70-75頁、平成23年度発達心理学141-145頁、精神保健145-150頁
保育士一問一答問題集14年度版	共著	2014年3月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の問題集として一問一答形式にまとめたものである。担当した「保育の心理学」では子どもの発達や心理学の基本について整理した。 第6章保育の心理学177-210頁
これだけ覚える！保育士重要項目14年度版	共著	2014年3月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の9科目から必ず覚えていくべき重要項目についてまとめたものである。担当した「保育の心理学」では発達理論、子ども理解、生活や遊びを通した学びの過程などを整理した。 第6章保育の心理学143-184頁
教職教養教員採用試験合格問題集	共著	2014年12月	新星出版社	教員採用試験における教職教養対策問題集において、教育心理学分野の執筆を担当した。各地方自治体の教員採用試験問題から教育心理学理論、学習理論、発達、教育評価、心理療法等に関する問題を分析したうえで、模擬問題を作成・解説した。 220-261頁
1回でわかる！保育士過去問題集15年度版	共著	2015年1月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の平成26年、25年、24年度の3か年分を解説したものである。担当した発達心理学、精神保健(24年度のみ)及び保育の心理学(25・26年度)ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。 平成26年度保育の心理学27-33頁、平成25年度保育の心理学82-89頁、平成24年度発達心理学118-122頁、精神保健122-127頁
保育士一問一答問題集15年度版	共著	2015年1月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の問題集として一問一答形式にまとめたものである。担当した「保育の心理学」では子どもの発達や心理学の基本について整理した。 第6章保育の心理学177-210頁
これだけ覚える！保育士重要項目15年度版	共著	2015年1月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の9科目から必ず覚えていくべき重要項目についてまとめたものである。担当した「保育の心理学」では発達理論、子ども理解、生活や遊びを通した学びの過程などを整理した。 第6章保育の心理学143-184頁
これだけ覚える！保育士重要項目16年度版	共著	2015年12月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の9科目から必ず覚えていくべき重要項目についてまとめたものである。担当した「保育の心理学」では発達理論、子ども理解、生活や遊びを通した学びの過程などを16年の試験内容に関連した事項を中心にとりあげた。 第6章保育の心理学143-184頁
1回でわかる！保育士過去問題集16年度版	共著	2016年1月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の平成28年zenki、26年、25年度の3か年分を解説したものである。担当した発達心理学、精神保健及び保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。 平成27年度保育の心理学27-33頁、平成26年度保育の心理学77-83頁、平成25年度保育の心理学132-139頁

保育士一問一答問題集16年度版	共著	2016年1月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の問題集として一問一答形式にまとめたものである。担当した「保育の心理学」では16年の試験内容に関連した事項を中心に子どもの発達や心理学の基本について整理した。 第6章保育の心理学177-210頁
これだけ覚える！保育士重要項目17年度版	共著	2016年12月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の9科目から必ず覚えていくべき重要項目についてまとめたものである。担当した「保育の心理学」では発達理論、子ども理解、生活や遊びを通じた学びの過程などを16年の試験内容に関連した事項を中心にとりあげた。 第1章保育の心理学7-48頁
1回でわかる！保育士過去問題集17年度版	共著	2017年2月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の平成28年度前後期試験、27年度試験の3回分を解説したものである。担当した保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。 平成28年後期保育の心理学1-7頁、平成28年度前期保育の心理学53-58頁、平成27年度保育の心理学127-133頁
保育士一問一答問題集17年度版	共著	2017年1月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の問題集として一問一答形式にまとめたものである。担当した「保育の心理学」では17年の試験内容に関連した事項を中心に子どもの発達や心理学の基本について整理した。 第1章保育の心理学11-44頁
これだけ覚える！保育士重要項目18年度版	共著	2017年12月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の9科目から必ず覚えていくべき重要項目についてまとめたものである。担当した「保育の心理学」では発達理論、子ども理解、生活や遊びを通じた学びの過程などを2018年の試験内容に関連した事項を中心にとりあげた。 第1章保育の心理学7-48頁
1回でわかる！保育士過去問題集18年度版	共著	2018年2月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)を解説したものである。担当した保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。
保育士一問一答問題集18年度版	共著	2018年12月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)の問題集として一問一答形式にまとめたものである。担当した「保育の心理学」では2018年の試験内容に関連した事項を中心に子どもの発達や心理学の基本について整理した。 第1章保育の心理学11-44頁
これだけ覚える！保育士重要項目19年度版	共著	2019年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
1回でわかる！保育士過去問題集19年度版	共著	2019年3月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)を解説したものである。担当した保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。
保育士一問一答問題集19年度版	共著	2019年12月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
これだけ覚える！保育士重要項目20年度版	共著	2020年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
1回でわかる！保育士過去問題集20年度版	共著	2020年3月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)を解説したものである。担当した保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。
保育士一問一答問題集20年度版	共著	2020年12月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
これだけ覚える！保育士重要項目21年度版	共著	2021年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
1回でわかる！保育士過去問題集21年度版	共著	2021年3月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)を解説したものである。担当した保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。

保育士一問一答問題集21年度版	共著	2021年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
これだけ覚える！保育士重要項目22年度版	共著	2022年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
1回でわかる！保育士過去問題集22年度版	共著	2022年3月	成美堂出版	保育士試験(筆記試験)を解説したものである。担当した保育の心理学ではキーワードをあげ、事例を出して解説した。
保育士一問一答問題集22年度版	共著	2022年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
保育士試験完全予想模試 '22年版	共著	2022年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
保育士一問一答問題集23年度版	共著	2022年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
これだけ覚える！保育士重要項目23年度版	共著	2022年3月	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
保育士試験完全予想模試 '23年版	共著	202/3/1	成美堂出版	第1章保育の心理学担当執筆
(講演等)				
韓国の留学生政策の展開と日韓の私立大学	単独	2011年 11月	第50回公開研究会(於 日本私立大学協会)	めまぐるしく変化する世界情勢のなかで東アジアの地域的な結びつきは、大学教育の世界でも著しく強まってきた。特に、日本の大学と中国・韓国の大学との関係は、留学生や教員の受け入れ・送り出しの双方の関係として、今後ますます緊密になっていくと考えられる。韓国の留学生政策及び個別大学の取組みを紹介し、日本の私立大学に対しての示唆を示した。
韓国の医学教育におけるメディカルスクール導入について	共同	2016年 12月	大阪大学大学院医学系研究科医療経済・経営学寄付講座 東京研究会	韓国におけるメディカルスクールは国際競争力のある医師を養成するために米国式の形態を取り入れたものである。韓国の医師養成課程における3類型(MS型/MC型/並行型)別の効率性について、包絡線分析(DEA)を用いて明らかにした。その結果MC型のほうが効率性のよい教育研究を推進していることが分かったが、全国的にMS型に戻る流れとなっていることなどの現状の分析と、日本への示唆を示した。長島万里子・長島弥史郎。
新学習指導要領における小学校1年生の学習内容からみた幼小接続について	単独	2019年 8月	川崎市幼稚園協会主催幼稚園免許状更新講習	平成29年3月、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂され、令和2年には小学校学習指導要領も全面実施になった。就学前の教育・保育機関が一元化されつつあると同時になめらかな幼児教育(保育所・幼稚園・認定こども園)と初等教育(小学校)への接続が目指されている。講習講師として政策・制度、小1プロブレム、スタートカリキュラム・アプローチカリキュラムなどの用語の説明、実際の小学1年生の生活の様子の紹介などを行った。

新学習指導要領における小学校1年生の学習内容からみた保幼小接続について	単独	2019年 9月、 11月	一般社団法人 キッズライフラボ 主催保育士キャ リアアップ研修	平成29年3月、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領が改訂され、令和2年には小学校学習指導要領も全面実施になった。就学前の教育・保育機関が一元化されつつあると同時になめらかな幼児教育(保育所・幼稚園・認定こども園)と初等教育(小学校)への接続が目指されている。講習講師として政策・制度、小1プロブレム、スタートカリキュラム・アプローチャカリキュラムなどの用語の説明、実際の小学1年生の生活の様子を紹介などを行った。
短期大学における保育者養成の特徴と課題 一四年制大学との比較一	単独	2020年 2月	短期大学コンソー シアム九州 FD/SD研修会及 び九州私立短期 大学協会幼児教 育・保育研究会	東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター(Cedep)が実施した「保育者養成に関するアンケート」の調査結果を分析し、短期大学における保育者養成の特徴、短期大学における保育者養成の課題について四年制大学と比較し検討した。今後の短期大学における保育者養成の教育内容、方法について議論する際に活用しうるデータを報告した。
保育者養成系高等教育の現状と課題	単独	2020年 10月	創価大学教育学 部FD研究会	世界的に就学前教育・保育の重要性が認知され、保育者(幼稚園教諭・保育士)養成の在り方が注目されるなか、日本における保育者養成系高等教育機関の歴史、現状と課題を整理し報告した。

教育研究業績書

2023年5月1日
氏名 岡本 かおり

著書・学術論文などの名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概要
(著書)				
乳幼児のための心理学	共著	2009年3月	保育出版社 (216ページ)	乳幼児の発達を支える環境として地域社会の影響を取り上げた。従来の地域で支える子育ては減少し、子ども同士の交流も減少している。また、地域の教育力の低下、子育て支援機能の低下が指摘されている。地域の子育て支援機能の低下を解決するための有効な支援方策として、地域住民参加型の子育て支援組織、ファミリー・サポート・センター事業の事例を示した。(第8章 乳幼児の発達を支える環境、第3節 発達と地域社会、p108-111)(小林芳郎8編)、小林芳郎・岡本かおり、他45名分担執筆)
やさしく学ぶ発達心理学-出逢いと別れの心理学-	共著	2011年3月	ナカニシヤ出版 (229ページ)	レヴィンソンやハヴィガースト、E.H エリクソンらの発達段階と発達課題を取り上げ、中年期における発達の基礎的概要を記した。また、特に中年期にみられる変化(①身体的変化、②家族における変化、③職業における変化)を紹介し、中年期に起こる心身の変化と激動する社会に対応しうるアイデンティティの再構築が必要となる現代の中年期について記した。(第7章 中年期の発達、第1節 見つめ直す人生、p167-177)(浜崎隆司・田村隆宏(編)、岡本かおり、他12名分担執筆)
やさしく学ぶ発達心理学 第2版	共著	2020年4月	ナカニシヤ出版 (185ページ)	ジェームズ・J・ヘックマンやOECDによる報告を主に取り上げて、社会情動的スキルの基礎的概要を記した。また、コラムでは、子どもの心と繋がる関わりについて、信頼関係の概念を用いて記した。(Ⅱ部1章 社会情動的発達、コラム3 子どもの心と繋がる関わりとは?、p21-29)(浜崎隆司・田村隆宏・湯地宏樹 編者、浜崎隆司・田村隆宏・湯地宏樹、岡本かおり、他11名分担執筆)
新・子ども理解と援助-その理論と方法-	共著	2021年9月	教育情報出版 (168ページ)	「パーテン」による理論を用いて子どもの遊びの特徴、「自己制御」による理論を用いて友達との関わりでみられる子どもの特徴について紹介した。さらに、信頼できる仲間や「協同性」を育む集団づくりにおいて保育者による援助の視点を概説した。(第4章 子ども相互の関わりと、関係づくり-「自分の世界」から「友だちとの世界」へ、pp43-52)(入江慶太(編)、入江慶太・大塚紫乃・前田和代・岡本かおり、他9名分担執筆)

子どもと社会の未来を拓くー保育内容ー健康	共著	2022年3月	青路社 (204ページ)	健康における心の側面について、「社会情動的スキル」や「愛着」、「情緒の安定」、「信頼関係」、「古典的条件付け」、「道具的条件付け」を紹介し、概説した。(第3章 3 心の発達、pp39-46)(高橋弥生・臼井達矢(編)、高橋弥生・臼井達矢・石濱加奈子・岡本かおり・山本明美、他14名分担執筆)
保育士過去問題集' 14年版	共著	2014年3月	成美堂出版 (216ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)」を担当。(p50-53、101-102、124-125、180-181、同問題集' 13年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分担執筆
保育士重要項目' 14年版	共著	2014年3月	成美堂出版 (304ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p295-302、同問題集' 13年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分担執筆
保育士一問一答問題集' 14年版	共著	2014年3月	成美堂出版 (336ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p320-333、同問題集' 13年版の一部加筆修正を含む) 岡本かおり、他10名分担執筆
保育士過去問題集' 15年版	共著	2015年1月	成美堂出版 (185ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)」を担当。(p50-52、102-105、152-154、同問題集' 14年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分担執筆
保育士重要項目' 15年版	共著	2015年1月	成美堂出版 (304ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p295-302、同問題集' 14年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分担執筆
保育士一問一答問題集' 15年版	共著	2015年3月	成美堂出版 (336ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p320-333、同問題集' 14年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分担執筆
保育士科目別問題集' 15年版	共著	2015年3月	成美堂出版 (190ページ)	保育実習理論(p147-190、〈解答・解説編〉21-26)の「保育所保育指針・その他法令等」を担当。(同問題集' 14年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他5名分担執筆
保育士入門テキスト' 16年版	共著	2015年12月	成美堂出版 (223ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p192-195、216-219) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分担執筆

保育士重要項目'16年版	共著	2015年12月	成美堂出版 (304ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p295-302、同問題集'15年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士一問一答問題集'16年版	共著	2016年1月	成美堂出版 (336ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p320-333、同問題集'15年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士過去問題集'16年版	共著	2016年1月	成美堂出版 (160ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)」を担当。 (p48-50、100-103、152-155、同問題集'15年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士科目別問題集'16年版	共著	2016年2月	成美堂出版 (190ページ)	保育実習理論(p144-190、解答・解説編p22-27の内「保育所保育指針・その他法令等」を担当。(同問題集'15年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他5名分 担執筆
保育士入門テキスト'17年版	共著	2016年11月	成美堂出版 (223ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p192-195、216-219、同問題集'16年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士重要項目'17年版	共著	2016年12月	成美堂出版 (304ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p295-302、同問題集'16年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士一問一答問題集'17年版	共著	2017年1月	成美堂出版 (336ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p320-333、同問題集'16年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士過去問題集'17年版	共著	2017年2月	成美堂出版 (209ページ)	解答・解説編の「保育原理」「保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)」を担当。(p7-12、49-52、59-64、97-106、148-157、201-203、同問題集'16年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
保育士試験完全予想模試'17年版	共著	2017年2月	成美堂出版 (100ページ)	「保育原理(第1回p14-31、第2回p14-28、〈解答・解説〉第1回p10-15、第2回p60-64)」を担当。(同問題集'16年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆

保育士試験問題集 ' 17年版	共著	2017年3月	成美堂出版 (262ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p244-245、252-253、256-262、同問題集' 16年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士入門テキスト' 18年版	共著	2017年12月	成美堂出版 (223ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p192-195、216-219、同問題集' 17年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士重要項目 ' 18年版	共著	2017年12月	成美堂出版 (304ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p295-302、同問題集' 17年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士一問一答問題集 ' 18年版	共著	2017年12月	成美堂出版 (336ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p320-333、同問題集' 17年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
本試験型保育士問題集 ' 18年版	共著	2017年12月	成美堂出版 (262ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p256-262、同問題集' 17年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
保育士過去問題集 ' 18年版	共著	2018年3月	成美堂出版 (209ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)」を担当。 (p48-52、100-102、151-154、199-202、同問題集' 17年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士入門テキスト' 19年版	共著	2018年12月	成美堂出版 (223ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p192-195、216-219、同問題集' 18年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士合格テキスト下巻' 19年版	共著	2018年12月	成美堂出版 (384ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p266-285、同問題集' 18年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他6名分 担執筆
保育士重要項目 ' 19年版	共著	2018年12月	成美堂出版 (320ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p279、311-318、同問題集' 18年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆

保育士一問一答問題集 ' 19年版	共著	2018年12月	成美堂出版 (336ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p320-333、同問題集'18年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
本試験型保育士問題集 ' 19年版	共著	2018年12月	成美堂出版 (262ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p256-262、同問題集'18年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
保育士過去問題集 ' 19年版	共著	2019年3月	成美堂出版 (209ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針等)」を担当。(p46-48、95-98、148-150、199-200、同問題集'18年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
保育士入門テキスト' 20年版	共著	2019年11月	成美堂出版 (224ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p192-195、216-219、同問題集'19年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士合格テキスト下巻' 20年版	共著	2019年12月	成美堂出版 (384ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p266-285、同問題集'19年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他6名分 担執筆
保育士重要項目 ' 20年版	共著	2019年12月	成美堂出版 (320ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p279、311-318、同問題集'19年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士一問一答問題集 ' 20年版	共著	2019年12月	成美堂出版 (336ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p320-333、同問題集'19年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
本試験型保育士問題集 ' 20年版	共著	2019年12月	成美堂出版 (264ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p256-262、同問題集'19年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
保育士過去問題集 ' 20年版	共著	2020年3月	成美堂出版 (209ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針等)」を担当(p49-50、99-100、147-148、195-198、同問題集'19年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士入門テキスト' 21年版	共著	2020年9月	成美堂出版 (224ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p192-195、216-219、同問題集'20年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆

保育士合格テキスト下巻' 21年版	共著	2020年9月	成美堂出版 (384ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p266-285、同問題集' 20年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他6名分 担執筆
保育士重要項目 ' 21年版	共著	2020年10月	成美堂出版 (320ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p279、311-318、同問題集' 20年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士一問一答問題集 ' 21年版	共著	2020年10月	成美堂出版 (336ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p320-333、同問題集' 20年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
本試験型保育士問題集 ' 21年版	共著	2020年10月	成美堂出版 (264ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p256-262、同問題集' 20年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士過去問題集 ' 21年版	共著	2021年2月	成美堂出版 (209ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針等)」を担当(p46-48、97-98、147-148、194-196、同問題集' 20年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士入門テキスト' 22年版	共著	2021年9月	成美堂出版 (224ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p192-195、216-219、同問題集' 21年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士合格テキスト下巻' 22年版	共著	2021年9月	成美堂出版 (384ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p266-285、同問題集' 21年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他6名分 担執筆
保育士重要項目 ' 22年版	共著	2021年10月	成美堂出版 (320ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p279、311-318、同問題集' 21年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士一問一答問題集 ' 22年版	共著	2021年10月	成美堂出版 (336ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p320-333、同問題集' 21年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
本試験型保育士問題集 ' 22年版	共著	2021年10月	成美堂出版 (264ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p256-262、同問題集' 21年版の一部加筆修正を含む)・保育原理を担当(p38-68、同問題集' 21年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆

保育士過去問題集 ' 22年版	共著	2021年10月	成美堂出版 (209ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針等)」を担当(p49-51、98-100、149-150、199-200、同問題集' 21年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他7名分 担執筆
保育士入門テキスト' 23年版	共著	2022年9月	成美堂出版 (224ページ)	「保育実習理論・指針等、言語」を担当。(p192-195、216-222、同問題集' 22年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士合格テキスト下巻' 23年版	共著	2022年9月	成美堂出版 (384ページ)	「保育実習理論・保育所保育指針等」を担当。(p266-285、同問題集' 22年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他6名分 担執筆
保育士重要項目 ' 23年版	共著	2022年10月	成美堂出版 (320ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当。(p279、311-318、同問題集' 22年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他10名分 担執筆
保育士一問一答問題集 ' 23年版	共著	2022年10月	成美堂出版 (352ページ)	保育実習理論(保育所保育指針等)を担当(p336-349、同問題集' 22年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
本試験型保育士問題集 ' 23年版	共著	2022年10月	成美堂出版 (264ページ)	保育実習理論(保育所保育指針・その他法令等)を担当(p256-262、同問題集' 22年版の一部加筆修正を含む)・保育原理を担当(p38-68、同問題集' 22年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他8名分 担執筆
保育士過去問題集 ' 23年版	共著	2022年9月	成美堂出版 (209ページ)	解答・解説編の「保育実習理論(保育所保育指針等)」を担当(p47-49、100-102、151-153、200-202、同問題集' 22年版の一部加筆修正を含む) 近喰晴子 監修、岡本かおり、他9名分 担執筆
(記事)				
子どもとの信頼関係	単著	2016年4月	日本海新聞	「子どもの周辺」記事執筆
外発的動機づけから内発的動機づけへ	単著	2016年12月	日本海新聞	「子どもの周辺」記事執筆
子どもの反抗期	単著	2017年10月	日本海新聞	「子どもの周辺」記事執筆
新しい環境	単著	2018年3月	日本海新聞	「子どもの周辺」記事執筆
子育てに「これでよい」という感覚を	単著	2018年12月	日本海新聞	「子どもの周辺」記事執筆

子どもの自己決定	単著	2019年5月	日本海新聞	「子どもの周辺」記事執筆
心地よい距離感	単著	2020年1月	日本海新聞	「子どもの周辺」記事執筆
心を育む	単著	2020年5月	日本海新聞	「子どもの周辺」記事執筆
子育てに「時々」という感覚を	単著	2020年12月	日本海新聞	「子どもの周辺」記事執筆
「助けて」と言えるように	単著	2021年5月	日本海新聞	「子どもの周辺」記事執筆
子どもの話を聞く先生	単著	2021年9月	日本海新聞	「子どもの周辺」記事執筆
善いことは言葉にして伝える	単著	2022年1月	日本海新聞	「子どもの周辺」記事執筆
「何をやっても無駄」思わせないために	単著	2022年8月	日本海新聞	「子どもの周辺」記事執筆
ありがたいの気持ち	単著	2023年3月	日本海新聞	「子どもの周辺」記事執筆
(論文)				
保育実習が保育士志望および保育者効力感に及ぼす影響	共著	2008年5月	旭川荘研究年報 第39巻第1号 (7ページ)	保育士養成校の学生を対象とし、保育実習前後の希望職種の違いに注目して、実習における経験が学生の希望職種に影響を与えるかを検討した。さらに、保育実習前後の保育者効力感を査定し、実習前後で変化がみられるかを検討した。結果、少数ながら保育実習が卒業後の自分の進路に影響していることが示唆された。また、希望職種内容にかかわらず、保育実習によって保育学生の保育者効力感が高くなることが明らかにされた。(岡本かおり・浜崎隆司・加藤孝士・寺蘭さおり、共同研究につき抽出不可、『はじめに』『結果と考察』『今後の課題』に当たる部分を中心に担当)
英語学習における親子交流型レクリエーションの効果	単著	2009年3月	旭川荘研究年報 第40巻第1号 (4ページ)	親子がふれあいながら英語を使ったレクリエーションを楽しむことで、「親子のコミュニケーション」、「英語に対する考え方や捉え方」、「自分や子どもに対する発見」に影響がみられることを検討した。親子が参加できるレクリエーションの効果は、親子のふれあいできる機会の提供だけでなく、親の子どもに対する気づきの機会ともなっていることが明らかにされた。

保育学生の幼児・学童期における遊び体験に関する調査研究	共著	2010年3月	洗足論叢第39号 (10ページ)	学生自身の幼児期・学童期の遊びの体験について、種目による経験の差が見られ、遊びを体験できる環境が整っていることの重要性が指摘された。子どもたちが園生活において様々な遊びを体験し、遊びの中で体を十分に動かし楽しむことができるには、保育学生自身が遊びを体験し、子どもたちに伝承できること、性差を超えて様々な遊びに関わり、子どもたちの興味・関心を高められる指導力と環境を構成する力の必要性が示唆される。実践的な学びによる保育実践力を授業で培うことの必要性も窺えた。(神蔵幸子・長島万里子・岡本かおり、共同研究につき抽出不可、『結果および考察』に当たる部分を中心に担当)
相互援助型子育て支援参加者の意識変化に関する研究—ファミリー・サポート・センターにおける活動を通して—	単著	2011年4月	応用教育心理学研究 第28巻第1号 (13ページ)	本研究では、地域住民による相互援助システム、ファミリー・サポート・センターの参加者141名を対象に、参加前と参加後の意識の変化を質問紙調査法によって検討した。また、参加者は、子育て支援を依頼する依頼会員、依頼を受ける提供会員、依頼と提供の両方を兼ねる両方会員の3つの会員形態に分類されるため、会員形態による参加者意識の違いについても調査した。結果、会員として活動することによって、「自己充実感や満足感」、「子どもや子育てに対する意識」、「地域や地域の人に対する意識」が高まることになった。会員形態別にみると、3つの要因において、提供会員の意識の一部が依頼会員に比べて高いことが示された。以上の結果から、地域住民参加の相互援助型子育て支援は、家庭・地域のコミュニケーションや教育力を促進することが示唆された。
保育者の資質とは—養成課程の学生がもつイメージ—	共著	2012年2月	洗足論叢 第40号 (12ページ)	本調査は、将来保育者を目指す学生にとって、保育者になるために必要と思うことはなんであるかを問い、学生自身の視点から、保育者の適性や役割をどのように考えているかを理解することを目的とした。また卒業直前の学生と、入学直後の学生の考えや意見を比較することで、2年間の養成課程における自覚や意識の相違とその理由についても考察し、保育者養成校のプログラムやカリキュラムの検討に役立てることとした。結果、卒業前の2年生の学生は、入学直後の1年生の学生と比較して、保育者に求められていることに対してより具体的で、現実に則したイメージを持っていることが示された。しかしながら、保育者の細かい役割や責任については、まだ理解が浅く漠然とした意見も多くみられた。(橘川佳奈、金子真由子、岡本かおり、共同研究につき本人担当部分抽出不可、『はじめに』『調査結果と考察』に当たる部分を中心に担当)。

英語学習場面における親子参加型レクリエーションの効果-親子のコミュニケーションに注目して-	単著	2012年9月	応用教育心理学 研究 第29巻第1号 (8ページ)	英語を取り入れた親子交流型レクリエーションに参加した保護者41名の参加する前と後の意識変化を調査した。結果、親子ともども英語に親しみを持ち、子どもの英語学習意欲や英語に対する関心が高まることが明らかになった。さらに、普段の親子の会話に、英語を取り入れる姿もみられた。また、英語に対する意識のみでなく、親の子ども理解が深まることが示された(本研究は日本レクリエーション協会からの助成金による調査研究である)。
女子短期大学生の友人間における信頼感について	単著	2013年3月	洗足論叢 第41号 (8ページ)	女子短期大学生を対象に信頼できる友人の有無を尋ね、青年期女子における友人間における信頼感についての尺度開発を試みた。結果、24の質問項目から、「相互理解」因子、「絆の感覚」因子、「価値観の共有」因子の3因子が抽出された。この3因子と吉岡(2002:13-30)の「自己開示・信頼」因子との間に有意な正の相関がみられ、本研究の3因子についての妥当性が認められた。
学生の保育教材研究能力の育成—保育内容・健康におけるお手玉を題材とした授業実践—	共著	2013年3月	洗足論叢 第41号 (11ページ)	幼稚園・保育所の子どもの遊びを想定したお手玉作りと遊びの実践による教材研究を実施した。調査の結果、授業で保育教材の実践的な学びを取り入れることが、子どもの発達や保育目標に沿った保育教材を考え作り出す力、遊びを創造する力を高めることが示唆された。また、「幼児の運動能力に沿って、遊びを考えているかを大切にしたい」「1つの教材で1つの遊びしかできないことはほとんどない」といった回答がみられるように、子どもの運動能力を考慮し、1つの教材から様々な活動を展開できる保育実践力を育む可能性が指摘できる。(長島万里子・岡本かおり・神蔵幸子、共同研究につき抽出不可、『結果』『考察』に当たる部分を中心に担当)
保育者のとらえる子どもとの信頼感	単著	2015年3月	学習開発研究第8号 (10ページ)	保育者の視点から子どもとの信頼感をどのように捉えているかに着目し、保育のあり方について検討した。幼稚園教諭10名と保育士10名へのインタビューを分析した結果、子どもの言葉や行為に変化がみられることを保育者が実感していることがわかった。また、保育者は信頼関係を築くために、子どもに対して「受容・共感」しながら子どもへの多様な関わりを試みていることがわかった。さらに、この関わり背景には、子どもや子どもの可能性を信じて全てを受け止める保育者の姿勢が窺え、このような保育のあり方は日本の特徴であることが示唆された。

<p>保育者養成校初学者における子ども理解 -詩的表現の試み-</p>	<p>共著</p>	<p>2018年3月</p>	<p>洗足論叢第46号 (12ページ)</p>	<p>保育者養成校初学者を対象に、幼稚園半日体験での振り返りの保育記録を詩的表現という形式で実施することを試みた。結果、子どもの内面やその状況をよりよく表すことを見出すことができた。詩的表現による文章表現が、子どもを全体的存在として理解することを可能にすることが窺えた。保育者の保育実践力として重要な要素である子ども理解が、詩的に表現することで学び得ることを考察した。(金充貞・岡本かおり・桃枝智子・柳井郁子、共同研究につき抽出不可、『はじめに』に当たる部分を中心に担当)</p>
<p>保育者の子どもとの信頼関係構築に関する意識の検討-信頼関係構築のための子どもとの関わり方、及び信頼関係構築を意識させる状況や子どもの姿の検証-</p>	<p>単著</p>	<p>2018年9月</p>	<p>応用教育心理学研究 第35巻第1号 (12ページ)</p>	<p>保育者と子どもの信頼関係について、保育者自身の意識に着目し、保育者の行為や、信頼感を実感している時の子どもの姿を通して検討した。「保育者の子どもへの関わり行動尺度」を用いて検討した結果、「親和的関わり」因子と「把握的関わり」因子の2つの因子による子どもへの関わりが行われていた。「親和的関わり」は、多くの保育者が実践している関わりである一方、子どもの内面を理解して関わる「把握的関わり」については、保育所の初任者の得点が低いことが明らかになった。そして、過半数以上の保育者は、保育者に関わろうとする子どもの姿によって、保育者に対する子どもからの信頼感を実感していることが明らかにされた。</p>
<p>親子の信頼感尺度作成の試み—青年期の子が信頼する親のイメージ—</p>	<p>共著</p>	<p>2020年3月</p>	<p>家庭教育研究 25号 (14ページ)</p>	<p>青年期の子の親に対する信頼感を一体的に測れる尺度(親子の信頼感尺度)を作成して信頼性と妥当性を検証した上で、尺度の構成概念の検討より、信頼できる親のイメージを見出した。結果、青年期の子の信頼できる親のイメージとして「子どもとしての自分を理解して受け入れ尊重し、自身が向上心を持ちつつ確固たる信念をもって生きている、尊敬に値する」人物を見出した。そして、親子関係の再構築を目指した尺度の活用について提言した。(吉田美奈・浜崎隆司・岡本かおり)</p>
<p>信頼関係構築による保育の質の変化- 保育者が捉える子ども・保育者・保護者の姿 -</p>	<p>単著</p>	<p>2021年8月</p>	<p>応用教育心理学研究 第38巻第1号</p>	<p>幼稚園教諭と保育士を対象にインタビューを行った結果、特に、「情緒的安定-自己表出態度」の言及が多く、子どもの心の安定と自分を出せることを関連付けて捉えていた。また、保育者の変化における【自己充実感】、【向上的実践態度】に関する言及が多かった。保育者自身の内面や保育実践において肯定的な影響をもたらす子どもとの信頼関係構築は、保育の専門性を高める上で重要な保育者の実感になりうることが示唆された。</p>

(学会発表)				
相互援助型子育て支援参加者に関する研究-ファミリー・サポート・センターにおける活動を通して-	共	2006年3月	日本発達心理学会 第18回大会	相互援助型子育て支援組織、ファミリー・サポート・センター会員を対象に、参加者の活動前後による意識変化を明らかにした。結果、すべての会員形態(依頼会員・提供会員・両方会員)において、「地域との関係」、「自己充実感」、「子ども観」に対する意識の向上がみられたが、「子育て観」に関しては、自らが子育てを行い他人の育児の援助を行う両方会員にのみ意識の向上がみられることが明らかにされた。
保育実習が保育士志望および保育者効力感に及ぼす影響	共	2007年11月	第25回 旭川荘医療福祉学会	保育士養成校の学生を対象とし、保育実習前後の希望職種の違いに注目して、実習における経験が学生の希望職種に影響を与えるかを検討した。さらに、保育実習前後の保育者効力感を査定し、実習前後で変化がみられるかを検討した。結果、少数ながら保育実習が卒業後の自分の進路に影響していることが示唆された。また、希望職種内容にかかわらず、保育実習によって保育学生の保育者効力感が高くなることが明らかにされた。
英語学習における親子交流レクリエーションの効果	単	2008年11月	第26回 旭川荘医療福祉学会	親子がふれあいながら英語を使ったレクリエーションを楽しむことによる参加者の意識変化について検討した。結果、親子で参加することに意味があり、レクリエーションが、親子のふれあう機会を提供するだけでなく、親の子どもに対する気づきの機会ともなっていることが明らかにされた。
保育者効力観に影響する要因に関する研究-保育専攻学生を対象とした縦断的検討-	共	2010年9月	日本保育士養成協議会 第49回研究大会	保育専攻学生1年生144名と2年生135名を対象に保育者効力感の変動を縦断的に検討した。結果、1年次では自信や自信喪失経験による保育者効力感の変動がみられるが、2年次では、たとえ自信を得る経験が少なくても、これまでの試行錯誤を繰り返して力をつけてきた自分を思い出し、保育者効力感に対して客観的な評価ができるようになることが示唆された。
養育者の子育て目標志向性と育児行動に関する原因帰属との関連性(1)	共	2010年9月	日本心理学会 第74回大会	養育者の目標志向性、及び原因帰属の尺度を作成することを目的として1歳半・3歳児検診に参加した保護者や保育所・幼稚園の保護者310人を対象にアンケート調査を行った。目標志向性尺度について因子分析(主因子法・プロマックス回転)を行った結果、遂行接近目標志向性「遂行回避目標志向性」「学習目標志向性」の3因子が抽出された。次に、失敗場面および成功場面の原因帰属尺度構造が従来想定した構造であるのかを確証的因子分析を用いて検討した結果、本研究で使用した尺度は、当初の予定通りの構造をしていることが示された。

<p>養育者の子育て目標志向性と育児行動に関する原因帰属との関連性(2)</p>	<p>共</p>	<p>2010年9月</p>	<p>日本心理学会 第74回大会</p>	<p>親子間における信頼関係尺度を作成し、その信頼性と妥当性を検討することを目的とした。結果、抽出された7因子の内、「見守られ」因子、「相談相手」因子。「自己受容」因子、「親役割」因子「親の向上心」因子「親の支援」因子の6因子と落合ら(1996)の「信頼承認」、「困難時の支援」との間に有意な正の相関がみられた。本研究の「親の感情抑制」因子と「信頼承認」、「困難時の支援」との間に有意な負の相関がみられた。また、「親の感情抑制」は逆転項目であり、負の相関が有意であることから、親が理性的な態度であるほど「信頼承認」「困難時の支援」の尺度と高い正の相関があることを意味している。結果より、本尺度が十分な妥当性を備えていることが示された。</p>
<p>親子のコミュニケーションに及ぼすレクリエーションの効果 - 英語学習場面を用いて -</p>	<p>共</p>	<p>2011年5月</p>	<p>日本保育学会 第64回大会</p>	<p>英語を取り入れた親子交流型レクリエーションに参加した保護者の参加する前と後の意識変化に着目した。結果、親子ともども英語に親しみをもち学習意欲や英語に対する関心が高まることが明らかになった。さらに、親子の交流場面においても英語を取り入れたいという意識は高まり、実際に普段の親子の会話で英語が取り入れられていることがわかった。また、親子で参加するレクリエーションは、親が子どもの個性や特徴を知る機会となり、子ども理解が深まることが示された。 (本研究は日本レクリエーション協会からの助成金による調査研究である)</p>
<p>保育専攻学生における自信獲得・喪失経験に関する縦断的検討</p>	<p>共</p>	<p>2011年5月</p>	<p>日本保育学会 第64回大会</p>	<p>保育者養成校において様々な体験をしながらも、学生自身が自らの感覚に基づいて意味づけた自信獲得/喪失経験が、どのように相互作用しながら保育者効力感の変動に影響するのかについて、いくつかのパターンを抽出し、縦断的に検討することを目的とした。自信喪失経験の変容を背景要因として、自信獲得経験の推移パターンの類型化を行なった結果、「人気過大評価」「他者評価依存」「人気を支え」の3タイプに分類された。記述内容では、控え目な自己評価が具体的な保育者としての技術に関する内容へと、多く見られるようになることから、指導のあり方によっては少しの自信を糧にした学生の主体的な成長を促す「適度な」保育者効力感を形成できる可能性について示唆された。</p>

教師への信頼感形成に関する研究	単	2011年11月	日本応用教育心理学会 第26回研究大会	幼稚園・保育所、小学校、中学校、高校の各ステージにおける幼児・児童・生徒の視点から信頼できる教師とはどのような関わりを持つ教師なのかを具体的体験の自由回想に基づき明らかにした。結果、各ステージにいくらかの特性がみられた。例えば、保育所・幼稚園時代では、「遊ぶ」「接する」などのスキンシップ的コミュニケーションが信頼をもたらす要因であるのに対して、小学校以後は、「聞く」「相談にのる」「言う」などの言語的コミュニケーションが教師への信頼の要因と変化していくことが示された。
親子の信頼関係尺度に関する予備的研究	共	2011年11月	日本応用教育心理学会 第26回研究大会	親子間における信頼関係尺度を作成し、その信頼性と妥当性を検討することを目的とした。結果、抽出された7因子の内、「見守られ」因子、「相談相手」因子、「自己受容」因子、「親役割」因子「親の向上心」因子「親の支援」因子の6因子と落合ら(1996)の「信頼承認」、「困難時の支援」との間に有意な正の相関がみられた。本研究の「親の感情抑制」因子と「信頼承認」、「困難時の支援」との間に有意な負の相関がみられた。また、「親の感情抑制」の項目は逆転項目であり、負の相関が有意であるということは、親が感情を抑え理性的な態度であればあるほど「信頼承認」「困難時の支援」の尺度と高い正の相関があることを意味している。以上の結果は、予想される結果であり本尺度は十分な妥当性を備えていることが示された。
保育学生の伝承遊び体験①-伝承遊びの有無とお手玉体験-	共	2012年5月	日本保育学会 第65回大会	保育者養成校での保育内容の授業における教材研究として、保育教材「お手玉」に注目し、製作を含めた「お手玉体験」を設定した。参加学生の自由記述から、授業におけるお手玉体験の効果について検討した結果、お手玉経験はあるものの、多くの保育学生は、お手玉に対して「昔のもの」といった印象を抱いており、お手玉を用いた様々な遊びの案を持っていないことが明らかになった。保育学生による子ども時代の経験値のみではなく、保育者養成校での遊び体験も必要であることが示唆された。
保育学生の伝承遊び体験②-お手玉授業の効果-	共	2012年5月	日本保育学会 第65回大会	本研究での目的、伝承遊び「お手玉」の授業（全3回）を通じた学生の意識変化を検証した結果、保育学生が養成校の授業を通してお手玉に対する好感度や親しみやすさを向上させ苦手意識を減少させたことが明らかになった。養成校において保育内容・健康の授業をすすめる上で、「伝承遊びを実際に行っている映像の視聴」や「学生が自身で、伝承遊びに使用する道具を製作すること」「体験すること」を積極的に取り入れることで、より効果的で実りある教育が行われることの可能性が示唆された。

<p>保育内容・健康におけるお手玉を題材とした実践的授業の効果—学生の保育教材としてのお手玉に対する意識変化—</p>	<p>共</p>	<p>2013年3月</p>	<p>日本幼少児健康 教育学会 第31回大会</p>	<p>幼児の体力・運動能力の向上に効果的な遊びが様々あることを理解する機会を設けるため、日本の伝承遊びの1つであるお手玉を保育内容・健康の授業で取り上げ、そこでの学生の意識変化について調査した。質問紙から、実践的授業によって学生のお手玉に対する意識が「難しいもの」から「簡単・身近なもの」へと変化し、お手玉の魅力や遊びの幅の広さにも気付いていくことが明らかにされた。また、学生がお手玉を「幼児にも扱いやすいもの」として捉えなおしたこと、お手玉の大きさ、重さ、中に入れる素材を変化させることで、運動発達段階を意識した遊びを工夫できることに気付いていくことが示唆された。</p>
<p>幼児の保育者に対する信頼感に関する研究</p>	<p>共</p>	<p>2013年5月</p>	<p>日本保育学会 第66回大会</p>	<p>保育経験者58名を対象に質問紙調査法を用いて、子どもが保育者を信頼することについて、どのようにとらえているのかを調査した。結果、57名の保育者が子どもから信頼された実感をもっており、0歳から6歳の全ての年齢の子どもと信頼関係を築いた実感をもっていることが明らかにされた。また、信頼されるために多くの保育者が、「一緒に子どもと遊ぶ」「真剣に子どもの話を聞く」「子どもの気持ちに寄り添い、受け止める」ことを実践していることが示された。受け止める、発信するという両方の行為から真摯に子どもと向き合い、子どもから信頼を得る実感をもつことが示唆された。</p>
<p>Examination of Feeling of Trust Toward Children for ECEC Teachers</p>	<p>共</p>	<p>2014年8月</p>	<p>The15th Conference of the Pacific Early Childhood Education Reserch Association</p>	<p>This study examined how feeling of trust toward children is expressed by ECEC teachers through interview method. We carried out the interview investigation using the semi-structured method for 20 female ECEC teachers who had more than ten years of childcare career. They consisted of two groups: One is ten public kindergarten teachers and the other ten public nursery school teachers. We examined the characteristic feeling that they got when they were able to be confident to have trust feeling between a child and themselves. We found several differences between these two groups.</p>

校外授業を通じた保育内容の総合的理解	共	2015年5月	日本保育学会 第68回大会	2年制の保育者養成校で保育内容の授業担当者による実践報告で、保育内容はそれぞれの領域の「ねらい」をもちながら、領域別に指導されるものではなく、遊びを通して総合的に展開されるものであることを学生が理解できることを目的とした2年間の取り組みである。校外授業により、1つの活動には、保育内容の観点が複合的に含まれていることを体験的に理解するきっかけとすることができたように捉えられた。また、保育の実践を想定し、実際の素材を共有しながらの学習は、具体的な学びとして学生の意欲を引き出し、より深く、また広く学習成果を生み出すことを提示した。
保育者のとらえる子どもからの信頼感を築く行動-子どもの年齢と保育経験による比較-	共	2015年8月	日本学校心理士会 2015年度大会	保育者の視点をもとに信頼感をとらえ、保育者に尋ねることにより、信頼関係を築くために保育者がどのような子どもへの関わりをしているのか、保育者の意識を明らかにした。また、子どもの年齢や保育歴によって信頼関係を築くための関わり方に対する意識の違いはあるのかについて着目した。結果、3歳以上の子どもにおいて、表面的な関わりである「外的接近」よりも、子どもの心に寄り添い内面まで理解して関わろうとする「内的接近」に対する保育者の意識が高いことが明らかにされた。熟年保育者は若年保育者よりも子どもに関わる意識が高いことが明らかにされた。
保育者のとらえる子どもとの信頼感-子どもと保育の変化-	単	2015年12月	日本応用教育心理学会 第30回研究大会	保育者が子どもと信頼関係を築くことにより、どのような変化があるのかを明らかにした。結果、子どもの変化におけるカテゴリー「心」と「獲得」が出現し、信頼関係によって築かれた子どもの心の状態と何かができるようになるという獲得が関連していることがわかった。また、保育の変化におけるキーワード「保育者」「子ども」「保育実践」「保護者」「全体」は、保育者の肯定的感情を示すものであった。子どもとの信頼関係をもとにした保育を展開できるということが、保育職に対する肯定感に繋がり、仕事を続けられる要因となることが示唆された。
保育者のとらえる子どもとの信頼感-幼稚園教諭の保育歴による比較-	共	2016年5月	日本保育学会 第69回大会	子どもとの信頼感を保育者の視点でとらえ、保育者が感じている信頼感をみる。保育者の語りからみられる「気付き」に着目し、保育者の意識を明らかにすると共に保育歴による比較検討を行った。保育者の気付きの多くは、自分自身を振り返った反省や新たな見方を獲得するもので、これが信頼関係を築くための子どもへの多様な関わりを可能にすることを示唆した。また、経験は保育者にとっての確信した学びとなり(経験年数が関与する)、子どもと信頼関係を築けた感覚が保育者としての自信や喜びに繋がることを示唆した。さらに、困った時に、的確な助言をもらい学べる環境は保育者としての専門的な見方をもって成長することを可能にすることを指摘した。

<p>子どもとの信頼感-出会いから数年後の子どもの姿-</p>	<p>単</p>	<p>2016年11月</p>	<p>日本応用教育心理学会 第31回研究大会</p>	<p>幼稚園教諭と小学校教諭の55名を対象に、子どもとの出会いから数年後に現れる子どもとの信頼感に関して語られたインタビューの結果をまとめた。一部の教師・保育者は、担任を離れた後に子どもとの接触があり、そこから長期に渡る信頼感の可能性を感じる場合もあることが示唆された。保育/教育としての日々の実践が、すぐに結果として実感できない場合もあることがわかった。しかし、数年後に、教師/保育者の前で現す子どもの姿は、当時の教師・保育者の存在が子どもの心に確かに残っていることを示す。教師・保育者の日々の姿から、子どもが確かに感じとっているものがあることが窺えた。</p>
<p>児童文化教材作成と指導案立案をつなぐ授業展開の課題-「保育内容・言葉」の授業における学生の意識調査から-</p>	<p>共</p>	<p>2016年11月</p>	<p>日本乳幼児教育学会 第26回大会</p>	<p>「保育内容・言葉」の授業において、児童文化教材作成と指導案立案を行い、学生の意識調査を実施した。結果、教材の作成過程において子どもへの意識が高まっているにも関わらず、教材の出来不出来など技術的な側面や「言葉」という科目としての課題によってせっかく持っていた子どもへの思いが繋がらないことが課題としてあげられた。子どもに伝えたいことを教材に具現化しながら、それを随時、指導案に反映させていくことで、指導案のねらいや内容につながりやすい過程を設定できることが考えられた。また、教材を作りながら保育手順を指導案に書き込んでいくことにより、子どもへの意識や教材の持つ楽しさへの意識、さらに具体的な立案への意識が高まることが期待された。</p>
<p>保育者がとらえる子どもとの信頼感-保育歴による子どもの姿-</p>	<p>単</p>	<p>2016年12月</p>	<p>日本学校心理士会 2016年度大会</p>	<p>保育者が感じる信頼関係を築けた子どもの姿について、保育歴による比較検討を行った。結果、全ての保育者は、以前とは異なる子どもの言葉や態度から信頼関係を築けたことを感じていることが窺えた。特に、想いや考えを保育者に伝える子どもの姿は明確な子どもの変化としてとらえられていることが明らかにされた。一方、保育者からの子どものへの働きかけに対して応答的に関わる子どもの姿については、若年保育者よりも熟年保育者の方が意識が高いことが明らかにされた。熟年保育者は、自身の関わりからみられる子どもの姿についても、より敏感にとらえていることが示唆された。</p>
<p>保育者がとらえる子どもとの信頼感-保育士における検討-</p>	<p>共</p>	<p>2017年5月</p>	<p>日本保育学会 第70回大会</p>	<p>保育士が感じている信頼感を子どもの姿から明らかにした結果、子どもの年齢により異なる姿がみられることが明らかにされた。主に0歳から4歳では、信頼関係を築く前の子どもの姿について、「泣く/保育者を拒否する」子どもの態度が多く見られ、5歳-6歳では友達関係や活動における子どもの態度に関する内容が多かった。3歳以上児では、自分で出来ることが増える一方で自分の思いの全ては通らないことその他、友達や家庭のことも関係して子どもの内面がより複雑に現れた姿であることが窺えた。</p>

Trust Relationships Between Elementary Students and Teachers	単	2018年7月	40th International School Psychology Association Conference 'Promoting Resilience for Children Toward Life-long Happiness'	This study is going to catch a feeling of trust between elementary students and teachers. It shows how a elementary school teacher feels trust. I carried out the interview investigation using the semi structured interview for 40 female elementary school teachers who had experience in first grade elementary school studies and examined the characteristics of the situation when elementary school teachers gained confidence with their children.
親子の信頼関係尺度作成の試みー青年期の子が信頼する親のイメージ	共	2019年8月	日本家庭教育学会 第34回大会	青年期の子の親に対する信頼感を測る尺度（親子の信頼感尺度）を作成して信頼性と妥当性を検証し、尺度の構成概念の検討より、信頼できる親のイメージを見出した。結果、信頼性および妥当性は、おおむね許容範囲であることが示された。また、青年期の子にとって信頼できる親とは、「子どもとしての自分を理解して受け入れ尊重し、自身が向上心を持ちつつ確固たる信念をもって生きている、尊敬に値する」人物であると考えられた。
保育者を目指す学生の食習慣に関する意識にみる課題	共	2020年5月	日本保育学会 第73回大会	保育現場における協働が保護者の食習慣の意識改革につながる事例学習を行い、乳幼児期の望ましい食習慣の指導及び保護者支援につながる実践力を育てる授業展開のあり方について検討した。授業を通して、自身のありがたい保育者の姿や食育の知識や実践力の必要性をより現実的に感じ、さらには、食育に対する関心や疑問に繋がる学生たちの記述がみられ、今後の実践力に繋がると考えられる学生の学び続ける姿勢が見出された。
(社会・教育的活動)				
学校法人旭川荘 旭川荘療育アカデミー講師		2007年7月		
学校法人旭川荘 旭川荘療育アカデミー講師		2008年7月		
学校法人旭川荘 旭川荘療育アカデミー講師		2009年6月		
岡山市学童保育連絡協議会 講習会講師		2009年10月		
岡山市学童保育連絡協議会 講習会講師		2009年11月		
学校法人旭川荘 旭川荘療育アカデミー講師		2010年6月		
高校生(神奈川県住吉高等学校3年生)を対象とした保育模擬授業		2013年5月		
高校生(神奈川県立城郷高等学校2年生)を対象とした保育模擬授業		2013年11月		
高校生(神奈川県立百合ヶ丘高等学校2年生)を対象とした保育模擬授業		2013年12月		

高校生(神奈川県立住吉高等学2年生)を対象とした保育模擬授業	2014年1月		
高校生を対象とした保育体験授業(短大見学会)	2014年8月		
高校生を対象とした保育体験授業(短大見学会)	2015年8月		
高校生(神奈川県立住吉高等学2年生)を対象とした保育模擬授業	2015年11月		
高校生を対象とした保育体験授業(短大見学会)	2016年8月		
高校生(東京都立若葉総合高校2年生)を対象とした保育模擬授業	2016年11月		
高校生(短大見学会来校生)を対象とした授業紹介	2017年7月		
高校生(短大見学会来校生)を対象とした授業紹介	2018年3月		
高校生(横浜清風高校1年生)を対象とした保育模擬授業	2019年1月		
高校生(神奈川県立荏田高等学校2年生)を対象とした保育模擬授業	2019年11月		
高校生(都立青梅総合高等学校2年生)を対象とした保育模擬授業	2020年9月		
高校生(神奈川県立金井高等学校1年生)を対象とした保育模擬授業	2021年12月		
高校生(神奈川県立生田東高校1年生)を対象とした保育模擬授業	2022年3月		
高校生(川崎市立幸高校2年生)を対象とした保育模擬授業	2022年6月		
高校生(横浜市立みなと総合高校3年生)を対象とした保育模擬授業	2022年9月		
高校生(都立多摩高校1年生)を対象とした保育模擬授業	2023年2月		

教育研究業績書

2023年5月1日

氏名 高橋 優子

著書・学術論文などの名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概要
(著書)				
これからの時代の保育者養成・実習ガイド—学生・養成校・実習園がともに学ぶ	共著	2020年12月	中央法規出版	教育実習・保育実習(保育所)(施設)の3つの実習の内容が網羅されたテキストである。その中の第2章「オリエンテーション」、第5章「部分実習・責任実習」について担当した。(p36,37,120,121,128)
新訂 演習「保育内容総論」	共著	2019年4月	建帛社	保育内容総論のテキストであり、保育内容を領域ごとから捉えて章構成を行うのではなく、遊びや子どもの生活、行事等の視点から実態に即した形で学ぶ内容となっている。その中の第8章「幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育料における保育内容の捉え方」を担当した。具体的には、幼児期の終わりまでに育てたい10の姿及びに、乳児保育の3つの視点、5領域について解説した。(pp72～81)
演習「保育内容 人間関係」	共著	2019年4月	建帛社	第1章「現代の乳幼児を取り巻く人間関係」について、「親子やきょうだい、地域における人間関係の変化」として家族や地域社会の変化に伴う子どもの人間関係の変化について解説するとともに、「現代の乳幼児を取り巻く人間関係の特徴と課題」について、貧困や虐待、情報化社会等を取り上げ、解説した。(pp1～16)
やさしい乳児保育	共著	2019年3月	青踏社	第8章「保育の計画」において、乳児保育における計画の意味や重要性についてまとめ、乳児保育における計画について解説を行った。
生活事例から始める保育原理	共著	2019年3月	青踏社	第3章「子ども観・保育観」における日本の保育の歴史に関する点をまとめた。特に「日本の保育の発展を支えた人物」の東基吉、和田實について説明を行った。(pp35～39)
5『Workで学ぶ保育原理』	共著	2015年3月	わかば社 (142ページ)	保育原理のテキストであり、保育士としてより良い実践を考える力を養うために、テキストには論述式ワークを設け、学生が主体的に学ぶことができるよう工夫を行っている。「Ⅲ保育実践の基本と課題から学ぶ」と題する章の「Unit7様々な保育内容とその方法」を執筆している。3つの保育実践を例に挙げ、それぞれの保育現場で何を大切にしているかによって保育内容とその方法が違うことを解説した。(pp.51～58) 佐伯一弥、金瑛珠、鈴木彬子、高橋優子
(科学研究費助成事業)				
保育の質をもたらす組織の質及び自律型組織の成長モデルに関する研究 基盤研究(C)	研究分担者	2021年採択 (2021年度～ 2023年度)	日本学術振興会	保育の質を実現する「園組織の質」に焦点を当て、保育現場の組織の質を可視化し、園組織の質を示す指標をモデル化することを目指す。(井上真理子、坂田哲人、松井剛太、田澤里喜、松山洋平、高橋優子、伊藤路香)

保育者の成長プロセスに応じた専門性向上の機会のあり方に関する研究 基盤研究(C)	研究分担者	2020年採択 (2020年度～ 2022年度)	日本学術振興会	保育者の成長だけでなく、その園における保育者の成長モデルについて着目し、保育者の成長に影響を与える経験や組織的要因を分析し、組織の中で保育者の専門性が向上するプロセスのモデル化を目指す。(坂田哲人、井上真理子、高橋優子)
保育者の成長志向性と組織要因との関連における保育者の成長モデルの構築に関する研究 基盤研究(C)	研究分担者	2016年採択 2019年度	日本学術振興会	保育者の成長だけでなく、その園における保育者の成長モデルについて着目し、保育者の成長に影響を与える経験や組織的要因を保育者の語りから分析し、明らかにする。(坂田哲人、井上真理子、高橋優子)
(論文)				
研究ノート「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育む授業の検討-「実習日誌」及び「保育者ための文章表現授業」アンケートからの分析-(査読付き)	共著	2021年2月	洗足論叢 第49号 p.81-95	保育者養成校、短期大学1年生における「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育むための効果的な授業方法や内容を検討することを目的として、学生にアンケート調査を行った。その結果、学生の実習日誌記述に対する困難感の把握や保育記述力を高める授業内容・方法への一定の示唆を得ることができた。井上真理子、向笠京子、長島万里子、高橋優子、伊藤路香、上田よう子(共同研究により抽出不可、主に調査結果について担当した)(pp:81～95)
「保育内容総論」における実践的な学びのプロセス-学内施設の子どもたちを招く「夏祭り」の遊び場づくりを通して-	単著	平成30年3月	東京家政大学 研究紀要 第58集(1) (9ページ)	「保育内容総論」の実践的な授業において、どのように学びを獲得したのか、学生へのインタビューから明らかにすると共に「保育内容総論」における実践的な学びの意義について考察を行った。その結果、実践的な学びは保育内容の総合性を体験する場になると共に、学生が主体的に学ぶ意欲を育む契機となっていたことが明らかになった。しかし、保育内容の総合性の体験の自覚化に至るには更なる授業内容の工夫等の課題が示唆された。(pp.51～59)
実践の場における保育理念の共有～A園の保育者の語りを手掛かりとして～	単著	2016年6月	保育の実践と研究 21(1)(10ページ)	保育現場において保育者間で保育理念を共有することは、保育の質の向上のためにも重要なことである。しかし、実際の現場で保育理念を共有し保育実践を行うことは容易なことではない。そこで、そこでA園の保育者のインタビューを基に保育実践の場で何をきっかけとして、保育理念の共有が行われているのか検討を行った。結果、園内研修などの話し合いの場だけではなく、実践の場においても保育者がお互いの保育実践を見合ったり、共に実践することをきっかけとして保育理念が共有されることを明らかにした。(pp.54～63)
保育理念の共有のプロセス～保育者の語りを手がかりとして～(修士論文)	単著	2015年3月	東京家政大学大学院 人間生活学総合研究科 家政学修士号請求論文 (117ページ)	保育現場において園の保育理念を共有することの重要性は明らかだが、実際には困難な現状がある。保育理念の共有化のプロセスは、個々の保育者が保育理念に対する理解を深めるプロセス、更にそれを共有するプロセスの2つの視点から検討が可能であるが、本論文では個々の保育者が保育理念に対する理解を深めるプロセスから保育理念の共有化について明らかにした。

(報告書)				
園の保育理念に基づく保育実践の創造の特徴	共著	2017年7月	東京家政大学 生活科学研究所研究報告 第40集 (2ページ)	保育者が園の保育理念をどのように理解し、保育実践を創造しているのか保育者、園長、主任保育士のインタビューをもとに検討を行った。その結果、保育理念に基づく保育実践を創造する保育者は、保育理念と具体的な子どものエピソードをつなげて語ることを通して保育理念の理解が深まり、園長や主任保育士とも理念と実践の往復的な語りを基に共有していることが明らかとなった。一方で、保育理念の理解と保育実践の間にある困難さとして振り返りが十分でない、保育理念と保育実践をつなげた語りに至らないなど課題が示唆された。(pp: 79~80) 戸田雅美、高橋優子
「保育実習(保育所)事後指導」報告	共著	2010年3月	千葉明德短期大学 研究紀要 第30号 (15ページ)	本報告では、保育所実習の巡回指導を担当した学生で構成されたグループで行なった二日間の保育実習(保育所)の事後指導における学生の様子を報告した。筆者らが担当したグループで特筆すべきは、本学の専任教員と本学学生支援アシスタントと共同で学生の実習事後指導に当たったことであり、本報告では保育実習の事後指導におけるそれぞれの異なった視点からの報告という形を取りながら議論を進め、学生の学びの姿を検証している。(pp.36~40) 小久保圭一郎、高橋優子
授業アシスタントから見た「現代社会論」(2) ~授業連携によって創り出された新たな授業~	単著	2009年3月	千葉明德短期大学 研究紀要 第29号 (15ページ)	平成20年(2008年)発行の「授業アシスタントから見た現代社会論」の続編である。一般教養科目である「現代社会論」の授業内容の報告をうと共に、教員の連携に着目して、9コース、9名の専門性が異なる教員が1つの方向性に向かい、緩やかに連携を取り合いながら、発展的な授業運営を可能にしている要因を明らかにした。(pp.73~87)
授業アシスタントから見た「現代社会論」 ~授業連携によって創り出された新たな授業~	単著	2008年3月	千葉明德短期大学 研究紀要 第28号 (11ページ)	「現代社会論」は教養基礎科目の一つであり、複数のコース(各論)を設けている。ゼミ形式で学ぶばかりではなく、学年全体による学び(総論)も取り入れ、発展的な授業展開を試みている。その授業内容を紹介すると共に、コース(各論)がバラバラに存在するのではなく、相互に関連し合っていること、学生もその関連性を感じ取っていることを学生のコメントから明らかにした。(pp.65~75)
学生理解に関する私の思考に関する一考察 ~2004年度保育者論に携わって~	単著	2006年11月	千葉明德短期大学 研究紀要 第26号 (16ページ)	「保育者論」の授業における授業内容(教員の意図)と学生の理解のズレに着目し、授業アシスタントという教員でもなく学生でもない立場である筆者の視点から、教員の授業の意図と学生の授業内容に対する理解のズレがなぜ起こったのかについて明らかにした。更にはその学生を見る筆者自身の理解の枠組みについても述べた。(pp.85~100)

(学会発表:口頭発表)				
保育理念の理解のプロセスⅢ ～新任保育者の語りから2～	単独	2018年5月	日本保育学会 第71回大会	本研究の目的は、新任としてA園に勤務したI保育者が7年間の経験を経てどのように園の保育理念を理解し、実践に埋め込んでいったのかについて検討を行い、その過程について明らかにした。
保育理念の理解のプロセスⅠ ～新任保育者の語りから～	単独	2016年5月	日本保育学会 第69回大会	本研究の目的は、新任のB保育者がどのように園の保育理念を理解し、実践しようとしているのかを明らかにすることである。B保育者はA園の保育理念に共感していたにも関わらず、保育を実践しようとする際に葛藤が生じた。B保育者は、同僚に話を聞き、葛藤を抱えつつも、保育行為を変化させたことで、新たな子どもの姿に出会い、実感が伴い保育理念の理解が深まったと考えられる。つまり、保育理念の理解は、言葉上の理解にとどまらず、同僚の話や子どもの姿など保育実践を通して行われることが明らかとなった
(学会発表:ポスター発表)				
就学前施設と養成校の協同による保育者養成	共同	2021年3月	日本保育者養成教育学会 第5回研究大会	養成の初期段階に保育現場を見学し、保育環境に込められた保育者の意図や配慮に気づくことをねらいとして実施していた見学実習が、2020年度は感染症の流行により、現場を訪問することができなかった。現場の実際の保育環境を伝える方法として、幼稚園園長の協力のもと、幼稚園と養成校の協同によるオンラインでの見学実習を行った。本研究では、そのオンラインによる見学実習の学生への効果と、就学前施設と養成校の協同による新たな授業展開の可能性について検討した。
保育者の人材育成・確保に影響を与える組織要因の分析	共同	2019年5月	日本保育学会 第72回大会	「保育所等におけるキャリアアップと人材育成に関する調査」の全国調査のデータをもとに、保育現場の人材育成および人材確保の実態がどのように変容しているのか、組織要因との関連、管理職のマネジメントの実態が与える影響について分析を行った。結果、働き続けるには、園の方針の一貫性と自己の保育観の一致がその大きな要因となっていることが示唆された。井上真理子、坂田哲人、今井豊彦、高橋優子
保育士の専門性向上をもたらす『学びの機会』の捉え方・あり方にかんする研究	共同	2019年5月	日本保育学会 第72回大会	「保育所等におけるキャリアアップと人材育成に関する調査」の全国調査のデータをもとに、保育者の専門性向上について、園内で保育者がどのような機会を得て、効果をどのように認識しているのか明らかにし、本来的に求められる専門性向上の取り組みについて考察を行った。保育者の経験年数に応じて変化する専門性開発の機会を、それぞれの求めに合わせて提供していくことが、必要であることが示唆された。坂田哲人、井上真理子、今井豊彦、高橋優子

保育理念の理解のプロセスⅡ ～他園経験者の語りから～	単独	2017年5月	日本保育学会 第70回大会	本研究では、他園を経験し、A園に転職したJ保育者がどのようなプロセスを経て園の保育理念を理解し、保育を実践しようとしているのかを明らかにした。園の考え方に共感して入職したものの、実践する際に葛藤を抱えたJ保育者は、同僚の保育実践に巻き込まれることで、予想とは異なる子どもの姿に出会い、保育理念の理解を深め、結果的に保育行為も変化した。つまり、保育理念の理解は、前勤務園での経験が影響を与えること、話し合いだけではなく、同僚の保育行為に巻き込まれる等実践を通して行われることが明らかとなった。
短大における新たな保育者養成システムの可能性(2)	共同	2016年5月	日本保育学会 第69回大会	本研究では、養成期間が短い短期大学が、より専門性の高い保育者を養成するために試みた「研修性制度」の取り組みについて、報告及びに今後のあり方や課題について考察を行った。研修生制度は、卒業後保育現場に勤務する卒業生が月に2回集まり、事例検討をベースとしたディスカッション、他園への見学の他、1年間の終了時には、個々の学びをレポートにまとめる。1年目は成果を残したが、2年目以降、エピソード記述が書けない等の課題が生じた。その課題をどう解決するか、検討を行った。由田新、金瑛珠、片川智子、高橋優子
(その他教育研究活動など)				
子ども・子育て支援推進調査研究事業(厚生労働省) 保育士のあり方に関する研究 研究報告書部分執筆、研究協力	共同	2016年3月	一般社団法人 全国保育士養成協議会 (276ページ)	保育士資格取得の2つの方法、すなわち指定保育士養成施設において取得する方法と、保育士試験に合格して取得する方法に関して多面的に比較検討を行うとともに、他の国家資格との共通性や相違点について検討を加え、今後の保育士養成課程及びに保育士試験の在り方を検討する素材を提供することを目的として行った調査研究に参加した。具体的には「保育試験実施方式及びに内容に関する検証」にて保育士養成校の学生の試験体験後のグループワークの分析、「教育原理」の試験内容に対する学生コメントの分析を行った。(pp.82～83)
(社会・教育的活動)				
認定子ども園 すこやか 園内研修	講師	2023年3月	社会福祉法人さがみ愛育会	保育教諭の資質・専門性の向上
埼玉県南部ブロック 保育実践研究協議会	講師	2023年1月	埼玉県私立幼稚園連合会	愛されて育つ子ども
世田谷区実践充実コーディネーター		2022年4月～	世田谷区	園の自己評価の取り組みを支持的・共同的な姿勢で支援する
川崎市幸区 保育ボランティア研修	講師	2021年10月	川崎市幸区役所	子どもの発達を知り子どもに合った保育を学ぶ
こどもの園プラムハウス 園内研修	講師	2018年度～	社会福祉法人 上尾芙蓉会	0-2歳児の保育実践の質の向上
千葉市子育て支援員研修事業【現任研修】	講師	2021年2月	千葉市	「地域とつながりながら子どもが育つ」
保育士等キャリアアップ研修 「幼児教育」	講師	2019年10.11月 2020年1月	HITOWAキッズライフ 株式会社	「幼児の発達に応じた保育内容」 「幼児教育の意義」

教育研究業績書

2023年5月1日

氏名 伊藤 路香

著書・学術論文などの名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概要
(著書)				
1. 学生・養成校・実習園がともに学ぶ これからの時代の保育者養成・実習ガイド	分担執筆	2020年12月	中央法規出版株式会社	大豆生田啓友・渋谷行成・鈴木美枝子・田澤里樹編著 第5章 部分実習・責任実習(P.133～135)
2. 「保育場面にみる友だちとのつきあい方」とその発達	共著	2012年12月	『子育て支援のニュースレター』	3、4、5歳児の友だちとのかかわりに焦点を当てた事例について、保育者の子ども理解の視点と共に、臨床心理士の子どもの発達を踏まえた考察を加えた内容を掲載した。(pp:7～8)
3. 幼児期、そして思春期の子どもたち—小中学生保育体験プログラム	単著	2011年1月	『保育界』 第437号	保育を修了した子どもとその家族のアフターフォローとして実施していた「小中高生保育体験プログラム」の意義を明らかにした。思春期に差し掛かった子どもの子育てに関しては、悩みを抱える親が多い。その子どもの幼少期を知っている保育者が、思春期に改めてかかわる機会を持つことは、多感な思春期の子ども自身が改めて自己肯定をする契機となることを実例を交えて紹介した。思春期の子どもの子育てに悩む親を支える上の意義を考察している。(pp:24～25)
(監修)				
1. 子どもは想像力のかたまり！～見立て遊び・なりきり遊び	共同	2012年11月	『こどもの城ニュース』	3、4、5歳児の保育において、子どもたちの見立て遊びやなりきり遊びの実例をもとに、子どもの遊びが広がる環境設定の紹介や援助方法のあり方について取材に応じ、監修した。
(論文・研究ノート)				
1. 模擬保育から得た学びと幼稚園教育実習から得た学びの関係性(1)—保育者役の学生に焦点を当てて—	共著	2023年2月	星美学園短期大学研究 論叢第55号 実践研究	保育者役として模擬保育を実施した学生4名に模擬保育と実習から得た学びを調査し、その特徴や関連性を明らかにした。その結果、学びの関連性として、模擬保育で得た学びを(1)実習全体に繋げている、(2)責任実習を行うクラスでは思うように繋がられない、(3)主活動やその他の部分実習を展開していくことのみに関係しているという3つのパターンが明らかになった。さらに、模擬保育から得た学びは、実習においては課題として意識され、実習後は実習での学びとして位置付けられていることから、模擬保育から得た学びと実習から得た学びの視点が一貫していると考察した。(大井美緒・伊藤路香)(pp:83～93)

2. 保育学生の主活動における導入に関する意識調査	共著	2021年2月	星美学園短期大学研究 論叢第53号 研究ノート	保育学生が主活動の「導入」をどのようにイメージし、その重要性を捉えているかを調査し、保育者養成校において「導入」の指導法を検討した。調査結果から、保育学生は「導入」の設定において(1)モチーフの一致を第一に考える、(2)「スムーズ」に行えそうなものを選択する、(3)「導入＝○○」という固定したイメージがあることが明らかになった。保育学生は「導入」の意味や重要性は理解していたが、イメージした「導入」の内容との一致は不十分であった。子ども主体の保育の実現のためには、実習における主活動の「導入」の重要性を踏まえ、実習園と保育者養成校との十分な連携を図っていくことが課題である。(大井美緒・伊藤路香)(pp:16～40)
3. 「保育者としての視点」につながる豊かな保育記述力を育む授業の検討—「実習日誌」及び「保育者のための文章表現授業」アンケートからの分析—	共著	2021年2月	洗足論叢第49号 研究ノート	「保育者としての視点」につながる「保育記述力」に着目し、学生の実習日誌記述に関する困難感の把握と、「保育者のための文章表現授業」の効果を明らかにした。具体的には、1年次の「実習日誌」及び「保育者のための文章表現授業」アンケートを分析した。その結果、実習経験を重ねるにつれ困難感は軽減するのではなく、困難感の質が変化する可能性が伺われた。また、「保育者のための文章表現授業」の効果には、入学前の国語力、文章表現力はほぼ関連がなく、学校への満足度、保育者志望度が一部関連していた。より効果的な授業内容、方法としては、学生が困難感を抱いている内容について、より丁寧に触れ定着度を測っていくこと、1回目(幼稚園)と2回目(保育所)の実習そのものや記述における視点の違いをより丁寧に扱うと共に、実習を経験後の個別の課題や保育者志望度などに合わせた相談の場を設けるなどが考えられた。(井上真理子、向笠京子、長島万里子、高橋優子、伊藤路香、上田よう子)(pp:81～95)
4. 「特別な配慮が必要な子ども」が在籍する幼稚園における保育者の実践知—子ども同士の人間関係の構築にかかわるインタビューを通して(修士論文)	単著	2017年3月	東京家政大学大学院人 間生活学総合研究科家 政学修士号請求論文	保育者の語りを通して「特別な配慮を要する子ども」を含む子ども同士の人間関係構築についての実践知を探った。①特別な配慮を要する子どもの理解に基づく援助を行う ②保育者同士が連携して援助する ③特別な配慮を要する子どもを含む場合もそうでない場合も同様に、遊びの充実への援助を行っていくと、自然に子ども同士が互いを安心できる相手、一緒に楽しく遊べる相手と認識し繋がっていく ④特別な配慮を要する子どもに対しても、遊びの充実を目指す保育観は有効である 以上が実践知として示唆された。
5. 「特別な配慮が必要な子ども」の人間関係の構築に関わる保育者の援助—一人への愛着をもつA子の事例の分析を通して	単著	2016年12月	『保育の実践と研究』 21(3)	筆者自身が担任保育者として関わったインクルーシブな保育場面における「特別な配慮が必要な子ども」と他児の人間関係構築に関する実践研究。「フィギュアスケートごっこ」の事例から人との関わりに弱さがある「特別な配慮が必要な子ども」と他児との関係構築の過程と保育者の援助効果を分析検討した。保育者が衣装、音楽など環境を整えることで、「特別な配慮が必要な子ども」の遊びのイメージの世界に他児が位置づき、共に遊ぶ姿につながった。双方の協調点を見出し、双方が自己発揮ができる援助の必要性が示唆された。(pp:17～28)

(研究報告)				
1. 地域小学校と園児との交流の中で育ち合うもの	共著	2000年2月	社団法人 世田谷区私立幼稚園協会	幼稚園教諭として年長児を担当時に、2か年に渡り実施した幼小交流会の効果についてまとめ、実践報告を行った。主に、幼稚園年長児小学1年生が交流をするための内容を、小学校側と立案し実施した。具体的には、双方を訪問しての交流会(歌での歓迎、絵を用いた名詞交換、自由遊び等)を、計6回実施した。交流会を通して、双方の実態を知ることは、小学生にとっては自分の成長を感じる機会となり、幼児にとっては成長への憧れを持つことにつながった。さらに教諭にとっても双方の実態を理解できたことは、幼小のスムーズな移行を実現するための教育内容を再検討する上での一助になった。(pp:27~38)
(学会発表: 口頭発表、ポスター発表)				
1. つくってあそぶ活動内容を保育学生が体験する意義	共同	2022年5月	日本保育学会 第75回大会 口頭発表 (オンライン開催)	実際の一斉活動(製作活動)の場面を想定し、学生が指導案作成の前に、実際につくってあそぶ活動を体験する意義を明らかにした。その結果、(1)「子どもの姿」を多様に予想することに繋がる、(2)楽しさや面白さについて考えることは、活動の導入や具体的な材料の準備や環境の設定に繋がることを明らかにした。学生から子どもに活動の魅力が伝わるように、学生同士が意見を出し合い子どもの立場になって取り組むことは大変意義があった。この体験は、学生が行う責任実習や部分実習においても、子ども一人一人が期待感を持ちながら、主体的に活動に取り組むことができるような保育の構想、具体的な援助に近づいていくのではないかと考える。(伊藤路香・大井美緒)
2. 子どもの興味や期待が高まる導入に関するアクティブラーニングー保育学生が行う主活動の導入に焦点を当ててー	共同	2022年2月	第18回 日伊総合研究所研究会 (オンライン開催)	「保育・教育課程論」「教育課程論」を履修する学生126名を対象に、子どもの興味や期待感が高まる導入についてアクティブラーニングを通して、学生自身の気づきを促し、気づきの内容を明らかにした。具体的には、責任実習で主活動(製作)を行うことを想定し、その導入部分についてグループ発表を行い、学生が高く評価した導入の内容とアンケートの内容を分析した。その結果、「話し方や動きを工夫する」「視聴覚教材を準備し活用する」「子どもの反応を受け止めながら対応する」「展開を工夫する」ことが、子どもの興味や期待感が高まる導入に重要な視点であることが明らかになった。これらには「子どもにとって」という子ども主体の保育を実現していく上での視点が含まれていた。(大井美緒・伊藤路香)

3. 保育学生が考える主活動の導入の内容について—導入内容の動画を視聴することによる意識変化—	共同	2021年5月	日本保育学会 第74回大会 口頭発表 (オンライン開催)	保育学生が主活動の導入の動画を視聴することにより、導入の設定に関して意識変化があるか、さらにその変化の内容を明らかにすることで、今後実習生が考える保育計画に関する指導法を検討していく資料とした。その結果、導入に対する考え方に変化が見られたのは57.8%と半数を超えた。また意識の変化の具体的なものとしては、①様々なバリエーション、導入方法に気づく②子どもに合わせていくことが大切③導入＝○○という考えからの脱却④話し方、伝え方の工夫であった。これらの意識変化は、子どもにとってふさわしい導入の内容を考える際の選択の幅が広がっていくこと、目の前の子どもに目をむけ、子ども主体の保育を意識していくことに繋がっていくと考えられる。(伊藤路香・大井美緒)
4. 就学前施設と養成校の協同による保育者養成	共同	2021年3月	日本保育者養成教育学会 第5回研究大会 ポスター発表 (オンライン開催)	コロナ禍におけるオンライン(動画視聴と解説)による見学実習の学生への効果と、就学前施設と養成校の協同による新たな授業展開の可能性について検討した。具体的には、学生の提出課題から主に学生の気づきや感想に着目して考察した。その結果、「子どもの興味関心が生まれる工夫」「遊びに集中できる環境」「安全への配慮」等、多様な視点での読み取りが伺え、例年とほぼ同様の効果が得られた。さらに園長の解説が加わることで、「環境構成は遊びの発展に合わせて考えていく」等、子どもに合わせて環境を再構成するという保育者の重要な役割を学ぶことができた。学生の十分な学びのために、コロナ禍のような制限された環境の中でも、アイデアを出し合い、対話的に授業展開を検討したことが意味深い。(伊藤路香・井上真理子・上田よう子・高橋優子・田澤里喜)
5. 子ども同士の人間関係構築にかかわる保育者の実践知—「特別な配慮が必要な子ども」と他児との遊びの場面における保育者の援助の分析を通して	単独	2019年12月	日本乳幼児教育学会 第29回大会 口頭発表	多様な子どもが在籍する保育に熟達した4名の語りから、「特別な配慮が必要な子ども」と他児との遊び場面における具体的な援助に焦点をあて、子ども同士の人間関係の構築にかかわる保育者の実践知を明らかにした。その結果、保育者は自身が子どもの「仲間の一人」として直接かかわり、子ども一人一人の姿を丁寧に捉え、好きな遊びを中心に実践を組み立てていた。また、子ども同士の人間関係の構築を急いで「特別な配慮が必要な子ども」と他児とを一緒に遊ばせようとするのではなく、一人ひとりの遊びの充実に向けた援助に力点を置くという実践知が明らかになった。このような保育は、決まった保育内容に、子どもをはめ込むような考え方では実現できるものではない。
6. 「特別な配慮が必要な子ども」を含んだ保育における保育者の実践知	単独	2017年5月	日本保育学会 第70回大会 口頭発表	「特別な配慮が必要な子ども」を含んだ保育に豊富な経験をもつ保育者4名に具体的な場面を中心に語ってもらい、実践知の特徴を明らかにした。その結果、保育者に共通した実践知は次の通りである。①子どもの状態への視点をもつ、②連携してチームで保育にあたる、③遊びを中心とした保育実践を行う、④遊びを通した子ども同士の自然な繋がりを捉える、⑤援助の実際は遊びの充実を第一とする普段の保育観から生じている。さらにこれらは共に関連し合い、実践知を構成していたことが明らかになった。

7. 特別な配慮を要する子が友達の中に位置付く契機としての遊び—遊びの成立によって生まれた「互恵性」の存在とその意味	単独	2015年5月	日本保育学会 第68回大会 口頭発表	特別な配慮を要する子が、友達との遊びの成立を契機として、クラスの友達の中に位置付いていった事例の検討し、その意味を考察した。遊びの成立により2人の子どもの関係が繋がり、さらにクラスの間関係の構築まで波及していったのは、遊びの成立過程において子どもの間に「互恵性」が生まれたことが大きな要因となっていた。一般に他の子どもとの遊びの成立が難しいと言われる特別な配慮を要する子にも、保育者が遊びの成立にこだわって援助をすることが、人間関係の構築の貴重な一歩となり得ることが示唆された。
(保育者対象講習会講師)				
1. 東京都私立幼稚園新規採用教員研修会 保護者と築く心地よくあたたかい関係 一小さなことから始める保護者支援	単独	2022年7月	公益財団法人東京都私立幼稚園教育研修会	幼稚園が担うべき子育て支援・保護支援について、幼稚園教育要領に基づきながら確認すると共に、気になる保護者について考えたり、具体的な支援の内容と方法、支援しやすい関係を築き方など、日々の保育の中で行える支援について考える研修内容とした。
2. 東京都保育士等キャリアアップ研修 「幼児教育」 幼児教育の環境	単独	2022年6月～	社会福祉法人 聖光会	幼児教育の基本に基づき、実際の保育場面を想定して掘り下げる内容とした。環境を捉える視点として「温かなくつろぎの場」「生き生きと活動できる場」「定位置の安心感」「子ども目線で考える環境」を挙げ、自園の保育を再検討できるようにした。そして環境に主体的に関わることができるような子どもへの援助のあり方について考えた。さらに参加者同士のワークでは、他園の取り組みを共有する時間を取ると共に、人的環境としての保育者の協働を促進するワークを紹介し体験してもらった。
3. 世田谷区実践コーディネーター事業(パディ)	共同	2022年度～	世田谷区乳幼児教育支援センター	区内の教育・保育関係者が共有すべき方向性を示した「実践コンパス」を活用して各幼稚園・保育所等が自園の実践を振り返り、自己評価の取組みを進めていくことを支援していく事業。実践コーディネーターの補助的な役割であるパディとして参加している。
4. 園内研修 園職員一人一人がより一層活躍するための研修 一園のビジョンにつながる若手職員の取り組み一	共同	2021年8月 2021年10月 2022年3月	公益財団法人鉄道弘済会 与野本町駅前保育所 おひさま保育園	若手職員7名を対象に、全3回の研修を行った。若手ならではの感性を活かして「日常の保育の様子」を保護者に伝える動画制作に取り組んでもらうことで、園における若手職員の活躍の機会を提案した。この取り組みを通じて、普段じっくりと関わる機会の少ない若手職員同士の意見交換や対話の機会を促進するとともに、園全体での動画視聴会を開催することにより、園の職員全体で園のビジョンを共有することに繋がった。
5. 東京都保育士等キャリアアップ研修 「保護者支援・子育て支援」 保護者支援・子育て支援の意義／地域における子育て支援	単独	2020年度～	東京都公益財団法人 総合健康推進財団	保護者支援・子育て支援の基本的な考え方や概念を元に、自らの保育所の実践と繋げて意味づけして考え、実践できるだけでなく、ポイントを意識化、言語化できるようにした。方法としては、講義に加え、少人数でのワークを通じて、他園の実践からも学び、共有できるような研修を行った。

6. 川崎市幼稚園協会免許状更新講習「新学習指導要領における小学校1年生の学習内容からみた幼小接続について」	単独	2020年7月 2021年8月	公益財団法人 川崎市幼稚園協会	急激な社会変化(情報化、グローバル化加速、AIの進化、人口減少、少子高齢化、深刻な環境問題)に伴い、これからの社会に求められることを踏まえた上で、新学習指導要領の改訂ポイントを確認した。また、幼児期に育てたい資質能力の3つの柱や、幼児期の終わりまでに育てほしい姿を意識しながら、日々の幼稚園での実践を振り返り、少人数でのディスカッションを通して、幼小接続について考え、各園における今後の課題を発見できるような内容とした。
7. 子育て支援講習会「親子で遊べるあそびのメニュー」～家族をつなぐあそびのヒント3～	共同	2013年9月	公益財団法人 児童育成協会 こどもの城 保育研究開発部	保育者を対象とした子育て講習会の講師を務めた。職務において実施してきた親子交流行事の内容について、企画実施のポイントを解説し、実際に参加者に経験してもらうことを通じて、親子交流行事の企画実施に携わる保育者の気づきや学びとなるような内容とした。 【具体的な内容】 「仲間見つけ」「牛乳パック積み木」「タオルあそび」「ウォークラリー」「一人の作品からみんなの作品へ」など
8. 子育て支援講習会3「保育室で使えるあそびのメニュー」～楽しくあそべる造形のアアイデア3～	共同	2013年8月	公益財団法人 児童育成協会 こどもの城 保育研究開発部	保育者を対象とした子育て講習会の講師を務めた。「専門的プログラムを子どもの育ちに活かす～子どもの姿を大切に」と題し、造形事業部と共同で実施。造形の専門的なプログラムを保育に取り入れ、子どもの育ちに活かしていく事例を紹介した。具体的には、泥粘土を使った造形プログラム「道をつくろう」「ジャングル旅行」から保育における遠足や絵の具を使った感触あそび、さらに友達との遊びや関わりを捉えていった事例を紹介し、活動内容の立案の一助とするような内容とした。
9. 子育て支援講習会2「保育室使えるあそびのメニュー」～楽しくあそべる造形のアアイデア2	共同	2012年8月	公益財団法人 児童育成協会 こどもの城 保育研究開発部	保育者を対象とした子育て講習会の講師を務めた。「保育の中での展開について～子どもたちがより深く楽しむために」と題し、造形事業部と共同で実施。子どもの造形遊びのプログラムを一回のイベントとして実施するのではなく、保育の中での子どもの興味関心と連動した経験となるように、計画・実施した。具体的には、園外保育における芋ほりや木登りの体験と、根っこや木をテーマとした造形プログラムを連動させた活動の実践報告をし、子どもの遊びの経験をつないでいく活動内容の立案の視点について研修を行った。
10. 子育て支援講習会1「親子で遊べるあそびのメニュー」	共同	2011年9月	公益財団法人 児童育成協会 こどもの城 保育研究開発部	上記、1と同様。 【具体的な内容】 「コミュニケーションカード」「新聞紙で変身」など
(その他教育研究活動など)				
1. 模擬授業 「子どもの多様性、主体性を尊重する保育」 「年齢に即した絵本の選び方&読み聞かせ方」 社会人講話(職業講話): 保育士・幼稚園教諭 「子どもの世界をのぞいてみよう」など	単独	2019年7月～	都立深沢高等学校 県立幸高等学校 県立新羽高等学校 県立舞岡高等学校 都立足立西高等学校 県立川崎北高等学校 緑ヶ丘女子高等学校 県立市ヶ尾高等学校 県立座間総合高校 県立元石川高校	保育・幼児教育系への進学を検討する高校生を対象に実施。各校の高校生の興味関心に即したもので、これからの時代に求められる保育とは何かを重視しながら、実際の子どもの姿や保育実践をイメージしやすいように実施している。そのことにより、保育者の仕事の魅力が感じられる内容となるように心掛けている。

2. 東京都福祉サービス第三者評価	共同	2017年～	NPO法人 メイアイヘルプユウ	高齢者1件、子ども・ひとり親2件、障害者・ 児3件の評価を実施。メインの評価者の補 助評価者として活動をしている。
3. 子ども・子育て支援推進調査研究事業 (厚生労働省) 保育士のあり方に関する研究 研究協力	共同	2016年3月	一般社団法人 全国保育士養成協議会	保育士資格の取得の2つの方法(指定保育 士養成施設において必要な科目を履修し て卒業する方法と保育士試験に合格して取 得する方法)に関して、多面的に比較検討 を行うとともに、他の国家資格・国家試験と の共通性や相違点について検討を加え、 今後の保育士養成課程および保育士試験 のあり方を検討する素材を提供することを 目的として行った。 実際には、「保育士試験の実施方式及び内 容に関する検証」にて、保育士養成校の学 生に対して行った保育士試験体験後のグ ループワークの分析、事後アンケートの分 析を担当した。(pp:17～28)

教 育 研 究 業 績 書

2023年5月31日

氏名 加藤 翼

著書・学術論文などの名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概 要
(報告書)				
保育所における人材育成の実態に関する調査報告書	共著	2015年3月	社会福祉法人 日本保育協会	2013年以降、厚生労働省において保育士の人材確保や保育士の育成に関する取り組みが公開されたが、保育士の専門性の向上については、その体系、提供されている研修、あるいは園内(組織内)での育成システムなど、他の専門職に比して必ずしも十分に整えられてない現状がある。これらの問題の背景には、さまざまな要因となるものがあると想定されるが、一つの原因として、保育士の成長に関する全体的な議論の不足、そのことから育成体系が整備されていないことがあげられる。本研究においては、保育所における人材育成の実態、人材育成をどう考え、どのような取り組みが行われているか、保育の質の観点から明らかにし、基礎データを基に保育士の成長モデルを作り提示ことを目的して実施。 担当：第2章(p3-34)
(学会発表：ポスター発表)				
保育士の成長をもたらす学びのあり方に関する研究—園長・保育士の二者のマッチングデータの分析から—	共同	2023年5月	日本保育学会 第76回大会	全国調査「保育所等におけるキャリアアップと人材育成に関する調査」のデータをもとに、園外研修への園長の期待と経験年数別の保育者が実感する研修効果について分析を行った。ミドルリーダー層の実感が他経験区分よりも低い傾向にあり、キャリアの変革期と園内での役割の増大に、保育士等キャリアアップ研修の受講が重なることが一因であることが確認できた。当研修は開始から6年程度経ち、実態に関する調査が必要と考えられる。(加藤翼・井上真理子・坂田哲人)
(講演)				
世田谷区保育施設等開設前支援プログラム	講師	2022年度	世田谷区	科目「保育の質の向上・自己評価・マネジメント」の中で「保育所等における人材育成(園外研修)」を担当
世田谷区実践充実コーディネーター事業	講師 (パディ)	2022年度	世田谷区	世田谷区立下馬保育園を担当
(社会的活動等)				
社会福祉法人日本保育協会 研修企画委員会	オブザーバー	2022年度	社会福祉法人 日本保育協会	(1)保育現場の研修受講実態に関するアンケート (2)令和5年度の研修体系と研修内容 (3)その他

(その他教育研究活動など)				
保育所の組織的な要因との関連における保育者の成長・キャリア形成の現状と課題	研究協力	2018年	日本乳幼児教育学会 第28回大会(岡山)	全国調査のデータをもとに、保育士等キャリアアップ研修の実施が現場に与える影響について、分析を行った。保育士が園の中で成長、キャリア形成をしていくにあたり、組織的な影響要因を明らかにするとともに、組織マネジメントをつかさどる管理職の状況と職員のキャリア意識への影響を中心に分析を行った。(坂田哲人・井上真理子・今井豊彦)
成長段階と役割から見た保育士の専門性開発の現状と課題	研究協力	2014年	人材育成学会 第12回 年次大会(明治大学)	

教育研究業績書

2023年5月1日

氏名 尾根 秀樹

著書・学術論文などの名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概要
(論文)				
「保育における子どもの劇的表現活動観の歴史的変遷—鑑賞する演劇から劇あそびへの転換点に着目して—」	(単著)	2022年3月	東京家政大学博物館紀要	本稿の目的は、日本の劇的表現活動を検討し、現行の保育における劇あそびとの連続性に関して吟味することにある。日本の幼児・児童演劇における劇的表現の重要性を唱えた先駆者たちに着目し、関連する論文や著書等より文献研究を行なった。その結果、子どものための演劇がどのように生まれ、史的変遷の中で演劇教育がどのような変容を遂げ、今日の劇あそびの礎となったのかが明らかになった。「幼児教育法」の和田、「律動遊戯」の土川、「誘導保育案」の倉橋、「全人教育」の小原らによって、劇的表現活動の教育的価値が見出され、子ども主体の演劇が広がるとともに、「演劇」と「子ども」の関係性がより探求された。また、海外のドラマ教育を学び、日本の劇的表現活動の意義を明確に示した岡田によって、「劇あそび」の意義や構造が浮き彫りになった。レフェリー制有り。
「遊びを通しての総合的な指導」の検討(1)—劇あそびの起源に着目して—	(単著)	2023年3月	東京家政大学博物館紀要	平成10年改訂の幼稚園教育要領解説には、「遊びを通しての総合的な指導」が謳われた。「遊びを通しての総合的な指導」とは、子ども主体でありながら、保育者の関わりが不可欠であると読み取れる。平成20年および平成29年改訂の幼稚園教育要領解説にもこの文言があることから、この方向性はさらに強まったといえよう。そこで、保育者の関わりが不可欠であり、また、子ども主体で行われる「劇あそび」に着目した。劇あそびの名付け親とされる山村きよの保育思想と実践を分析することで、現代の幼児教育における劇あそびの可能性を考察した。本研究によって、劇あそびの成り立ちが明らかになったと同時に、「劇あそび」は「遊びを通しての総合的な指導」を包括する保育活動となり得る可能性を見出すことができた。レフェリー制有り。
(報告書)				
1 幼児教育年報 51	友松浩志 尾根秀樹	2014年	・公益社団法人東京都私学財団 ・公益社団法人東京都私立幼稚園教育研修会	p92-97,p135-140.(全220p)・大妻女子大学岡健先生による「保育の質を高める」という講義の記録 ・玉川大学准教授 田澤里喜先生による「新規採用研修会 1年間を振り返って」という講義の記録
2 幼児教育年報 52	友松浩志 尾根秀樹	2015年	・公益社団法人東京都私学財団 ・公益社団法人東京都私立幼稚園教育研修会	p10-12.(全256p)・数学者 ピーター・フランク先生による「人生を楽しむ方程式」という講義の記録

3 幼児教育年報 53	加藤篤彦 尾根秀樹	2016年	・公益社団法人東京都私学財団 ・公益社団法人東京都私立幼稚園教育研修会	p80-83,(全166p)・玉置美恵子先生による「幼児のケガへの対応～救急士処置と予防教育～」という講義の記録
(学会発表:口頭発表)				
1「保育現場における劇あそびの実践」	尾根秀樹	2019年5月	日本保育学会第72回大会 口頭発表	・劇あそびは多くの保育現場において実践されているが劇あそびの受け止めは実に多様であり園や保育者によって解釈はさまざまである。「劇あそび」の先駆者とされる山村きよに注目し、歴史的変遷を辿りながら、山村がなぜ劇あそびに注目し、また劇あそびの実践を積極的に行うまでに至ったのかを探究することで、現在の保育現場での劇あそびの意義や今後の必要性を明らかにする。
3「山村きよと倉橋惣三の繋がりから視えてくる『劇あそび』のはじまり」	尾根秀樹	2021年12月	日本乳幼児教育学会第31回大会 口頭発表(オンライン発表)	・「劇あそび」の名付け親とされる山村きよがなぜ保育活動として「劇あそび」を据え置き、また、山村が師事していた倉橋惣三の影響を受けて「劇あそび」の実践に至ったのではないかという問いを明らかにすることである。そして「劇あそび」と「倉橋の保育観」との相関を捉え、山村と倉橋が子どもたちに願った「劇あそび」の本来のねらいを考察していく。方法は、山村、倉橋に関連する文献研究を行うこととする。
(学会発表:ポスター発表)				
2「保育者の劇あそびに対する解釈に着目して」	尾根秀樹	2021年5月	日本保育学会第74回大会 ポスター発表(オンライン発表)	幼稚園教諭が保育活動としての「劇あそび」をどのように解釈しているのかを調査・分析し、導き出された結果を踏まえて、保育現場における劇あそびの解釈と取り組みについて検討することを目的とする。
4「現行の幼稚園教育要領から読み解く劇あそびの意義」	尾根秀樹	2022年5月	日本保育学会第75回大会 ポスター発表(オンライン発表)	・現行の幼稚園教育要領では、「劇あそび」とは明記されていない。では、なぜ保育現場で「劇あそび」の実践がされているのだろうか。保育要領から現行の幼稚園教育要領までを読み解くことによって「劇あそび」の意義を検討する。
(講演)				
第40回幼児の劇あそび夏季講習会 関西集会	橋本知子 尾根秀樹	2009年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ② 日常からの劇あそび
第41回幼児の劇あそび夏季講習会 関西集会	真田美智子 尾根秀樹	2010年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ① 日常保育からの劇あそび
第41回幼児の劇あそび夏季講習会 東京集会	西脇さやか 尾根秀樹	2010年8月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ② 1.2.3歳児の劇あそび
第42回幼児の劇あそび夏季講習会 関西集会	尾根秀樹	2011年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ① 絵本からの劇あそび～2.3歳児を中心に～
第42回幼児の劇あそび夏季講習会 東京集会	尾根秀樹	2011年8月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ① 絵本からの劇あそび～2.3歳児を中心に～

第43回幼児の劇あそび夏季講習会 東京集会	尾根秀樹	2012年8月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ④ 絵本からの劇あそび
第44回幼児の劇あそび夏季講習会 東京集会	尾根秀樹	2013年8月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ② 絵本からの劇あそび～2.3歳児を中心に～
第45回幼児の劇あそび夏季講習会 関西集会	尾根秀樹	2014年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ② 絵本からの劇あそび～2.3歳児を中心に～
第45回幼児の劇あそび夏季講習会 東京集会	尾根秀樹	2014年8月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ① 日常保育からの劇あそび(全体のコーディネーターを兼任)
第46回幼児の劇あそび夏季講習会 関西集会	尾根秀樹	2015年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ② 日常保育からの劇あそび(全体のコーディネーターを兼任)
第46回幼児の劇あそび夏季講習会 東京集会	尾根秀樹	2015年8月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ② 日常保育からの劇あそび(全体のコーディネーターを兼任)
第47回幼児の劇あそび夏季講習会 関西集会	尾根秀樹	2016年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ② 絵本からの劇あそび Bプロ
第47回幼児の劇あそび夏季講習会 東京集会	尾根秀樹	2016年8月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ② 絵本からの劇あそび Bプロ(全体のコーディネーターを兼任)
平成29年度青梅私立幼稚園協会第1回教員実技研修会	加藤早恵 尾根秀樹	2017年5月	青梅私立幼稚園協会	福島学園幼稚園にて開催 内容『劇あそび』
2017 沖縄 幼児・児童の劇あそび講習会	尾根秀樹	2017年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会 劇あそび勉強会	初めて沖縄での講習会開催となり、そのコーディネーター兼講師として講習会実施に携わった。「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ りっかりっか*フェスタ」提携事業
第48回幼児の劇あそび夏季講習会 東京集会	尾根秀樹	2017年8月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ③ 絵本からの劇あそび 3歳児(全体のコーディネーターを兼任)
葛飾区私立幼稚園研修会『日常保育からの劇あそび』	尾根秀樹	2017年12月	葛飾区私立幼稚園連合会	帝釈天ルンビニー幼稚園にて開催
2018 沖縄 幼児・児童の劇あそび講習会	尾根秀樹	2018年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会 劇あそび勉強会「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ りっかりっか*フェスタ」提携事業	コーディネーター兼講師「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ りっかりっか*フェスタ」提携事業
第49回幼児の劇あそび夏季講習会 関西集会	尾根秀樹	2018年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	全体会Ⅱ 劇あそび実践編サポート分科会 ④ 絵本からの劇あそび～4歳・5歳からの劇あそび～
第49回幼児の劇あそび夏季講習会 東京集会	尾根秀樹	2018年8月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	全体会Ⅱ 劇あそび実践編サポート分科会 ④ 絵本からの劇あそび～年長～
『劇あそびを通して保育を見つめる』	尾根秀樹	2018年8月	光が丘第四保育園 園内研修	園内研修として勤務する保育士対象に劇あそびについて講義と実践研修を行う。
『第2回 劇あそびを通して保育を見つめる』	尾根秀樹	2018年8月	光が丘第四保育園 園内研修	前回の研修を終え、どのようにクラスなどで行なったかなど話し合いの時間を多く持ち、園内での保育をする上で領域表現をどのように捉えているのか、検討し保育実践に生かしていく研修会。

2019 沖縄 幼児の劇あそび夏季講習会	尾根秀樹	2019年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会 劇あそび勉強会「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ りっかりっか*フェスタ」提携事業	「国際児童・青少年演劇フェスティバルおきなわ りっかりっか*フェスタ」提携事業
2019幼児の劇あそび夏季講習会 関西	尾根秀樹	2019年8月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会 劇あそび勉強会	分科会 ～日常保育を中心に～
第50回幼児の劇あそび夏季講習会 東京集会	尾根秀樹	2019年8月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	分科会 ① 絵本からの劇あそび～年少～
『劇あそびをとって保育を見つめる』	尾根秀樹	2021年1月	クオリスキッズ駒込保育園 園内研修	園内研修として勤務する保育士対象に表現について講義と実践研修を行う。
第52回幼児の劇あそび夏季講習会 オンデマンド開催	尾根秀樹	2021年7月	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	実践講座2 幼児といっしょに劇あそび
コロナ禍で視えてくる領域『表現』の重要性	尾根秀樹	2022年3月	福島学園幼稚園 園内研修	園内研修として勤務する幼稚園教諭対象にコロナ禍だからこそ「表現」の重要性について再認識することを目的とし、講義と実践研修を行う。
(その他教育研究活動など)				
○公益社団法人日本児童青少年演劇協会主催 幼児の劇あそび夏季講習会 講師	尾根秀樹	2007年5月～現在に至る	公益社団法人日本児童青少年演劇協会	・東京家政大学にて児童演劇を指導されていた落合聡三郎教授(在籍期間 1976-1982)が1984年に発足した研究会に所属。第50回まで開催されている講習会でありその講師を担当している。
公益社団法人東京都私立幼稚園教育研修会 教育研究委員	尾根秀樹	2014年7月～2020年3月	東京都私立幼稚園連合会	幼稚園教諭への研修のコーディネーター等を担当
世田谷区実践充実コーディネーター	堀科 尾根秀樹	2022年～現在に至る	世田谷区	世田谷区の保育実践コンパスを元に、世田谷区の保育実践の充実に向けた事業のバディを担当

教育研究業績書

2023年5月1日

氏名 齊藤 加奈

著書・学術論文などの名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概要
(論文)				
1 『保育の自然体験活動におけるいのちの教育の研究—子どもの心の揺れ動きに着目して—』	単著	2018年3月	東京家政大学修士論文	授業や科目といった垣根のない日常保育の中で、構造化されていない自然体験を通して、子どもたちがどのようにいのちについて学び、いのちの大切さを実感するのかを明らかにした。
2. 年報 『保育者養成教育における「いのちの教育」動向に関する検討』	単著	2020年2月	東京家政大学教員養成推進室年報第9号 p. 179-p. 185	子どもたちがいのちを感じその尊さに気づき大切にしたい気持ちを育むためには、保育者自身の「いのち」の捉えや、死生観が大きく影響する。そこで保育者養成過程においてその価値観を育む教育内容を検討するための第一歩として保育者養成教育におけるいのちの教育の動向を探った。その結果、いのちの教育は言葉や慣習を教えるのではなく、保育者自身のいのちの価値観や死生観をもとに子どもたちと対話し“Life”(いのち、生活、心)へ寄り添うことが不可欠である。その姿勢を養うためには、保育者養成教育において周囲の人たち(友人、保護者、教員など)と互いの特性を認め合い、価値観を共有し「いのち」を多角的に捉えられるような授業展開を行っていくことが重要であるとした。
3. 年報 『家庭における「いのちの教育」動向に関する検討』	共著	2021年2月	東京家政大学教員養成推進室年報第11号 p. 263-p. 267	子どもたちにとって人的環境の大きな部分を構成する要素としての、「保護者、家庭」に着目し「家庭におけるいのちの教育」の動向を検討していった。その結果、保護者の「いのちの教育」への関心の高さが判明した一方で、家庭教育における「いのちの教育」に関する議論が不足している現状も明らかとなった。「いのちの教育」は特別なことではなく、日常的に様々な人の価値観・生命観を吸収し、少しずつ「その子(人)がその子(人)らしく生きるためには」という「積極的な生命尊重」の姿勢を育てていくことが重要であるとした。 共著者: 五島脩
4. 年報 『熊本地震における自閉症スペクトラム障害のある子どもとその家族の抱える困難・ニーズの検討』	共著	2021年2月	東京家政大学教員養成推進室年報第11号 p. 255-p. 262	質問紙調査から平成28年熊本地震における自閉症スペクトラム障害のある幼児児童生徒とその家族の非難の実態と福祉避難所及び災害時要援護者名簿の周知の実態、また災害時の困難・ニーズを明らかにした。 共著者: 五島脩、高野陽介

(学会発表・ポスター発表)				
1ポスター発表 『保育における自然環境を通したいのちとの出会いの検討』	単著	2016年8月	全国保育士養成協議会 研究大会第55回全国大会(盛岡)	日常保育における子どもたちの姿を捉え、どのように身近な自然と触れ合い、その中でどのようないのちの出会いがあるのかを明らかにした。その結果をもとに乳幼児期におけるいのちの教育の望ましいあり方を検討した。
2ポスター発表 『保育における自然環境を通したいのちの教育の在り方-虫類を介在したいのちの出会い-』	共著	2017年5月	日本保育学会第70回全国大会(岡山)	日常保育における自然との触れ合いを記録観察し、身近ないのちの出会いの場面について検討した。特に、いのちの学びへの人的環境の影響に注目し、参与観察にて得たエピソードを保育者・友人・子ども自身の経験の3つに分類することで、乳幼児期におけるいのちの教育の望ましいあり方を検討した。 共同発表者:大澤力
3ポスター発表 『保育者としての成長プロセスの検討その1～保育所実習不安を規定する要因の分析(入学前～導入)～』	共著	2019年3月	日本保育者養成教育学会第3回研究大会(仙台)	養成校入学前から養成段階、現職以降の長期的な視点で保育者の成長プロセスを明らかにし、それぞれの段階における保育者の成長を支える養成教育や現職教育の在り方を検討する基礎資料を提示することを目的とする。本報告は、その第1報であり、養成教育の中でも初期段階である養成校入学前から初年次に焦点をあて、保育所実習不安を規定する要因について分析をした。 共同発表者:細井香、小櫃智子
4ポスター発表 『保育者としての成長プロセスの検討その2～実習段階による子ども理解の変容(導入～応用)～』	共著	2019年3月	日本保育者養成教育学会第3回研究大会(仙台)	保育者の専門性の中でも子ども理解に焦点をあて、養成校1年次から3年次にかけて実施される各実習段階による子ども理解の変容を明らかにすることを目的とする。保育における子ども理解は、子どもの発達等の基礎知識に加え、子どもとのかかわりの中で共感的に理解することや、子どもとのかかわりを省察する中で自身が変容することが重要である。実習での子どもとのかかわり体験は、学生の子どもの理解のあり様に大きな影響を及ぼすものである。実習体験の積み重ねの中で学生の子どもの理解がどのように変容しているかを分析することを通して、保育者の専門性のである子ども理解のスキルを養成段階からどのように育ていくことができるのかその可能性を検討する。 共同発表者:小櫃智子、細井香
5ポスター発表 『養成から育成までの保育者効力感の変容』	共著	2019年3月	日本保育者養成教育学会第3回研究大会(仙台)	省察的実践家としての姿勢を養う教育内容の検討と保育者の資質・専門性の向上を図る研修の在り方を模索していく上での指標として、保育者効力感に着目して養成から育成について検討していく。保育者効力感とは「保育場面において子どもの発達に望ましい変化をもたらすことができるであろう保育的行為をとることができる信念」と定義される概念である。特に本発表では養成課程に焦点を当てて検討を行う。 共同発表者:細井香
6ポスター発表 『養成から育成までの保育者効力感の変容Ⅱ』	単著	2020年3月	日本保育者養成教育学会第4回研究大会(福山)	2019年3月に発表した「養成から育成までの保育者効力感の変容」に続く調査研究である。保育ニーズの変化に伴い保育形態が多様化する中で、保育者の専門性の向上及び自己を省察する姿勢の養成を目指し、教育・研修内容の検討を行う。2019年3月の発表では、養成課程における保育者効力感の変容について調査を行った。本調査では、研究の再現性を確認するため、前回とは異なる学年で縦断的調査を行った。

教育研究業績書

2023年5月1日

氏名 篠沢 薫

著書・学術論文などの名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概要
(論文)				
バイリンガル幼児の第二言語における萌芽的リテラシー能力の発達を促す構造に関する研究(博士論文)	単著	2022年3月	東京学芸大学博士学位論文	本研究は、バイリンガル幼児の第二言語における萌芽的リテラシー能力の発達を促す構造について、構成要因の実態および構成要因間の関係性を明らかにすることを目的とした。4～5歳の幼児、保育者、保護者を対象にして、実験法、検査法、面接法、質問紙法、観察法を用いて、3つの研究を実施した。その結果、第二言語の文字音知識や音韻意識について発達を促す何らかの配慮が必要であること、一方で、萌芽的リテラシー活動への興味関心は強みであることが考えられた。また、物的環境や人的環境の重要性が示され、さらに、萌芽的リテラシー活動の楽しさが萌芽的リテラシー能力の発達を促す上で重要であることが示唆された。
バイリンガル幼児における文字音知識および音韻意識の発達と萌芽的リテラシー活動への興味関心との関連：中国語・日本語バイリンガル幼児の第二言語習得に着目して	単著	2021年10月	学校教育学研究論集, 44. 1-14.	本研究では、中国語・日本語バイリンガル幼児における日本語の文字音知識および音韻意識の発達とEL活動への興味関心との関連の有無を明らかにすることを目的とした。4～5歳のバイリンガル幼児および日本語モノリンガル幼児を対象に実験法・面接法による調査をし、対象児をバイリンガル群13名、統制群13名、日本語モノリンガル群29名に群分けして分析した。その結果、文字音知識および音韻意識の発達と関連がある萌芽的リテラシー活動への興味関心が、モノリンガル群と異なりバイリンガル群はより多様な活動への興味関心と関連があった。このことから、バイリンガル幼児の第二言語における文字音知識および音韻意識の習得において、モノリンガル群と異なり、楽しさのような動機づけの役割がより大きいことが考えられる。
多様な文化的言語的背景をもつ幼児の萌芽的リテラシーへの興味関心と語彙発達およびクラスの言語環境に関する保育者の意識との関連	共著	2020年12月	乳幼児教育学研究, 29. 23-34	本研究では、①多様な文化的言語的背景をもつ(以下、CLD)幼児の萌芽的リテラシーへの興味関心と萌芽的リテラシーの発達との関連、②CLD幼児の萌芽的リテラシーへの興味関心とクラスの言語環境に関する保育者の意識との関連、を明らかにすることを目的に検討した。その結果、①CLD幼児の萌芽的リテラシーへの興味関心は第二言語である日本語の語彙発達と関連しなかった。②CLD幼児が萌芽的リテラシーへの楽しさを十分に感じられていないこと、保育者におけるCLD幼児への語りかけの意識の高さが関連した。CLD幼児の萌芽的リテラシーに対する興味関心を、語りかけというコミュニケーションを通して育てようとする保育者の意識は、CLD幼児の萌芽的リテラシーの発達を促すことにおいて重要であると考えられる。 (著者：篠沢 薫・松崎洋子)

日英バイリンガル児の言語の特徴に対する在英日本人母親の意識	共著	2020年3月	千葉大学教育学部紀要, 68. 85-92.	本研究では、日英バイリンガル児の言語の特徴に対する英国在住の日本人母親の意識を明らかにすることを目的とし検討した。在英期間が2年以上の日英バイリンガル児の母親12名(日本人家庭6名、国際結婚家庭6名)に対し、インタビュー調査を実施し分析した。結果を考察したところ、以下の3点が明らかになった。①両家庭ともに日本語への細やかな意識と英語への大らかな意識があった、②子どもの言語力に対して、日本人家庭は「日本語が英語より弱くなった」、国際結婚家庭は「日本語が英語より弱い」と意識していた、③日本人家庭の英語に対する心配ごとには言語発達に加えて言語環境が含まれていた。 (著者:篠沢 薫・松崎洋子・松井智子)
前言語期の自閉症スペクトラム障害幼児と保育者の身体接触を伴うコミュニケーションの特徴:一事例による考察	共著	2016年1月	共立女子大学家政学部紀要, 62. 173-180.	本研究では、前言語期の自閉症スペクトラム障害幼児と保育者の身体接触を伴うコミュニケーションの特徴について、視覚的注意共有の有無と関連させ縦断的に検討した。幼児1名(年長組)と保育者数名を検討した結果、調査開始頃は中立的な機能の身体接触が多く、その後、親和的な身体接触が多くなった。また、視覚的注意共有のある場合は、対象児との注意共有が成立しやすいよう動く保育者の姿があった。視覚的注意共有を伴う経験を促す際には、保育者のかかわり方自体も考慮する必要がある。 (著者:篠沢 薫・権藤桂子・松井智子)
前言語期の自閉症スペクトラム障害児の発声や身振りの変化:支援者が子どもの発声や身振りの模倣をしたことに着目して	単著	2014年12月	コミュニケーション障害学研究, 31(3). 161-165.	本研究では、前言語期の自閉症スペクトラム障害児1名(5歳)の発声や身振りの変化について、支援者が対象児の発声や身振りの模倣をしたことに着目して、検討した。その結果、対象児は支援者への視線と身振りが同期するようになるなど、伝達行動として他者にわかりやすいものになっていった。支援者による対象児の発声や身振りの模倣の積み重ねが、対象児の他者理解を促した可能性があると推測される。
幼稚園・保育所において絵本はどのように扱われているか:保育者への活動実態・意識調査から	共著	2014年3月	絵本学研究, 16. 37-44.	本研究は、幼稚園や保育所の保育における絵本の位置づけ、絵本環境、絵本に対する保育者の意識等に関して実態を明らかにすることを目的とした。首都圏の保育者102名に、絵本を用いた活動、絵本を読む時間帯、読み聞かせの際の絵本選択基準、園および保育室の絵本環境などについての質問紙調査を実施した。その結果、保育者が考える保育の中での絵本の役割や読み聞かせの際の絵本選択における配慮事項などが明らかになった。 (著者:西坂小百合・篠沢 薫・権藤桂子)

自閉症スペクトラム障害児の会話の維持機能を促す支援	単著	2013年3月	ライフデザイン学研究, 9. 179-190.	本研究は、会話の維持が困難な、特別支援学級に在籍する小学1年生の自閉スペクトラム障害児1名を対象に、会話の維持機能を促すために2ヵ月間の支援をし、その効果を検討することを目的とした。その結果、対象児は発話交代のタイミングが適切になったり、やりとりの数自体の増加や発話内容の変化がみられたりしたことから、対象児の会話の維持機能の発達を促された可能性が示唆された。
学習に困難をかかえる小学生の算数文章題解決場面における行動:発話や動作に注目して	単著	2012年3月	ライフデザイン学研究, 8. 129-143.	本研究は、通常級に在籍する学習に困難を抱える小学5年生1名を対象に、算数文章題学習場面における行動特徴を明らかにし、支援の一助とすることを目的とした。調査方法は、療育機関での著者による個別支援を2ヵ月間ビデオカメラにて記録し、算数文章題学習場面での対象児の発話や動作を分析した。その結果、正答率の低い場合、対象児は問題や回答用紙を見るときに、発話にネガティブな感動詞や多様な身体の動きが多くみられ、対象児の実態把握をする手がかりが示唆された。
四年制大学の開設児童学科における学生の意識に関する検討(3):学年による授業の学び、子どもイメージ、保育者効力感の比較	共著	2010年1月	共立女子大学家政学部紀要, 56. 65-73.	本研究は、児童学科学生の授業の学び、子どもイメージ、保育者効力感について、3学年を比較して特徴を明らかにすることを目的とした。児童学科の3年生98名、2年生99名、1年生98名、に質問紙調査を行った結果、3年生における授業の学びの積み重ね、2年生における授業の学びや保育者効力感の低さ、1年生における子どもに対する有能的・安定的イメージの低さ、が明らかになった。 (著者:小原敏郎・大嶋恭二・矢吹美美子・安田 悟・入江礼子・川上雅子・足立美和・岡田 智・河原紀子・村上康子・加田洋子・丸田愛子・山田 薫・平出朋子・武藤安子)
広汎性発達障害の児童への造形活動の実践:表現と共同作業を促す図画工作活動	共著	2009年1月	共立女子大学家政学部紀要, 55. 121-132	本研究では、広汎性発達障害(以下、PDD)のある子どもたちとともに造形活動を行い、子どもたちの学びを知ることを目的に、「表現と制限」「自己表現と共同作業」といった観点から検討した。調査対象は、小学2-5年生の男児女児13名であった。調査方法は、1日5時間、合計3日間行われた著者らが実践した造形活動をビデオカメラにて記録した。その結果、造形活動がコミュニケーションを媒介したり自由な表現を促したりすることや造形活動自体のもつ制限が子どもの自由な自己表現への衝動をかきたてる機能を果たす、といったことが示唆された。 著者:安田 悟・岡田 智・山田 薫(計3名)

<p>四年制大学の新生児童学科における学生の意識に関する検討(2):授業の学びおよび子どもイメージ・保育者効力感</p>	<p>共著</p>	<p>2009年1月</p>	<p>共立女子大学家政学部紀要, 55. 133-143.</p>	<p>本研究は、児童学科第1期生の授業の学び、子どもイメージの変化、子どもイメージの特徴と実習後の保育者効力感の変化を明らかにすることを目的とした。児童学科学学生205名、他学科学学生120名に質問紙調査をした結果、授業内での多様な技術の習得と授業への関心との関連、子どもイメージへの子どもとかわる経験の影響、能動的・有能的・安定的といったイメージの他学科学学生との有意差、子どもとかわる経験数の違いが明らかになった。 (著者: 村上康子・矢吹美美子・安田 悟・入江礼子・川上雅子・足立美和・小原敏郎・岡田 智・河原紀子・加田洋子・丸田愛子・山田 薫・武藤安子)</p>
<p>ベビーマッサージにおける親子間のかかわりの発達の研究 (修士論文)</p>	<p>単著</p>	<p>2006年3月</p>	<p>早稲田大学修士論文</p>	<p>本研究では、ベビーマッサージ場面における乳児期の親子間のかかわりの変容プロセスを発達的に明らかにすることを目的に縦断的研究を行った。3組の母子(調査開始時に2ヵ月齢の乳児)と、2組の母子(調査開始時に8ヵ月齢の乳児)を対象にし、約10ヵ月間、月1回の割合で家庭訪問し、乳児の行動や親子間の調整の様相といった側面に焦点化し発達的に検討した。分析結果を総括すると、変容プロセスは、基本期・発展期・収束期の3つのステージに大別され、ベビーマッサージは、親子の相互作用により自己組織化する形で多様化し、収束していくことが示唆された。</p>
<p>(報告書および報告発表)</p>				
<p>保育所・幼稚園の言語環境と多言語環境で育つ幼児の萌芽的リテラシー能力との関連</p>	<p>単著</p>	<p>2020年7月</p>	<p>2019年度家庭教育研究助成。公益財団法人前川財団。</p>	<p>本研究では、国内の外国人集住地域の保育所・幼稚園の言語環境と多様な文化的言語的背景をもつ幼児(以下、CLD幼児)の萌芽的リテラシー能力との関連を明らかにするため、3つの研究を実施した。その結果、保育者がCLD幼児に配慮しながら絵本を使用していたこと、幼児の語彙を広げることに対する保育者の意識にばらつきがあったこと、印刷(書かれた)文字環境の質が高くなかったこと、CLD幼児の萌芽的リテラシーへの楽しさと保育者の語りかけに対する意識が関連していたこと、などが明らかになった。さらにCLD幼児の萌芽的リテラシーの発達を促すには、保育者自身が幼児の語彙の広がり高い意識をもつことやクラスの文字環境の質を高めることが重要である可能性が示唆された。</p>

日本語がマイノリティ言語である環境で育つ子どもたちの言語発達:家庭における支援に向けて	単独	2019年8月	第13回児童教育実践についての研究助成研究成果発表会、公益財団法人博報児童教育振興会、東京コンファレンスセンター有明:東京.	本研究では、在英日本人児童の日本語と英語の発達と家庭言語環境を多角的に検証した。平日は現地校に通い、土曜日に日本人補習授業校に通う現地校のYear 2(補習校小1)の児童とその保護者20組を対象に、児童の言語発達調査と保護者のインタビュー・質問紙調査をした。その結果、言語発達調査での群間差、インタビュー調査での言語環境に関する言及から、家庭および家庭以外の言語環境や在英年数もふまえて、さらに検討が必要である。また語彙をよく話せることと文をよく理解できることとの関連が示唆され、語彙を話すことの難しい児童は文の理解が難しいことが考えられる。また発話意図の理解が英語の表出文法と関係があり、このことは先行研究でいわれている、文法能力と心の理論課題の解決力と関係があるという知見を支持する結果であったと考えられる。
(学会発表:口頭発表)				
コミュニケーション面に弱さのある幼児2例における前言語期の発声の特徴	共同	2015年5月	日本コミュニケーション障害学会第41回大会、福岡大学:福岡.	本研究は、コミュニケーション面に弱さのある幼児における前言語期の発声の特徴を明らかにすることを目的とした。調査方法は、コミュニケーション面に弱さがあり、言語面の発達年齢が10~11カ月である幼児2名(A:5歳6カ月、B:2歳7カ月)を対象に、著者らの療育場面の観察をして、聴覚評価、音響分析、発声時の視線を分析した。その結果、今回対象とした事例では、話すような音の発声と不定形な音を含む発声の両方が存在していた。不定形な音を含む発声は、発達とともに減少していく様子がみられた。 (報告者:篠沢 薫・権藤桂子・糸井美和)
ベビーマッサージにおける接触様相の発達的变化	共同	2008年11月	日本乳幼児医学・心理学学会第19回大会、大正大学:東京.	本研究は、ベビーマッサージにおける接触様相について明らかにするために、3組の母子(乳児の月齢:2~10)のベビーマッサージ場面の縦断的な観察データについて、乳児の各身体部位の母親からの接触量と接触パターンを検討した。その結果、①ベビーマッサージの接触パターン、②それらの接触の発達的变化が明らかとなった。 (報告者:篠沢 薫・根ヶ山光一)

(学会発表・ポスター発表)				
中国語・日本語バイリンガル幼児における第二言語の文字音知識および音韻意識の発達と萌芽的リテラシー活動への興味関心との関連	単独	2021年7月	広域科学教育学会第5回大会. オンライン開催.	本研究では、中国語・日本語バイリンガル幼児における日本語の文字音知識および音韻意識の発達とEL活動への興味関心との関連の有無を明らかにすることを目的とした。4～5歳のバイリンガル幼児および日本語モノリンガル幼児を対象に実験法・面接法による調査をし、対象児をバイリンガル群13名、統制群13名、日本語モノリンガル群29名に群分けして分析した。その結果、文字音知識および音韻意識の発達と関連がある萌芽的リテラシー活動への興味関心が、モノリンガル群と異なりバイリンガル群はより多様な活動への興味関心と関連があった。このことから、バイリンガル幼児の第二言語における文字音知識および音韻意識の習得において、モノリンガル群と異なり、楽しさのような動機づけの役割がより大きいことが考えられる。
Is emergent literacy in young children from culturally and linguistically diverse backgrounds associate with the preschool teachers' perceptions of language environments?	共同	2020年7月	The 21st Pacific Early Childhood Education Research Association (PECERA) international conference. Victoria University of Wellington: NZ.	The aim of the current study was to investigate the association between the development of Emergent Literacy in CLD children and the preschool teachers' perceptions of language environments. Forty-five children, 43 families of these children, and 8 preschool teachers participated. In the result, CLD and control children had similar phoneme isolation (initial sound) and rhyme awareness mean scores. The association found between low score in CLD children and high perception from their teachers suggests that teachers are reflecting on the language environment in their class. (報告者: Kaoru SHINOZAWA, Yoko MATSUZAKI, & Akiko HAYASHI)
外国人集住地域の園の言語環境に関する保育者の意識	共同	2020年5月	日本保育学会第73回大会. 奈良教育大学: 奈良.	本研究は、外国人集住地域の園の言語環境、特に絵本環境に関する保育者の意識を明らかにすることを目的とする。調査方法は、関東圏の保育所5園の保育者8名を対象に、個別に半構造化面接をした。その結果、外国人集住地域の園の保育者が意識していることは以下の3点であった。①絵本選択の際には家庭言語環境も考慮し、子どもが使う日本語以外の言語の状況をふまえて、絵本の準備をしていた。②絵本環境は、子どもが絵本に触れる機会を保障するために、家具などの物的環境についても工夫していた。③多言語多文化を知る機会や、日本語経験が積めるような様々な言葉遊びの経験を積むようにしていた。 (報告者: 篠沢 薫・松崎洋子)

4歳児における音韻意識の発達と言語環境との関連	共同	2020年3月	日本発達心理学会第31回大会. 大阪国際会議場: 大阪.	本研究は、萌芽的リテラシーのスキルとして音韻意識に着目し、4歳児における音韻意識の発達と言語環境との関連を明らかにすることを目的とする。調査方法は、4歳児クラスの幼児45名とその保護者43名、保育所の4歳児担当保育士6名を対象に、幼児に対する言語発達と興味関心の評価、保護者に対する家庭言語環境の把握と評価、保育者に対する保育の言語環境の評価、を実施した。その結果、幼児の語末音の抽出と、幼児が絵本を楽しむことや見る頻度の高さが関係した。よって、園の絵本環境を整えることは、音韻意識に関連するといえるが、現状では、園の絵本環境は人的な言語環境に比べて十分に意識されていない。(報告者: 篠沢 薫・松寄洋子・林安紀子)
保育所・幼稚園の言語環境に関する保育者の意識	共同	2019年12月	日本乳幼児教育学会第29回大会. 東北文教大学短期大学部: 山形.	本研究は、保育所・幼稚園の言語環境に関する保育者の意識を明らかにし、国内の保育における言語環境の実態を把握することを目的とする。調査方法は、関東圏の保育者132名に質問紙調査を実施した。因子分析の結果、3因子が見出され、「①新たな言葉を知る機会としての語りかけ」は人的環境、「②絵本環境の工夫」は物的環境、「③絵や文字を介したやりとり」は物的環境と人的環境が相互に関連していた。よって、園における言語環境は、人的環境と物的環境の双方が充実してこそ、整うものであると考えられる。また園の言語環境を構成する3つの因子は全て保育経験年数と関連していたため、言語環境についても、経験による保育者の知識量の増加や構造化が考えられる。(報告者: 篠沢 薫・松寄洋子)
How mothers think about the linguistic features of their Japanese-English speaking children living in the UK	共同	2019年7月	The 20th Pacific Early Childhood Education Research Association (PECERA) international conference. Howard Civil Service International House: Taiwan.	The aim of the current study was to explore the construct of mothers' recognition of the linguistic features of their Japanese-English speaking children living in the UK. Nineteen mothers were interviewed. Eleven mothers are in international marriages. Their children's average age was 6 years and 7 months. It is important to note that the environmental aspects (English only) were a concern of mothers who had a Japanese husband, so the concern may be related to the mothers' native language. (報告者: Kaoru SHINOZAWA, Yoko MATSUZAKI, & Tomoko MATSUI)

多言語環境で育つ子どもの言語発達	単独	2018年12月	広域科学教育学会第2回大会.弘済会館:東京.	本研究は、イギリスで現地校に通う日英二言語を話す日本人児童における語彙と文法の理解と表出力および対話能力を明らかにすることを目的とした。調査方法は、日本人母親をもつ在英日本人児童18名を対象に、二言語における理解語彙、表出語彙、理解文法、表出文法、発話意図理解、非言語推測能力を調べ、父親が日本語母語話者である8名(A群)とそれ以外の10名(B群)に分け解析した。その結果、A群の中に英語を理解できるが話すことの難しい児童がいること、話すことの難しい児童は、学習に必要な文法の理解ができず、学校での学習に難しさを抱えている可能性があること、A群の児童は発話意図理解においてB群よりも難しさを抱えている可能性があることが示唆された。
Perception of non-native phonemic contrasts in Japanese children with autistic spectrum disorder (ASD)	共同	2018年9月	The British Psychological Society Developmental Psychology Section Annual Conference. Crowne Plaza Liverpool City Centre: UK.	The aim of the current study was to further investigate the characteristics of non-native speech perception in Japanese ASD children using British English /r-l/ /t-d/ contrasts. Twelve school-aged children with ASD and 31 control children participated in the study. Participants heard pairs of stimuli spoken by the same speaker and were asked to judge whether each pair of the sound was the same or different. Children with ASD were more accurate than control children in discriminating the /r-l/ contrast ($F(1,164) = 11.114, p < .01$). By contrast, the two groups were equally accurate in discriminating the /t-d/ contrast ($F(1,164) = 1.794, p = .182, n.s.$). Japanese children with ASD have shown increased sensitivity to non-native phonemic categories. Such sensitivity to non-native phonemic categories may be due to enhanced low-level perception or weak central coherence. (報告者: <u>Kaoru SHINOZAWA</u> , Tomoko MATSUI, Akiko HAYASHI, Takahiro SEKIGUCHI, Hiroshi FUJINO, Yoshikuni TOJO, & Keiichiro HAKARINO)
ASD幼児と母親の共同注意場面における母親の発話の特徴	共同	2017年3月	日本発達心理学会第28回大会. 広島大学: 広島.	本研究は、自閉スペクトラム症(ASD)幼児と母親の共同注意場面における母親の発話特徴を明らかにする。調査方法は、幼稚園3歳児クラス在籍の前言語期のASD幼児10名と母親を対象に、相互作用場面の観察をして、1.母親の発話内容、2.母子間の共同注意:①主導型の共同注意、②反応型の共同注意)、3.日本語マッカーサー乳幼児言語発達質問紙「語と身振り版」V.身振りの身振り合計得点、の分析をした。その結果、反応型の共同注意は母親の発話内容に関係なく成立する可能性、低得点群の方が共同注意の成立時に母親の発話に提示や身振りが伴うことが多くみられる可能性が示唆された。 (報告者: 篠沢 薫・権藤桂子・松井智子)

<p>前言語期のASD幼児との相互交渉における母親の発話の特徴</p>	<p>共同</p>	<p>2016年4月</p>	<p>日本発達心理学会第27回大会. 北海道大学: 北海道.</p>	<p>本研究は、前言語期の自閉症スペクトラム障害(ASD)児と母親との相互交渉において、共同注意生起時の母親の発話特徴を明らかにすることを目的とした。調査方法は、幼稚園3歳児クラス在籍の前言語期のASD幼児5名と母親を対象に、相互作用場面の観察をして、母親の発話(発話内容、総発話数、形態素平均発話長)、母親の行動(指さし、提示)、母子間の共同注意の分析をした。その結果、前言語期のASD児との相互交渉における母親の発話特徴として、①共同注意の成立は、発話内容の中でも特定の種類に限定される可能性がある、②共同注意が成立する発話の方が、成立しない発話より発話長が短い、ということが明らかになった。 (報告者: 篠沢 薫・権藤桂子・松井智子)</p>
<p>絵本の種類の違いによる母子のコミュニケーションの特徴について</p>	<p>共同</p>	<p>2015年5月</p>	<p>日本保育学会第68回大会. 相山女学園大学: 愛知.</p>	<p>本研究は、絵本共有場面における絵本の種類の違い(ストーリー有無)による母子コミュニケーションの特徴、特に母親の発話内容を明らかにすることを目的とした。調査方法は、平均年齢2歳5か月の幼児と母親18組を対象に絵本読み場面の観察をして、発話に関する分析をした。その結果、発話機能、発話長に絵本の種類の違いの影響があり、発話機能、時制、心的動詞に英語圏との違いがあった。 (報告者: 篠沢 薫・権藤桂子・恒川丹・三輪穂奈美)</p>
<p>前言語期のASD幼児と保育者の相互交渉の特徴: 身体的かかわりに着目して</p>	<p>共同</p>	<p>2015年3月</p>	<p>日本発達心理学会第26回大会. 東京大学: 東京.</p>	<p>本研究は、保育者とASD幼児の身体的接触や接近がみられる相互交渉に着目し、両者がどのような表情、視線、発話、接触の内容を伴ったときに相互交渉が成立するのか、その特徴を明らかにすることを目的とした。その結果、保育者と対象児の相互交渉が成立するときに身体接触がみられることが多く、先行研究の結果を支持した。また、対象児の興味関心とは異なる事象については、保育者が身体接触と共に介入すると対象児の反応はあるようであったが、相互交渉として深まっていくことはないようであった。 (報告者: 篠沢 薫・権藤桂子・松井智子)</p>
<p>Mother-child communication in Japan when book sharing: Case study using two types of picture books</p>	<p>共同</p>	<p>2014年8月</p>	<p>The 15th Pacific Early Childhood Education Research Association (PECERA) international conference. Inna Grand Bali Beach Hotel: Indonesia..</p>	<p>This study examined the characteristics of mothers' utterances which differ between when narrative books are used and when non-narrative books are used, in mother-and-child communication when book sharing. At the result, the difference was found between narrative books and non-narrative books. (報告者: Kaoru SHINOZAWA・Keiko GONDO)</p>

ASD児の不定形な発声の発達的変Ⅱ:18ヵ月間の記録より	共同	2014年5月	日本コミュニケーション障害学会第40回大会. 金沢大学: 石川.	本研究は、前言語期におけるASD児の発声特徴に着目し、不定形な発声の産出量と話すような音の発声の産出量の変化を明らかにすることを目的に、5歳6ヵ月の自閉症児1名を縦断的に検討した。18ヵ月間、毎月1回30分以内のデータを分析対象とした。その結果、不定形な発声は、話すような音の産出量の割合が高くなると、役割が変化した。 (報告者:篠沢 薫・権藤桂子)
読みに困難をかかえる小学生への音読指導に関する実践研究:文節を意識することの効果	単独	2013年8月	特殊教育学会第51回大会. 明星大学: 東京.	本研究は、文の読みに困難をかかえる子どもへの文節を意識する指導が、文の音読の読み間違いや非流暢さにもたらす効果について、検討した。小学5年生1名に対し約7ヵ月間全17回、療育機関にて著者が個別指導を実施した結果、文中における読み間違いおよび非流暢さの割合が減少した。文節を区切る作業を通じて、文中の自然な切れ目を意識することが、文章音読の改善に有効である可能性が示唆された。
ASD児の不定形な発声の発達的变化について:一事例における検討	共同	2013年7月	日本コミュニケーション障害学会第39回大会. 上智大学: 東京.	本研究は、前言語期の自閉症スペクトラム障害児(以下ASD児)の発声でみられる金切り声のような「不定形な発声」の質的な特徴を明らかにするために、自閉症幼児1名の7ヵ月間全7回の個別療育場面における発声について縦断的に検討した。その結果、不定形な発声は、他者への意思伝達手段としての役割を担う時期を経て、次第に話すような発声にその役割を委ねていく様子が窺えた。 (報告者:篠沢 薫・権藤桂子)
自閉症児の能動的なかかわりを支える実践	共同	2013年5月	日本保育学会第66回大会. 中村学園大学・中村学園大学短期大学部: 福岡.	本研究は、自閉症幼児が他者とかわるときに、どのような行動がその子どもの能動性を支えるのかについて明らかにするために、約6ヵ月間全6回の個別療育場面での自閉症幼児1名と支援者1名の相互交渉について検討した。その結果、まずは自閉症児自身の行動を、支援者が受容し尊重することが、その場面でのやりとりを支えることが明らかになった。 (報告者:篠沢 薫・権藤桂子)

<p>前言語期における自閉症児の発声：一事例の行動観察からの検討</p>	<p>単独</p>	<p>2013年3月</p>	<p>日本発達心理学会第24回大会. 明治学院大学: 東京.</p>	<p>本研究は、前言語期にある自閉症児の発声の特徴について明らかにするために、自閉症幼児1名の発声について、約2ヵ月間全8回の個別療育場面での行動観察をもとに質的に検討した。その結果、対象児ははじめ、おもちゃや周囲などに目を向けながら子音を発することが多く、その意味は他者にとって不明瞭なものが多かった。その後母音のみ、もしくは子音と母音共に発することがみられ、その意味も他者にとって判別しやすいものが多くなったということが明らかになった。</p>
<p>ベビーマッサージ場面における乳児の快感を引き出す行動の検討</p>	<p>単独</p>	<p>2010年3月</p>	<p>日本発達心理学会第21回大会. 神戸国際会議場: 兵庫.</p>	<p>本研究は、ベビーマッサージにおける乳児の快感情を喚起する行動について明らかにするために、3組の母子(乳児の月齢:5~6)のベビーマッサージ場面での接触パターン、視線、親子の発話を分析した。その結果、乳児の笑顔の表出する場面では、①接触パターンに共通性がないこと、②親子が見つめ合いかつ親の発話による働きかけがあることが明らかとなり、親子間の相互的なやりとりが乳児の笑顔表出に何らかの影響を与える可能性のあることが示唆された。</p>
<p>ベビーマッサージ場面における親子の行動の縦断的研究</p>	<p>共同</p>	<p>2006年3月</p>	<p>日本発達心理学会第17回大会. 九州大学: 福岡.</p>	<p>本研究は、ベビーマッサージ場面における親子間のかかわりの変容プロセスを明らかにするために、調査開始時に2ヵ月齢の乳児と母親3組、8ヵ月齢の乳児と母親2組を対象に、約10ヵ月間10回のベビーマッサージ場面における縦断的な観察データについて、母子の行動を分析した。その結果、ベビーマッサージは親子の相互作用により自己組織化する形で多様化し、収束していくことが示唆された。 (報告者: 篠沢 薫・根ヶ山光一)</p>
<p>(社会的活動等)</p>				
<p>小平市巡回相談 相談員</p>	<p>単独</p>	<p>2016年4月～ 2020年3月</p>	<p>小平市社会福祉協議会</p>	<p>相談員として、発達に遅れや障害のある幼児の保育について、保育者とコンサルテーションを行った。</p>

教育研究業績書

2023年5月1日

氏名 飯村 愛

著書・学術論文などの名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌又は発表学会などの名称	概要
(著書)				
Q&Aこれからの社会的養育(仮)	共著	(印刷中)	ぎょうせい	社会的養護が転換期にある中、自治体職員や保育士養成校などに、「社会的養護」を適切に理解していただくことを目的に作成する書籍の中の看護師の役割のページを担当
(論文)				
1 乳児院看護師の役割 ―歴史的変遷からの考察―	単著	2023年3月	日本女大学大学院 家政学研究科紀要No.29	乳児院における看護師の配置および役割について、歴史的経緯に関して法改正や社会情勢の変化、施設機能の変化、入所背景の変化から検討を行い、乳児院看護師の役割について考察を行った。
(学会発表：口頭発表)				
1 乳児院看護師の役割と職務	単著	2020年2月	第12回日本児童養護実践学会大会 (会場：日本女子大学)	乳児院の看護師の役割と職務について、乳児院を調査し考察した。
2 乳児院看護師の職務と役割について～乳児院看護師のアイデンティティ問題に着目して～	単著	2020年11月	第26回日本子ども虐待防止学会大会 (会場：石川県)	乳児院看護師が独自のアイデンティティを構築していくプロセスについて、乳児院看護師にインタビューし、その結果をM-GTAで質的分析を行い考察した。
(学会発表：ポスター発表)				
1 家政福祉学を基盤とした保育士養成の取り組み ～コース設置3年の報告と展望～	共著	2022年5月	第75回日本保育学会大会 (会場：聖徳大学)	和洋女子大学家政福祉学科を基盤とした保育士養成の取り組みにおける児童福祉コース設置3年の報告と展望について、6名の教員(弓削田綾乃、丸谷充子、佐藤由香、大沼良子、二宮祐子、池谷真梨子)、と助手飯村愛の計7名で共同発表を行った。
(その他教育研究活動など)				
雑誌 1 意識を高め、行為を深めるために： 保育者と看護師のコミュニケーション	共著	2015年11月	「げ・ん・き」 (152) P14-17	保育園における感染症予防のために、保育者と看護師の対応方法やコミュニケーションについて、当時のまちの保育園六本木岩井久美子園長と対談形式で投稿した。